



競輪補助事業



平成20年度

シニアネット構築研究会

シニアネット・フォーラム21 in 関西

シニアネットで、実り豊かなシニアライフと活力ある高齢社会を！

【報告書】

平成21年2月

財団法人 ニューメディア開発協会

はじめに

現在、我が国には65歳以上の高齢者が約2819万人おり、実に人口比率で22.1%となっております。一段と高齢化が進み、4.5人に1人が65歳以上と言う状況であります。数年のうちには団塊の世代が高齢者の仲間入りする等、高齢化はますます進み、少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めることになると予測されております。ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになります。

こうした高齢社会にあって、旧通商産業省はかつて長寿社会対策及び情報化施策である「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、高齢者が情報技術（IT）を活用して、いつまでも生き生きとした生活を送るとともに社会のために活躍できる『高齢者自立型・参加型情報化社会』の実現を目指して参りました。

当協会は、かかる「メロウ・ソサエティ構想」を実現するため、その中心的な立場で長年にわたって様々な事業に取り組んで参りましたが、この「シニアネットフォーラム21」も「シニア情報生活アドバイザー養成事業」等と共に、まさに同構想実現のための主な事業の一つということでもあります。

かつて団塊の世代がそうであったように高齢者が人口の面でメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていくと言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者の社会での活躍が益々重要となって参ります。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、仲間とともにITを勉強し合ったり、高齢者はじめ地域の方々へのIT講習を行ったりと、地域に根差したさまざまな社会参加活動を活発に展開しております。

シニアネットは、まさに高齢者の生きがいづくりや仲間づくりに大きな役割を果たし、シニアライフを豊かで楽しいものにしております。更に、こうした活動を通して自治体等と協働（コラボレーション）し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしております。シニアネットが、高齢者にとっては勿論、自治体等にとっても極めて意義深い組織であると言っても過言ではありません。

当協会はこうした「シニアネット」の諸地域での大きな実績や成果を具に見るにつけ、かかる「シニアネット」こそ、「メロウ・ソサエティ構想」実現に、そして高齢社会の牽引になくしてはならない重要な団体であると強く確信し、「シニアネット」が全国津々浦々にあって生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務と考え、その普及・拡充に注力しております。

そこでこの度は、当協会は経済産業省や財団法人JK Aのご指導、ご支援を得て「シニアネット構築研究会」事業として「シニアネットフォーラム21 in 関西」を実施いたしました。

関西地方でのシニアネットの普及を図るべく、統一テーマ「シニアネットで、実り豊かなシニアライフと活力ある高齢社会を！」のもとに、基調講演、パネルディスカッション、ケーススタディ、交流広場の四本柱の構成とし、高齢者にとって、社会にとってシニアネットの活動がいかに素晴らしく意義深いものであるか、初めての方々にも十分ご理解いただける

よう、具体的かつ啓蒙的なものとい었습니다。

定員を上回る多くの関係者の方々のご参加を得、熱心な議論と深い交流がなされるなど、お陰様で大変有意義なものとする事が出来たものと思っております。

大阪府や大阪市をはじめご参加、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

今後、この事業の成果が広く活用され、シニアネットの新規誕生やシニアネットの活動の一層の飛躍に貢献できることを願っております。そして、かかる活動を通して地域の振興に貢献できれば幸いです。

平成21年2月

財団法人ニューメディア開発協会

目 次

1. 開催の主旨	4
2. 実施要項	6
3. プログラム構成のポイント	7
4. 実施状況	11
5. まとめ	12
6. プログラムの詳細	
主催者挨拶	13
来賓挨拶	15
基調講演	
「シニアネット・NPO 活動のすすめ ～高齢社会におけるシニアの新しい生き方～」	19
パネルディスカッション	
「シニアネットは、シニアの生き方をアクティブにし、地域に活力を与える」	31
ケーススタディ 『シニアネットが地域を支える』	
1) 「シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています」	61
2) 「シニアネットは歴史文化を継承し、地域振興に貢献しています」	67
3) 「シニアネットはコミュニティビジネスで、 シニアに、地域に活力を与えています」	73
シニアネット交流広場	83
クロージングセッション	86
付属資料	88

1. 開催の主旨

現在、65歳以上の高齢者が約2819万人、人口比率で22.1%となっており、実に4.5人に1人が高齢者である。日本の総人口は既に減少に転じている中、団塊の世代の第1陣が定年を迎え、いよいよ高齢者の仲間入りを間近に控えているなど、高齢化はますます進み、早晚2人に1人が65歳以上という時代がやってくると予測されている。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていく時代になる、と言っても過言ではない。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、今後、高齢者の社会での活躍がますます重要になってくる。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、仲間とともにITを勉強し合ったり、地域の高齢者の方々へのIT講習を行ったりと、地域に根差したさまざまな活動が活発に展開されている。

シニアネットは、まさに高齢者の生きがいがづくりや仲間づくりに大きな役割を果たしており、高齢者が培ってきた知識・技術・経験等を活かして社会参加を果たし、シニアライフを豊かで楽しいものに行っている。そうしたなかであって、地域の自治体等と協働（コラボレーション）し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしてきている。このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業の方にとっても極めて意義深い組織であると言える。

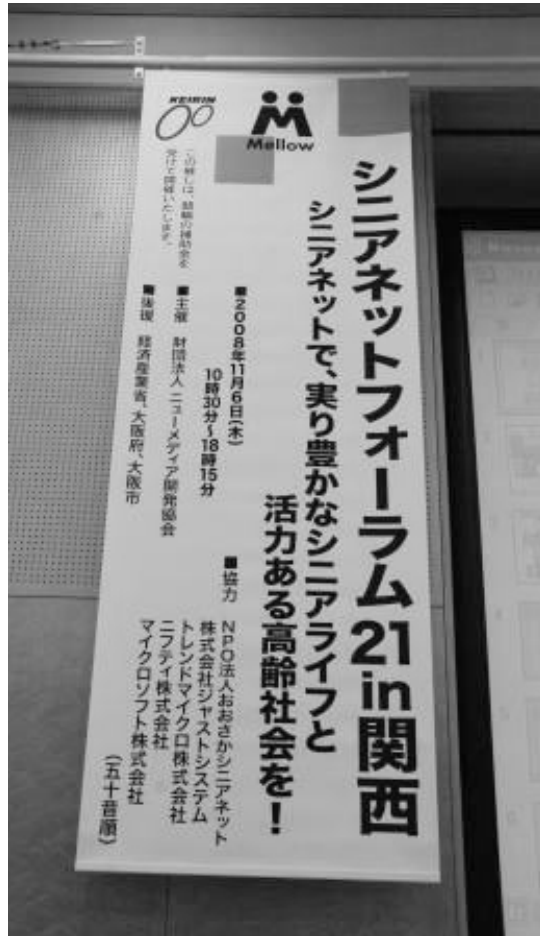
旧通商産業省が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指している財団法人ニューメディア開発協会としては、こうしたシニアネットの活動こそ、かかる構想の実現に重要と認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化してきた。こうした経緯から、当協会はシニアネットが全国津々浦々に数多くあって、高齢者が生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えている。

その為、これまで経済産業省や日本自転車振興会、シニアネット諸団体等のご協力を得て、シニアネット普及・拡充を図るべく、全国的に「シニアネットフォーラム21」を開催してきた。

そこで、この度「シニアネットフォーラム21 in 関西」を開催し、全国のシニアネットが一堂に会し、お互いの意見交流・人的交流を行う中で、特に関西地方でのシニアネットの更なる普及・拡充を図ることとした。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「シニアネットに参加したい…」「何か地域で活動してみたい…」とお考えの高齢者や団塊世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の方など、幅広い分野の方々にご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、それぞれ今後の活動につなげて頂ければと願っている。

このフォーラムをきっかけに、シニアネットの普及・拡充が一層進み、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築を加速していきたい。



会場内看板



フォーラム風景

2. 実施要綱

(1) 日時

平成20年11月6日(木) 10:30~18:15 (懇親会18:30~20:00)

(2) 会場 大阪産業創造館 〒541-0053大阪市中央区本町1-4-5

(3) 主催 財団法人ニューメディア開発協会

(4) 後援 経済産業省

大阪府

大阪市

(5) 協力 NPO 法人おおさかシニアネット

株式会社ジャストシステム

トレンドマイクロ株式会社

ニフティ株式会社

マイクロソフト株式会社

(五十音順)

(6) 定員 約150人

(7) 参加費 無料

(8) 参加対象

- ・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方
- ・シニアネットのメンバーの方
- ・団塊の世代の方
- ・シニア情報生活アドバイザーの方
- ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方
- ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリー等シニア向け商品・サービスの企画開発や販売に携わっておられる方
- ・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方
- ・その他

3. プログラム構成のポイント

開催の趣旨に即し「シニアネットで、実り豊かなシニアライフと活力ある高齢社会を！」というキャッチフレーズのもとに、これからのシニアのあり方を根源的に考え、シニアネットのより良い活動に資するものとした。

そのため、プログラムを「基調講演」、「パネルディスカッション」、「ケーススタディ」、「シニアネット交流広場」の四本柱で構成し、学びかつ発信する全員参加型を目指した。

(1) 基調講演

我が国の高齢化は急速に進み、早晚3人に1人が65歳以上になる時代がやってくる。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではない。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、高齢者の社会での活躍が益々重要となってくる。

そうした中、多くのシニアは「シニアネット」「NPO」等集い、元気に、楽しみながら、IT講習などをはじめボランティア活動に邁進し、豊かで充実したシニアライフを目指している。まさに、自ら自立し、社会を支える側に立とうと意欲的な活動をしており、シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしてきている。今後、ますます多くのシニアがこうした活動に加わることが求められている。

そこで、NPOの活動に造詣の深い学識経験者より、未だ経験したことのない少子高齢社会を何らかの形で「支える」ことが求められている高齢者が、自らのシニアライフを実り豊かなものとして切り開いていく「新しい生き方」について語っていただくことにした。

(2) パネルディスカッション

少子高齢社会にあっては、シニアが主役となって地域社会を盛り立てて行くことが重要となってくる。その中であって、多くの意欲あるシニアが結集している「シニアネット」こそ、こうした社会の牽引力になることが期待されている。

そのため、全国津々浦々にシニアネットがあって、多くのシニアが元気に活動する中、自らのシニアライフを楽しく豊かなものにするとともに地域社会を元気にしている、そういった姿を作り出していくことが急務である。

そこで、全国の著名なシニアネットの代表者や行政関係者にご登場いただき、シニアネットを立ち上げた動機・想い、設立に至る経緯や現況、そしてこれからの展望等を熱く語っていただき、シニアネットとシニアの関わり方やシニアネットの進むべき方向等について全員参加で議論し、これからの新しいシニアネットのあるべき姿を探っていくこととした。

(3) ケーススタディ

シニアネットはそこに集うシニアの設立の趣旨、目的等からITを基軸におきながらも様々な形で活動を展開し、自己実現を果たすとともに地域の発展に大きく貢献している。まさにシニアネットが地域を支えているといっても過言ではない。

そこで、『シニアネットが、地域を支える』を統一テーマとして、シニアネットのいくつかの活動について豊富な事例を交えて詳しく語って頂くとともに、全員参加型で意見交流を行い、今後の活動に生かすことを目的とした。

テーマ1：シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています

シニアネットは、その本業とも言える「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアの情報リテラシー向上を促進し、社会に活力をもたらしている。シニアネットならではのきめ細かな教え方や仲間同士で楽しく、気楽に学び合える雰囲気がシニアに喜ばれ、大きな実績をあげている。自治体との協働も進み、地域ITリーダーとして地域への貢献も大きなものがある。地域のシニアのITに対する意識を変えながら活動を進めているシニアネットは、IT普及に今や必要不可欠な存在と言っても過言ではない。しかしながら、こうした活動もあってシニアのIT人口は年々増加しているものの、未だシニアの十数パーセントと言われ、残念ながらまだまだ少ないと言わざるを得ない。

そこで、沖縄市を核にその周辺地域や那覇市等で広くシニア向けのIT講習を行い、毎年千人規模のシニアに教え、高い実績を挙げている「沖縄ハイサイネット」の事例をもとに、シニアネット共通の活動であるシニアへのIT普及活動について、シニアのIT普及を一層加速させるためにどうすればいいか、どのような方法がより効果的か、参加者全員で今後の方策について考えていくこととした。

テーマ2：シニアネットは歴史文化を次代に継承し地域振興に貢献しています

今、昭和の時代が人気を呼び、地球規模では世界遺産の動きが注目を浴びている。様々な貴重な遺産を次代に残すことの重要さに皆が気がついた。シニアには郷土の歴史や文化、自然等に通じている人が多く、そうした財産を守り、次代に引き継ぎ、地域の振興につなげることは明るい未来の礎をつくるシニアの重要な役割であり、シニアネットの大事な活動の一つと言える。

そこで、「メロウ倶楽部」の『メロウ伝承館』は、後世への文化伝承を目的としたシニアのためのコミュニティサイトであると内外で高く評価されているが、こうした活動事例を通して具体的な取り組み方について議論を深め、今後の活動の指針を探ることとした。

注.『メロウ伝承館』はWSA-JAPAN2005における『e-Culture』の部で最優秀賞を受賞。WSA-JAPAN2005は、デジタル格差の是正を狙って活動している国際連合の組織「国際連合情報社会世界サミット(WSIS)」が行う世界規模のインターネットサイト・コンテスト「世界情報社会サミット大賞(WSA)」の日本代表選考会。

テーマ3：シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアに、地域に活力を与えています

長年に亘って培ってこられた知識、ノウハウ等を生かして社会に貢献したい、できるかぎり生涯現役でいたいとするシニアは大勢いるが、そうした中、コミュニティビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつある。まさに「人材の宝庫」であるシニアネットだからこそできる活動である。

そこで、「事業型」シニアネットとして全国的に著名な「NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹」の活動事例を通して、これから、コミュニティビジネスを新たに起こすにはどうしたらいいか、また今の活動をより一層飛躍させるにはどうしたらいいか、具体的な取り組み方について提言していただくことにした。コミュニティビジネスを目指すシニアネット・NPOの方々の参加を特に期待することとした。

(4) シニアネット交流広場

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場とした。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けた。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、各シニアネットの今後の活動に必ずお役に立つものと期待している。また、自治体や企業関係者には理解を深める場とすることとした。

プログラム 11月6日(木)

10:00 ~ 10:30		受 付
10:30 ～ 10:50	開会 オープニング セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 平工 奉文氏(近畿経済産業局長) 橋下 徹氏(大阪府知事) 平松 邦夫氏(大阪市長)
10:50 ～ 12:00	基調講演	<p>「シニアネット・NPO 活動のすすめ ～高齢社会におけるシニアの新しい生き方～」</p> <p>山内 直人氏(大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授)</p>
12:00 ~ 13:00	シニアネット交流広場 休憩(昼食)	シニアネットの成果展示による相互交流の場
13:00 ～ 15:30	パネルディスカッション	<p>「シニアネットは、シニアの生き方をアクティブにし、 地域に活力を与える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 三木 健二氏(景観ボランティア明日香会長 元読売新聞論説委員) ・パネリスト(五十音順) 井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表) 塩見 信雄氏(NPO法人シニアネットひろしま 理事長) 堀池 喜一郎氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹顧問) 箕田 幹氏(財団法人大阪市都市工学情報センター 理事長) 三和 清明氏(NPO法人寝屋川あいの会 理事長)
15:30 ～ 18:00	ケーススタディ	<p>『シニアネットが地域を支える』</p> <p>テーマ1:「シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています」 課題提供者 砂川 正男氏(NPO法人沖縄ハイサイネット会長)</p> <p>テーマ2:「シニアネットは歴史文化を次代に継承し 地域振興に貢献しています」 課題提供者 布上 太三氏(メロウ倶楽部)</p> <p>テーマ3:「シニアネットはコミュニティビジネスで、 シニアに、地域に活力を与えています」 課題提供者 山根 明氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 運営ワーキンググループリーダー)</p>
18:00 ~ 18:15	クロージングセッション 閉会	総括 中西 建策氏(NPO法人おおさかシニアネット 副理事長)
18:30 ~	懇親会	

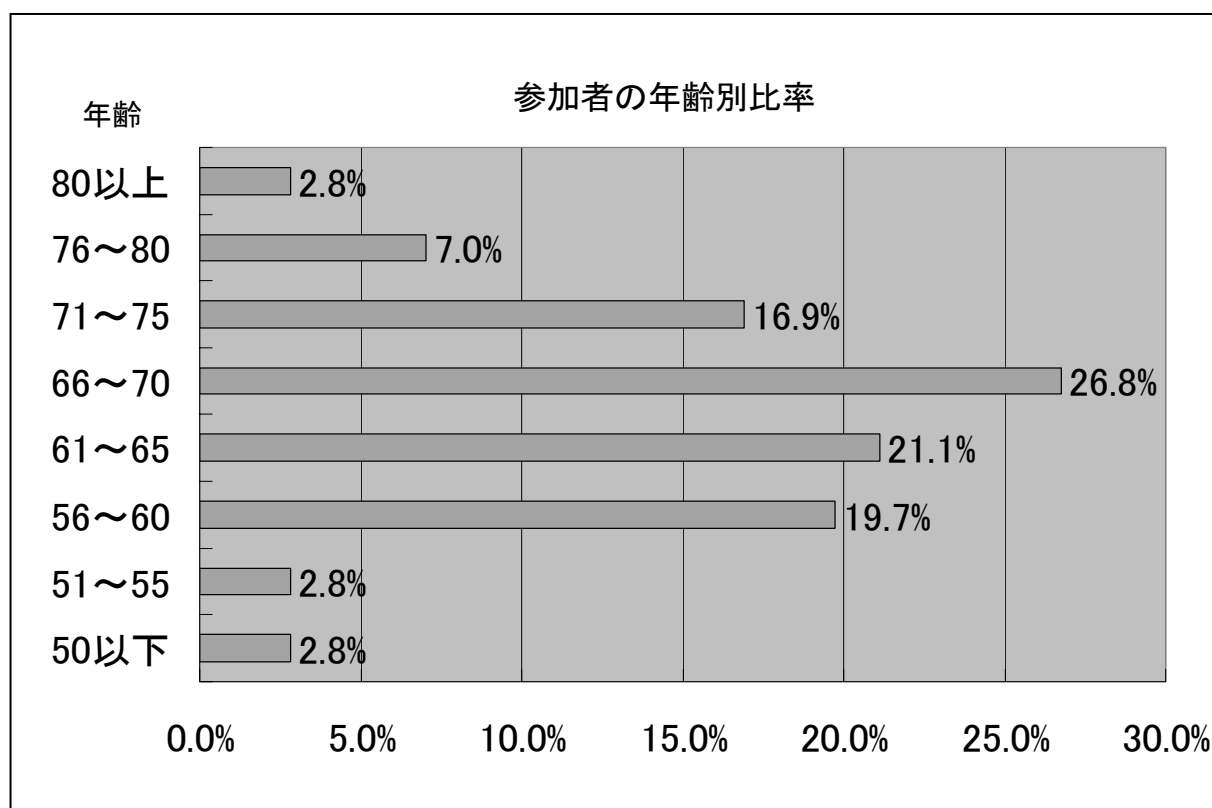
4. 実施状況

(1) 参加者状況

約170名もの参加があり、定員を大きく上回る結果となり、盛況裡に終えることが出来た。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとする事ができた。

年齢構成は例年同様61歳～70歳が48%と主力を占めた。次いで、60歳以下の方が25%を占め、特に、56歳～60歳が20%であったのは、定年後の活動としてシニアネットに対する関心が高いことを示しているものと言える。また、今回、自治体関係者の参加が約3.4%と、かなり低い結果になった。シニアネットと自治体との協働を呼びかけてきている中、大きな課題ではある。

なお、男女比率は男性67%、女性33%となっていて、女性の参加も過去最高となった。



(2) プログラムの実施概要

今回は、基調講演、パネルディスカッション、ケーススタディ、シニアネット交流広場の四本柱で行った。関西地方での現状を考慮し、シニアネットの本質について理解を深め、シニアネットへの参加を促すよう、その重要性や活動状況等を具体的な事例を踏まえて分かり易く伝える啓蒙的な内容とし、関西地方でのシニアネットの一層の普及と更なる飛躍を図るものとした。各プログラムの内容については、その骨子を別項に記すこととする。

5. まとめ

①当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況のうちに終えることが出来た。関西地方においては、大都市圏が多いにもかかわらず、各県とも数団体程度とシニアネットの存在は稀薄である。それだけに潜在的なニーズは高いと思われ、シニアネットの素晴らしさを関西一円に広く知らしめることとしたが、予想に違わず多くの参加者により熱の籠もった議論や質疑応答が活発に行われるなど、参加者の積極的な取り組みでより充実したものとする事が出来た。

今回は、関西地方での普及を加速するため、とにかくシニアネットへの関心と理解を多くのシニアや行政関係者等に深めていただきたいと考え、啓蒙的な内容とした。その結果、アンケートでは94%の方から「理解が深まった」という回答を頂いた。多くのシニアがシニアネットの活動に理解を深められたことで、今後シニアネットへの参加者が増大することを大いに期待している。

なお、3%の方から「あまり理解が深まらなかった」とのご指摘を頂いた。その中で、理解できなかったということではなく、今まで知っていることと同じだったというご意見等いくつかの貴重なご意見を頂いた。是非、次回に活かしていきたい。

②アンケート結果に見られるように、参加した動機の中では「シニアネットの活動に生かしたい」「シニアネットの参加に役立てたい」からと答えた方が74%であったが、参加された結果、その比率が85%に伸びた。これは参加する前は「シニアネットというものを詳しく知りたい」と答えた方が、参加後には「参加したい」という思いに意識が変わったと理解することができる。また、「シニアネットを設立したい」と答えた方が前後とも0%であったのは、大変残念であった。

このフォーラムをきっかけにして、多くの参加者の意識が大きく変わったと見ることが出来、一定の成果を挙げることが出来たものと思う。シニアネットに関わることを躊躇している方が15%ほどあったが、その主な理由も、現在他の何らかのグループに参加しているとか思案中であるとか、現役である等といったもので、ある意味、シニアネット予備軍と言うことができるかも知れない。

いずれにしても、本フォーラムが起爆剤となって、この地域でのシニアネットの普及や拡充につながることを願っている。

③シニアネット交流広場の出展数が過去最大の20ブースになった。19ものシニアネットや協力企業の参画を得て行ったが、内容も多岐に渡り充実していたとの評価を頂いた。「全国のシニアネットの活動を実際に見ることが出来、大変参考になった」といった感想を多く頂いた。今後の活動にお互い大いに生かしていただくことを期待したい。

一方で、「時間が短すぎる」とか「参加型を望む」と言った貴重なご意見を頂いた。事務局としてもこの点は心がけているところであり、とにかく、シニアネット同士がこの場を生かして相互に刺激しあい、一層促進されるよう事務局として更なる充実を図っていきたいと考えている。

6. プログラムの詳細

■オープニング・セッション

主催者挨拶(要旨)

岡部 武尚

(財団法人 ニューメディア開発協会理事長)

皆様 おはようございます。

今回のフォーラムは、第10回目でございます。大阪市で開催させていただきましたところ、このように大勢の方々にご出席をいただきまして、まずもってお礼を申し上げたいと思います。

さて今や我国の少子高齢化というのは、世界でも類を見ない高速で最速で進展しておりまして、皆様ご承知のとおり、65歳以上の人口が現在2819万人で全人口の22.1%を占め4.5人に一人が65歳以上と

なっております。ちなみに私も65歳になりまして、前期高齢者の仲間入りをしたところでございます。

またこの2007年からは、団塊の世代の方々の第一陣が定年を迎えまして、このシニアの仲間入りしております。このような中で、2030年には現在の労働人口6657万人が、1070万人も減少すると言われております。

このような状況下にあって高齢者が第一線で働き続けることが必須であります。シニアの活動なくしては日本の成長は維持できないと考えるのでございます。

このような社会の変化 大きな流れを先取りいたしまして、私ども財団法人ニューメディア開発協会では平成2年からメロウソサイティ構想を提唱いたしました。高齢者がITを活用しまして、いつまでも円熟した活気のある老後を送り、また社会に貢献できるような、高齢者自立参加型の情報社会をつくるという構想でして、このフォーラムもこの構想の一環でございます。

現在シニアネットの数は全国で115団体ございます。今年度は新たに8団体増えておりますが、関西圏におきましては、全体の人口に比べますと「まだまだ少ない」状況でございます。

このシニアネットの中核をなすシニア情報生活アドバイザーは、今年度は250名増えまして現在2850名が、全国津々浦々でコンピュータのトレーニングや研修、ボランティア等で活躍されております。



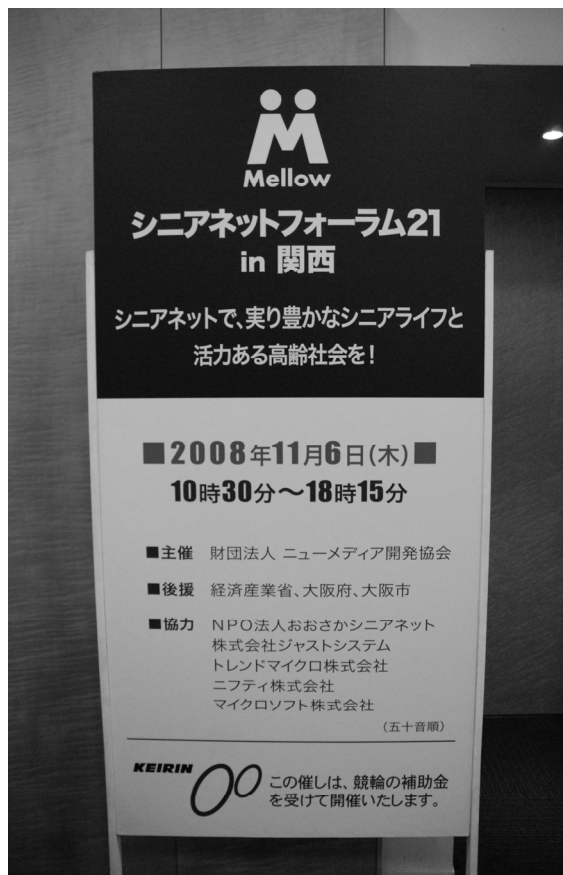
このフォーラムにて、ご参加の皆様方の交流を深めていただき、是非とも今日の成果を、日ごろの新しい生活や活動の参考にされまして、高齢化時代を豊かに生き抜いていただきたいと思います。

各セッションにご出席いただく講師の方々、遠路よりご参加いただきました方々に心より感謝を申し上げます。

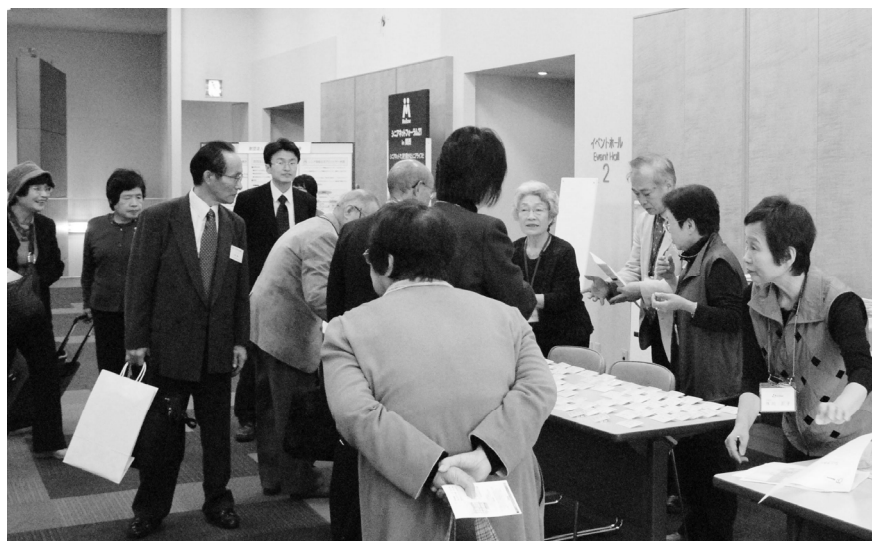
また今日のフォーラムをきっかけとしまして、多くのシニアネットが関西に生まれますよう切に期待をいたしまして開会の挨拶とさせていただきます。



会場の大阪産業創造館



開催案内の看板



受付風景

■オープニング・セッション

来賓挨拶(要旨)

近畿経済産業局長 平工 奉文氏

代読 近畿経済産業局 地域経済部長 尾沢 潤一氏

近畿経済産業局地域経済部長の尾沢でございます。

本来ならば、局長の平工が直接ご挨拶を申し上げるところですが、所用のため出席できませんので、私が代わってご挨拶をさせていただきます。

本日、シニアネットフォーラム21 in 関西が、全国各地から多数の皆様にご出席いただき、盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

平成13年から、毎年、全国各地で開催されている本フォーラムが、今回初めて関西で開催されるということは、大変喜ばしいことだと思っております。先ほど、主催者の岡部理事長や、この後基調講演をしていただく大阪大学の山内教授と久しぶりにお会いしまして、私も何かこのシニアネットフォーラムと深い因縁を感じたところでございます。

さて、我が国では高齢化が進んでおり、それに伴って産業構造や企業の体質が変わってきております。私ども経済産業省といたしましても、少子高齢化を迎えた日本の将来がどうあるべきかが、非常に重要であると考えております。そこで、キーワードの一つとして重要視しているのが、経済成長でございます。やはり、国が安定するためには、経済構造の改革とともに、ある程度の経済成長が期待されないと、その社会にいる方々が幸福になれませんので、そのためにはどうするのか、非常に重要な課題でございます。人口が減っていくのは間違いのないことですが、その状況の中で、よく言われるように生産性の向上を実現できる施策を進めていくことが重要と考えております。

先頃閣議決定されました「新経済成長戦略2008」でも、その点を重視した書き方をしております。この中で、具体的な対応策として、地域コミュニティの再生とIT利活用による地域活性化などを挙げておりますが、まさに本日お集まりのシニアの皆様方の活力が重要だと思っております。その意味で、本日開催されますシニアネットフォーラムは、まさしく時宜を得た活動であり、当局といたしましても協力をさせていただきたいと思っております。

「新経済成長戦略2008」の施策の一つに、新現役チャレンジプランがございます。これは、社会貢献の意欲が旺盛なシニアの方々のネットワークを作り、中小企業の発展をご支援いただくというものでございます。それからもう一つは、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの分野でございます。海外では随分発達しているといわれておりますが、日本でもいろいろな試みがされており、経済産業省でも若干なりとも予算的な支援をさせていただいております。この



分野でもご協力・ご活用いただければと思っております。

本日のシニアネットフォーラムは、朝から夕方まで、まる1日の長丁場の会議で、大変かと思いますが、是非この会議が皆様方の全国規模のネットワーク作りに貢献されることを祈っております。

最後になりましたが、シニアネットフォーラム21in 関西のご成功を祈念いたしますとともに、本日ご列席の皆様方のますますのご健勝・ご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



■オープニング・セッション

来賓挨拶(要旨)

大阪府知事 橋下 徹氏

代読 大阪府健康福祉部高齢介護室介護支援課長 平岩 勝氏

只今ご紹介をいただきました大阪府で介護支援課長をしております平岩でございます。

第10回目と言われます記念すべきシニアネットフォーラムが大阪で開かれたことにつきまして大変うれしく思います。また本日は大変なご盛会ということでおめでとうございます。

本来でございましたら私どもの橋下徹大阪府知事がこの場に駆けつけまして、お祝いの言葉を申し上げるところ

でございますが、それができませんので、私が挨拶の代読をさせていただきます。

本日このように日頃全国でITを駆使して地域貢献活動されているシニアの方々が一同に会され、シニアネットフォーラム21in関西が盛大に開催されましたことを心よりお祝い申し上げます。

主催者の財団法人ニューメディア開発協会ではこうしたフォーラムを全国各地で開催されるほか地域における情報通信技術の普及の担い手であるシニア情報生活アドバイザーを養成する事業を実施するなど、NPO法人おおさかシニアネットとともに、シニア支援だけではなく情報社会の地域貢献にも積極的に取り組まれており頼もしく思っています。少子高齢化が進む中で元気な大阪を創り出していくため戦後生まれの団塊の世代を含めたシニアのパワー、とりわけ皆様方のような地域で活躍されている方々の力に大いに期待をしております。

大阪府では昨年よりアクティブシニアがあふれる大阪構想に基づき、これから高齢期を迎える人々も含めたシニアの方々の意欲ある人材の発掘や養成などの事業を展開しております。また9月からは毎月15日を、すべてのシニアができることから1歩前に進むきっかけを作る日として、アクティブシニアの日を定めたところでございます。

大阪府としましては、企業やNPOとともに力を合わせ、今後もシニアの活力を遺憾なく発揮できる環境づくりに向け積極的に支援を進めて参ります。

本日のフォーラムをきっかけとして、シニアの地域活動がさらに進むことを願い、財団法人ニューメディア開発協会をはじめ関係団体の皆様方のご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



■オープニング・セッション

来賓挨拶(要旨)

大阪市 市長 平松 邦夫氏

皆さんおはようございます。大阪市の平松でございます。

本当に多くの皆様がお集まりの財団法人ニューメディア開発協会主催のシニアネットフォーラム21in 関西が、このように盛大に開催されておりますことを心からお喜び申し上げますとともに、大阪で開いていただきましてありがとうございますという気持ちでございます。

ニューメディア開発協会は経済産業省が推進されますメロウソサエティ構想の実の強力なパートナーである全国各地にいらっしゃるシニアネットの連携強化を目指して開催されていると聞いております。

私も今月あと数日で還暦を迎え、堂々たるシニアの仲間入りになるなと思っております。

そんな中で、これから先の人生、65歳以上の人をどう見るか、単に年取ったというだけでなく、豊かな人生経験をお持ちだということとそれプラスもうひとつ、まだまだ開発されていない脳がたくさんあるのではないかというような気もします、というのは、6階の交流広場で、各地のシニアネットの活動を見せていただきますと、なかなかすばらしい動きをされております。

私自身パソコンが好きでいつもインターネットを触っております。高齢になり身体がいうことが利かんようになってきたら、あと残っているのは脳です。脳をどんどん活性化していけば、皆さん、私も含めてのことですが、開発されていない部分を刺激して、新たな芸術や新たな文学が生まれてくるかもしれない。

それが大いなる錯覚であると自分で気が付いた時、逆に高齢者の中で、そういった能力をどんどん開発した方の素晴らしい芸術に触れる瞬間があるかもしれない。そういう楽しみを今どんどん感じております。

日々そういう楽しみが増えつつある最前線に皆様がいらっしゃる。そのように思います。ITでそういった刺激を受けながら新しいチャレンジをされていく、それと同時に世代間交流を積極的に行えるツールでもあると私は信じております。

大阪ではここ産業創造館に、大阪市としてもものすごく力を入れており、市の政策推進ビジョンとして、これからはものづくりの大阪から、売りづくりの力添えをやるで、というふうに言うております。

また、「誰もが元気にいきいきと暮らせる、住んでよかった大阪」を目指してまいりたいと思っております。

シニアネットフォーラム21in 関西が、みのり多いものになりますことを祈念申し上げ、皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げまして私のご挨拶とさせていただきます。



■ 基調講演

「シニアネット・NPO 活動のすすめ ～高齢社会におけるシニアの新しい生き方～」

山内 直人氏

(大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授)

おはようございます。ご紹介いただきました。大阪大学の山内でございます。

シニアネットフォーラム21in関西でお話をさせていただく機会を与えていただきまして、大変光栄に存じます。

私は1955年、昭和30年の生まれでございます。ですから今来られている多くの方々は私から見ると大先輩と言う事になるわけです。私は団塊の世代の後、その巨大なパワーの後を追いかけている世代であります。卒業生活の前半は、官庁勤めをしております、今の内閣府、その当時は経済企画庁というところで20代30代の時期を過ごしました。

その時に、社会参加というということを取りあげ、これはシニアに限らないですが、国民の社会参加を促すためにどのような政策を取ったら良いか、NPO活動を活発化させるためにどのような政策とるか、ということやっておりました。30代の後半に、大阪大学に戻ってきて、そのまま大阪大学で教えているわけです。

今私が属しております、国際政策研究科と言いますのは大変長い名前でございますが、社会人大学院の一つでありまして、大学院の学生の中には、私よりも一回りぐらい上の世代の学生が、リタイアした後、修士号、博士号を取るために、勉強をしているというような大学院です。

今日は、高齢社会におけるシニアの新しい生き方ということについて、お話したいと思っておりましたが、ちょっと題名を変えまして、「成熟市民社会におけるシニアの役割」というお話をさせていただきますと思います。

昨日のアメリカの大統領選挙への投票開票が行われまして、ご存知のようにバラク・オバマさんが第44代大統領になったと、今朝の朝刊やテレビではこのニュースで持ちきりでありました。

昨日どんなお話をさせていただくかということを考えておりましたが、大統領選挙の意味というものをお話させていただきます。ご存知のようにアメリカの大統領選挙の予備選が始まりましたのは、今年の初め1月だったと思います。アメリカは4年ごとに大統領選挙がありますので、その4年ごとの大統領選挙の中間の時期に、中間選挙があります。



米大統領選が終わって

- 予備選以降の長期にわたる選挙戦
- 莫大なコストと労力を投入
- 米国人はなぜ積極的に政治参加するのか？
- 投票は「米市民」の権利であり、義務である
- 投票だけでなく、寄付・ボランティアを通して「民主主義」に参加すること
- 「シティズンシップ」という考え方

その折に、民主党共和党の候補者が次第にあぶり出されてくるというというような仕組みでございます。

大統領選挙を見ておりますと、どうしてこんなに長い時間をかけて行うのか、またアメリカの国民はどうしてこんなに大統領選挙に熱狂するのかわからない。私は、アメリカ人の友達にも、このことについて聞くのですが、その時にいろんな説明があるのですが、本当の意味で分かっていないのだと思います。アメリカ人は、投票すること政治に参加するということは、アメリカ市民にとって権利であり義務だということをよく言います。

日本でも投票は義務だという言葉をよく聞くのですが、アメリカでは選挙の支持者のキャンペーンにボランティアとして参加したり或いは、お金を寄付したり、また候補者になると思われる人に、自分たちの考える政策をアピールしたり、寄付する。そういう活動全てが、国民の権利だという風に考えられている。実際、私の友達でヒラリークリントンを強烈に支持していた彼は、ヒラリークリントンが劣勢になった後も、かなりの額のお金を寄付しています。クリントンさんの事務所から、今資金がなくて大変だと、オバマさんに資金力で圧倒されそうだというボランティアの電話がかかってきてそれに対して、こたえるために、なけなしのお金をみんな寄付するわけです。

ですから、キャンペーン期間中に、ボランティアとして集まる人たちが沢山いますし寄付をする人も大変沢山います。それによってアメリカ人は民主主義への参加を、身をもって体験する、という話をアメリカの友達から聞くことがございました。民主主義とかシチズンシップと言う言葉、これは、なかなか日本語になりにくい言葉であります、市民としてのあり様という意味だと思のですが、こういうことがアメリカの市民の言葉から普通に出てくるわけです。

日本では、シチズンという言葉を使うと大変書生ポク捉えられてしまう。このような言葉が、普通に使われているというのがアメリカの社会であります。これが、アメリカ人の政治へのコミットの仕方ではないかと考えております。

アメリカ人がどういう形で、政治に関わっているか、民主主義を実現しているか、非常に大きな役割を果たしているのが市民セクター、日本ではNPOと言われておりますがNPO・NGOが、無数の大きなものから小さなものまで社会に根づいている。何か政治家にやって欲しいこと、政府にやって欲しいことがあると、NPOを作りそのNPOを通じて、自分たちが実現したい政策をアピールしていくことが、日常的に、行われております。今日は、シニアネットフォーラムということですので、それに関わるNPOの例をお話したいと思います。

AARPという巨大なNPOが、アメリカにはあります。多分、ご存知の方も多いとは思いますが、AARPという言葉聞いたことがある方はどのくらいおられますか。このAARPは1958年、ちょうど50年前に設立されたNPOです。退職した学校の先生、校長先生だと思いますが、退職した先生を訪ねていったら、なんていますか、大変貧しい家で、身寄りもなく悲惨な生活をしていた。これをなぜ政治はほっておくのかという、非常な怒りを感じ、この団体を設立したと言われております。

NPOの力:AARPの例

- 1958年設立、世界最大のシニア団体
- 全米の50歳以上、3700万人の会員を組織化人口の半分近く、カトリック協会に次ぐ規模?
- 年間予算:12億ドル(1千億円超)
- 年会費12.5ドル、会員価格での保険・旅行の提供
- 雑誌「AARP Magazine」2千万部以上
- スタッフ:2千人以上、うちロビイ部門200人

世界最大のシニア団体です。アメリカの正会員になるには50才以上というルールがあります。会員は、3700万人。アメリカのこの世代の半分近くが、このAARPの会員になっております。AARPの意味はどのような略かという、全アメリカのリタイアード・パーソン（退職者）と言う事で日本では、アメリカの退職者協会、ある時に、年齢制限65才だったのも55才に下げ、退職する前の方も会員に加えた、退職者協会と言う名前をやめて、AARPという4つの文字が正式な名称になったと聞いております。

大変な巨大な団体で、カトリック協会に次ぐ会員規模であると言われております。年間予算が、12億ドル、1000億円を超えるような規模で、私の在籍する大阪大学の予算規模が、確か900億円ぐらいだったと思いますので、一回り大きな予算規模の組織ということになります。1人当たりの年会費は非常に安く12.5ドルを、クレジットカードか12.5ドルと書いた小切手で毎年送れば会員になることができる。なぜこれだけの会員規模を集めることができたのか。今風にいうと、大変魅力的なキラーコンテンツを持っている。何かというと、その会員規模をバックにして、保険会社と交渉して普通であればあり得ないような価格で会員向けに保険を販売する。或いはバック旅行を旅行会社と提携して、安い会員価格で販売する。年会費の12.5ドルというのは、年に1回、そういうサービスを使うと、元がとれてしまう。それが売りになって4000万人近い会員規模を持つようになった。つまり規模の利益を遺憾なく享受するような、そういうビジネスモデルをAARPは持っているということであります。機関紙は2000万部以上で発行、全米の支部に、2000名以上もフルタイムのスタッフがいます。その他にこのすごい数の会員がボランティアとして働いている。この団体をなぜ紹介するかというと、この2000名のうちに、200名がロビー部門と書いてありますが、ロビー活動に、アメリカの政治では、よくロビイストが出てきますが、そのAARPで働く数十人のロビイストを支えるサポートの部門だけで200人のスタッフがおります。

AARPは、高齢者、シニアのためのサービスを提供するというのが一番大きなミッションですが、それを実現するために、非常な政治力を持っている。アメリカ最強の圧力団体であるといわれております。アメリカの政治的な力を持っているNPOがもう一つあります。よくマスコミに出てくる全米ライフル協会です。全米ライフル協会は、銃の規制に反対するような政治的な活動を活発に行っております。

話は脱線しますが、全米ライフル協会のホームページを見ますと、銃が人を殺すのではなく、人が銃を使うのだ、というようなことがホームページの、トップに書かれております。この団体並ぶくらいの政治力を持っているのがAARPです。

1960年代に二つの大きな制度ができました。ひとつは雇用における年齢差別禁止法、これは、AARPが高齢者の雇用差別をなくすために非常に強い政治的なリーダーシップを発揮するロビー活動を行い成立させたと言われております。日本ではまだこのような制度ありませんが、アメリカのこの動きを受けて、ヨーロッパのいくつかの国では、これと同じような年齢差別禁止法を作っております。

もうひとつが1965年に成立しましたメディケア法です。アメリカでは日本のように国民介護

AARPの政治活動

- アメリカ最強の圧力団体の一つ
- 規模にものを言わせた強大な「発言力」
- 例：1967年雇用における年齢差別（禁止）法
Age Discrimination in Employment Act
- 例：1965年メディケア（Medicare）法の制定
- 大統領選にも大きな影響力
HPにはオバマとマケインの動画メッセージ

保険等ありませんので、基本的には、自分で民間の保険に入って、病気とかけがに備えるというのが基本です。メディケアというのは、高齢者向けの保険、メディケリドというのは、貧困者向けの保険ですけれども、高齢者と貧困者については、制度としてメディケア法が制定されました。このメディケア法の制定にも、AARPは非常に大きな力を発揮したと言われております。今回の大統領選挙でもこのAARPは非常に大きな力を発揮しております。アメリカのシニア層を代表して、オバマさんとマケインさんそれぞれに、あなたが大統領になったら、この制度についてはどうしますかという詳細な公開質問状送って、この回答を、ホームページに公開しております。

それから、同じくAARPのホームページにオバマさんとマケインさんにそれぞれの単独インタビューした様子を動画で見ることができます。この動画を見ると、2人の候補者、リップサービスもあると思いますが、両者が、アメリカの高齢者ために、どういうことするか、率直に語っております。

AARPは、非常に大きな団体で政策提言もするための調査についてもものすごい数の労力を割いていて、例えばある制度を作る、ある税制を変えるという時に、高齢者にとって、どういうインパクトがあるか、どう思っているか等、経済学や政治学の専門家が分析をして、こういう政策提言をされるといい、ということを出してしております。

日本ではこのようなことのできる機関がないと思います。例えば、話題になりました後期高齢者医療制度に対し、いろんな混乱あったわけですが、後期高齢者という名称の印象が非常によくないのではないかと、或いはただでさえ少ない年金から天引きされるというのは非常に抵抗があるとか、どちらかという、表面的な議論に終始したのではないかと思います。

我々、研究者の責任もあると思うのですが、アメリカであれば、AARPがリーダーシップをとって、制度を開始したら、どういうふうなインパクトがあるか、改正したらどのような層どのような影響があるか等、政策提言を出したのではないかと思います。

科学的、客観的な政策分析、提言ができるような体制が日本では取られていない。そういう事のできるNPOが、残念ながら、日本にはまだ存在しないのではというふうに思います。効果のあるアドボカシーやロビー活動ができていないと思います。

アドボカシーという言葉が出てきましたが、これもなかなか日本語になりにくい言葉ですが、多分ネット等調べると、政策提言とっていうふうに出てくると思います。またあとで説明したいと思いますが、全体として政治家や政党に対するアピールが非常に弱いのが、日本のNPOの特徴ではないかと思います。

アドボカシーという言葉について少し説明させていただきますと、政策というのは、一見してどちらが正しいということはなく、通常は、複数のオプションがあって、消費税重視でいくのか所得税重視でいくのか、あるいは人工中絶反対するのか賛成するのか、いろんな対決する政策があると思うのですが、成熟した市民社会では、それぞれの政策をサポートするような活動をN

日本の場合

- たえば後期高齢者医療制度をめぐる混乱
- 「名称」や「年金からの天引き」の是非をめぐる表面的な議論に終始
- 科学的な政策分析の欠如
- 効果のあるアドボカシーやロビー活動できていない
- 政治家、政党へのアプローチの弱さ

5

POがしていて、アメリカでは、それぞれの対決した意見を支持する団体が、政治家に接触して支持する意見のロビー活動を行い、政策が実現するように働きかけるわけです。そういうことを総称してアドボカシー活動というに言っています。

日本でアドボカシー活動しているNPOというのはそんなに多くはないのですが、一つ最近マスコミに出てくる、言論NPOというのがあります。

この団体は、ホームページによると、日本が直面している様々な問題の対案を提案する。政策の評価、監視する、有権者に判断材料を提供するのがミッションであると掲載されております。

最近よく選挙の時に候補者が、マニフェストというのを制作しておりますが、このマニフェストの評価をするというようなことをこの団体は行っております。

言論NPOというのは、特定の政策を支持するということではなく、客観的な目で政策の善し悪しを比較する。それによって、有権者が判断の参考にできるような情報を提供する、というのが役割であります。

何年か前に、日本と中国の関係が非常に悪かった時に、この言論NPOは、東京と北京で、中国と日本の有力な政治家を集めたフォーラムを開催しています。おそらく、政府がリーダーシップをとって、そのような対話の場を設けるというのは、その当時の中国と日本の関係では非常に困難な時期で、こういうNPOが、そういう場を設定したというので、国とかでも話題になった団体であります。そういうアドボカシーというのが、アメリカとかヨーロッパの市民社会では、重要な役割を果たしているのですが、日本の場合には、非常にそのような活動が弱いではないかということでもあります。

日本の市民社会全体にとっても、シニア団体、シニア向けのサービスを提供する団体だけ団体を取っても、同じようなことがいえるのではないかと思います。よく言われるのは組織力が弱いとか、財政基盤が脆弱だとかということもあるのですが、それと並んでアドボカシーの力が弱い。政治・行政へのアプローチ力が非常に弱いと言われております。その裏には、専門性が低い、専門スタッフを雇うだけの財源がないというようなことがあると思います。草の根的な小さな団体が多いという状況を何とかして脱しないとシニア向けの政策形成について、リーダーシップをとることがなかなかできないのではないかと危惧をしております。

それと並んで、企業の退職者が、十分に組織化されていない。団塊の世代の退職がすでに始まっているわけですが、そのあたりの組織化が十分に行われていなくて、非常に小さな規模の団体が、群雄割拠するような状態にとどまっていると考えています。もうひとつには、現に働いている人向けのサービスや経営側との交渉を一番重要なミッションとしている労働組合が、退職を迎

アドボカシー: 言論NPOの例

- ミッション: 日本が直面する様々な課題解決のための対案を提案し、有権者が自ら政治を選択できるように国や政党の政策の評価や監視を行い、有権者に判断材料を提供する
- マニフェストの分析を通じた政策評価
- 東京・北京フォーラムなどを通じた国際対話の推進

日本のシニア団体

- 組織力が弱い、財政基盤が弱い
- アドボカシー力が弱い
- 専門性が低い、専門スタッフの不足
- 草の根からの脱却必要
- 企業の退職者が十分組織化されていない
- 労働組合の潜在的役割大きい

えた雇用者、退職したあとの雇用者向けのサービスというのも提供する余地があるのではないかと考えています。

我々から見れば、労働組合もNPOの一種だと思うのですが、そのあたりの意識も非常に弱いところがあるのではないかと考えております。

次に少し見方を変えてシニアの役割についてお話ししたいと思いますのですが、私が最近、研究しているテーマに、ソーシャルキャピタルというのがありまして、ここに書いてあるような三つの要素が大切だと言われております。

一つはネットワークです。人と人との繋がり、二つ目に互集性の基盤、互集というのは、有体というと、お互いさまということで、冠婚葬祭の時に隣近所が助けてくれる、また、葬儀等の時にはお隣に協力するというような、相互扶助のシステムだと考えていただければいいと思います。

三つ目は、信頼です。コミュニティのメンバー同士の信頼関係がどうなっているか。この三つぐらいの要素を備えた社会がいろんな経済活動とか、社会的な活動がうまくいくと考えられています。日本の各地の経済活動を見ても、あるところはコミュニティビジネスが盛んで、経済再生に成功しているところもあれば、そういうことができていないところがあるし、企業でも会社の中の情報交換が大変うまくいって高い業績を上げているところがあれば、そうでないところもあります。そのような違い

というのは、いろんな要因があるのですが、ソーシャルキャピタルが豊かかどうかによって説明できるものもかなりあるのではないかと、最近いろんな研究者の間では言われているようになっています。

もともとこのことを言い出したのは、アメリカの政治学者で、ロバートパットナムという方がソーシャルキャピタルという概念を一般の人の間でも広めた。最初は南北格差の大きな国、イタリアは、なぜ、南が発展せずに北が発展したのか。北のミラノとか地域は、政府と住民の交流が非常に活発で信頼関係もある。南はそうではなく、コネとか、賄賂というものがはびこっていて、ソーシャルキャピタルの乏しいさがこのパフォーマンスの違いを生み出した、ということをも主張したわけです。

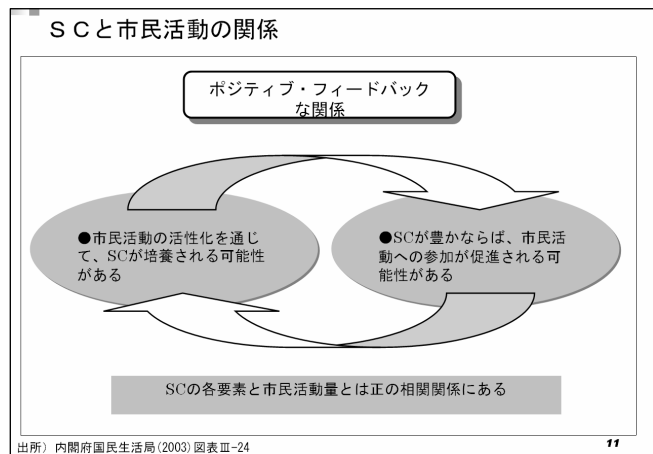
シニアとソーシャル・キャピタル

「ネットワーク(社会的な繋がり)」「互酬性の規範」「信頼」といった社会組織の特徴で、人々の協力関係を促進し、社会を円滑に機能させるもの。

(資料)内閣府国民生活局2002

政治学者パットナムの主張

- Putnam, Making Democracy Work (1993)
イタリアにおける、南北のSC蓄積の違い
州政府の制度パフォーマンスの差
信頼、規範、ネットワークなどの重要性
- Putnam, Bowling Alone (2000)
孤独なボウリング、アメリカのコミュニティの崩壊、SCの衰退



同じような論等でアメリカ社会についてはアメリカのコミュニティが崩壊しているのではないかと彼はいいました。アメリカでは、ごく普通の家庭同士がポップコーンをつまんで、コココーラを飲んだりしながら皆でわいわい交流を深めるという一般的なアメリカ人の交際の仕方であるわけです。彼の主張によると、1人で来て靴とボールを借りて、黙々とボウリングをして帰っていく人達のことっております。これがアメリカのコミュニティの崩壊、或いはソーシャルキャピタルの衰退を象徴的に、主張しまして、かなり衝撃を与えた一幕であります。

なぜそういうことが起こっているのか。或いは他の国ではどうなっているのか、という研究が急速に行われるようになりました。

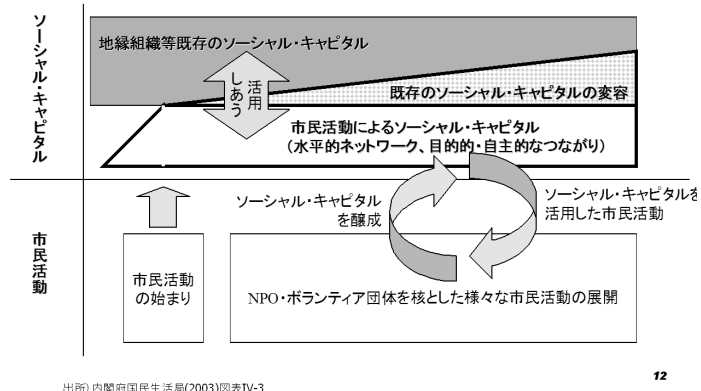
我々の研究グループでも、日本でも実際にそのようなことが、起こっているのか、調査したことがあります。

NPOとNGOの活動の中で、ソーシャルキャピタルがどうなっているのかを中心に、我々は研究をしております。ボランティア活動とか、地域活動が活発であるところではソーシャルキャピタルが豊かである。ソーシャルキャピタルが豊かであるところは、市民活動やボランティア活動が活性化しやすい、というような研究結果を出したことがあります。ですから信頼とかネットワークとかに代表されるようなソフトなインフラが、コミュニティの重要な触媒的なインフラが、市民活動とかなり結びついているとわかったわけでありまして。なかでも自治会とか町内会とか老人会とか婦人会とか、支援団体の活動をベースにしたような活動は、大都市でも地方でも、だんだん弱体化していて、それに代わってテーマ別の活動、例えば環境問題だとか、外国人の人権の問題であるとか、テーマ別に組織されたような団体、ボランティア団体であったりNPOであったり、そういう活動が中心になったソーシャルキャピタルは最近では発達してきている、ということが分かってきています。

ソーシャルキャピタルというものがなんで重要かということ、アメリカでも、ブッシュさんも、ソーシャルキャピタルの重要性といったものを話しておりますし、その前のクリントンさんも、ソーシャルキャピタルの重要性を言っております。それは、ソーシャルキャピタルが政府ではできないような、或いは政府がやろうとすると、コストがかかるようないいパフォーマンスを生み出すからであるというふうに言われております。

例えば、犯罪を防止しようとする、行政が直接的にやる場合、交番の数をふやしたり、パトカーの巡回の頻度をふやしたり、そういうことでありますが、これには非常にコストがかかるわけです。しかし、よく言われるのは、近所つき合いが非常に濃密でよそのものが、そのコミュニティに入ってきたときに、容易にわかるようなコミュニティであれば、それは自然に犯罪防止の効果を持っているということになります。或いは、私の住んでいるマンションであれば、知らない

SCと市民活動のメカニズム



出所)内閣府国民生活局(2003)図表IV-3

12

ソーシャル・キャピタルと犯罪の抑止

- 豊かなSCが犯罪発生を抑止する可能性
- 日頃の近所づきあいでもそ者を察知
- 「割れ窓理論」
- 地域防犯マップの作成
- ガーディアン・エンジェルス”Dare to Care”

13

人が、エレベーターに乗ってきたときに、挨拶をするような習慣があります。そのようなことのあるマンションと、そうではないマンションでは、防犯上の役割は、非常に違うと思います。何か犯罪をしようという目的をもって来た犯罪者が、挨拶をされると、顔が見られて認知されているというふうにプレッシャーを感じるわけですから、犯罪者会学の人たちからすると、犯罪抑止に役立つと言われているようです。

ソーシャルキャピタルと犯罪というのは非常に深く結びついていて、犯罪抑止効果がある。

次のスライドですが、都道府県別のソーシャルキャピタルの豊かさと、犯罪件数をグラフにしたものです。

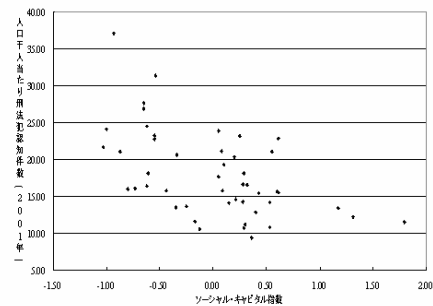
右下がりの関係にあるということがわかると思うのですが、ソーシャルキャピタルの豊かなところでは、犯罪の発生率が低い、ということがデータでも裏付けられます。

それから、防災時について見ても、何か地震とか、災害時に、隣近所との日常的なつき合いが濃密であれば、被害を最小限に食い止めることが可能になる。ですから、日頃から支援組織とか。消防団とか、自主防災組織とか活動が非常に組織化されていて、活発なところというのは、防災上効果があると言われております。地震だと、何十年に1回しか起こらないことですから、日常的に、公務員を雇って組織を作るということは、大変コストがかかることですから、何かあったときに、被害を救済する組織が立ち上がる仕組みを、日頃から備えておくことは、あまり行政コストを高めずに、防災に強いコミュニティを作ることができるやり方ではないかと思えます。

もう一つですが、ソーシャルキャピタルは、健康とか医療の面でも高い効果を持っていると言われています。

私は、医学の専門家ではないですが、医学の中で、社会疫学ソーシャルエピノロジーという分野がある。そういう分野の先生方と話していると、ソーシャルキャピタルが豊かな地域と

SC指数と犯罪発生率の関係



ソーシャル・キャピタルと防災

- 隣近所との日常的な付き合いの重要性
信頼関係とネットワークの醸成
- 地縁組織(自治会・町内会)の役割
- 災害時の消防団の役割
- 災害時の自主防災組織の役割
- 災害復興におけるNPO・ボランティアの役割

15

ソーシャル・キャピタルと健康

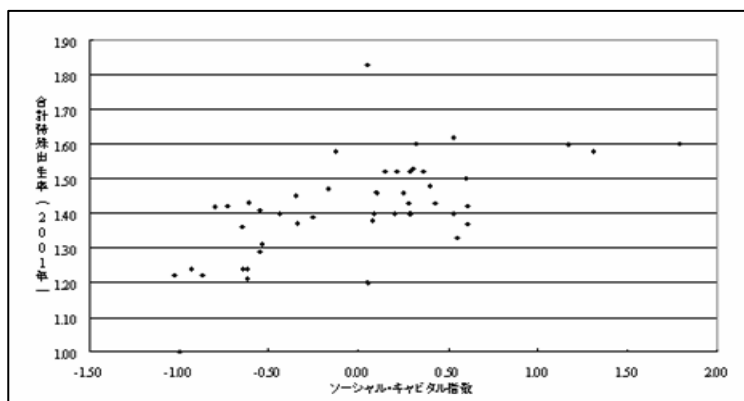
- 社会疫学(Social Epidemiology)の観点
- SCが平均寿命を延ばす
- SCが出生率を高める
- 地域ネットワークと相互扶助
- 社会的ストレスの緩衝材
- 健康と幸福感の向上

16

というのは、平均寿命が長かったり、或いは出生率が高かったり、そういう健康・医療の面でも好ましい効果があると言われております。

どういうメカニズムでそうなっているのか、必ずしも解明されていないわけですが、例えば、地域のネットワークで人間ドックの受診率が高くなる。受診しない人がいると、誘いあって健康診断を受けに行くようになる。或いは、そういうコミュニティが大変仲が良くて、阻害されていないということであれば、それが、社会的ストレスを緩和されるような効果を持っている。いろんなことが考えられている。

次のグラフは、出生率とソーシャルキャピタルの豊かさをグラフにしたものです。右上がりの関係にありますので、ソーシャルキャピタルが豊かな地域では出生率が高いということがデータでも裏付けられている。おそらく地域で子育てをサポートするような仕組みが介在しているのではないかと考えています。



SC指数と出生率の関係

あともう一つ、ソーシャルキャピタルと情報技術、インターネット等の情報技術の関係でも研究が進んでおります。ITの発達がソーシャルキャピタルを育てるのか、或いは破壊するのかということで、いくつかの議論があります。

これはですね、伝統的な近所つき合いとか友達つき合いに影響をあたえるかということになると、おそらくマイナスであろうと言われております。

1日の内で、おそらく2時間3時間パソコンの前に座っているような生活を考えていただければわかると思いますが、生活時間が24時間は変わらないわけですから、ソーシャルキャピタルを形成するような活動時間を犠牲にしているのではないかと、と言われております。或いは、匿名の中傷といったものが、ネット上で飛び交っている。韓国で、有名な女優が自殺したりしておりますが、そのようなマイナス面もある。一方では、インターネットがなければ、非常に限定された地域だけのネットワークになりがちだ。それが、地域とらわれない新しいネットワークの構築が可能になるのではないかとということです。我々も研究する時に共同で論文を書くことがありますが、昔であれば、同じ大学の近くの研究所の人同士で研究することが多かったのですが、最近では、インターネットで検索していて、同じような研究をしているような人が見つかったら、その人にメールを出して、一緒に研究しませんかということで、全く顔を見たことのない人と、共同研究が進むことも珍しいことでもなくなってきております。

ソーシャル・キャピタルと情報技術

- ITはSCを育成するか、破壊するか
- 伝統的なつきあいを減らすという意味ではマイナス
- 匿名性の悪用、中傷などで不信増幅も
- しかし、地域にとらわれない新しいネットワークの構築も可能
- 人間的つきあいなしのオンライン・ネットワークだけではSCを築けない

18

しかし、人間のつき合いは、オフラインのつき合いアナログのつき合いがなくては、オンラインのつき合いだけでは、ソーシャルキャピタルが育成されないというのが、情報社会とソーシャルキャピタルについての共通の見方ではないかと考えています。

次に、シニアのインターネット利用状況ですが、こういうデータは、皆さんも見られたことがあるかと思います。日本ではまだまだ世代によって、インターネット利用の落差が非常に大きいことが、わかると思います。

特に、60歳代の前半と後半でかなり違う。海外からもらうメールとかみると、結構高齢の方でもネットでコンタクトしてくるケースが多いですが、日本の場合には、60歳代前半は、半分ぐらいの人がインターネット使っていることがありますが、後半の方になると、これが半減するのですね。70代になるとそれがさらに半減する。

その中で、これからどのように変わっていくか。私は非常に楽観的で、例えば、今の60歳代後半と10年後の60歳代後半、今50歳代後半の方ですが、これが、このままとシフトしていくのではないかと、年齢が高くなってインターネット辞めるということではなくて、一度、そのインターネットの楽しみとか、利用価値とかを体験した人は、離れていかないのではないかと、考えていまして、そういう意味では10年後、20年後の70代の人というのは、ネットに繋がっている人たちではないかと考えています。

次に、シニアとソーシャルキャピタルで考えてみたいと思います。

日本のシニアというのは、家族との繋がりを大変重視していて、友人とか知人との繋がりが非常に希薄だと言われ、近所つき合いも希薄で儀礼的というような結果が出ています。退職する前は逆で、会社にどっぷりつかっていて、家族との繋がりが希薄で、退職すると、急に家族との繋がりが、家族としか繋がれないというそのあたりの落差が非常に大きいと言われております。

その次のスライドで日本大学の稲葉教授の研究では、会社つき合いから近所つき合いのシフトが非常に重要である。ソーシャルキャピタルの信頼のネットワークを持っている人は、退職後も、社会参加とか交流に非常に積極的であって、退職前と、退職後の落差があまりない。ソ

シニアのインターネット利用

- 年齢による大きな格差(通信利用動向調査)
- 30歳台:86.8%、40歳台:81.2%、50歳台:66.8%、60歳台前半:48.2%、後半28.5%、70歳台:14.3%、80歳代:2.2%
- 今後、シニアのインターネット利用拡大するはず(コーホート効果)

19

シニアとソーシャル・キャピタル

- 内閣府国際比較調査によると・・・
- 日本のシニアは、家族とのつながりを重視
- 友人・知人とのつながり希薄
- 近所づきあいも希薄、儀礼的
- 配偶者・パートナーが心の支え
- 夫婦一緒の時間を持つようにしている

20

退職とSCの再構築

- 日大・稲葉教授の研究では
- 会社づきあいから近所づきあいへのシフト
- 信頼弱い人は、近所づきあいも希薄化
- 信頼強い人は、退職後も社会参加・交流に積極的
- 退職後ソーシャル・キャピタルのすみやかな再構築が重要

21

ーシャルキャピタルを日頃から形成していない人は、落差が非常に大きいと言われていました。

退職後にソーシャルキャピタルをどのように再構築するかということが、日本人の課題であると主張しているということでもあります。

退職後のシニアの活動の場として、当然一番大きなステージになるのは、コミュニティであるわけで、そのコミュニティでシニア層が、役割を発揮できるかどうかということが重要になってくると思います。最初に言いましたように団塊の世代の退職はすでに始まっており、これから5年ぐらいの間に、相当な数の人が地域に戻ってくる。

その人達の経験とか、力をどういうふうに活用するかというのが、課題になってくるのではないかと考えています。

AARPの話し合いを最初にあげましたが、AARPも日本と同じようなベビーブーマーが問題になっていてAARP自身が、団塊の世代をどのように会員として取り込んでいくかが課題です。

彼らの分析によると、団塊の世代の前の高齢者、退職した後の消費行動とか、考え方とか、時間の使い方とかにキーがあり、研究報告を出しております。

日本でも団塊の世代がリタイアした後の行動からは、単純に理解できないのではないかと考えています。ということで、地域でシニア層がどういった役割を果たせるかということが、重要なのではないかと考えています。

地域の再生、コミュニティの再生をするために、どういうことが必要なのか。地域の特性を分析する、あるいは地域再生のキーパーソンとか社会起業家を育てる、個性的なアイデアを持ちよって実行に移す、あるいは住民の間、行政とか企業との関係を取り持つ、そのようなネットワークを持つ、そういうことが、実践として重要になるのですが、おそらくそういうキーパーソンになりうるのはシニアであり、地域によって違いますが、シニア層がそのような面でリーダーシップを発揮することがこれから増えてくるのではないかと考えています。

もちろん我々自身もだんだんとシニアに近づいているので、そのようなことを考えなければいけないと思いますが、行政とか企業或いは、コミュニティ自体、シニアのマンパワーや知識をどのように活用するかを真剣に考えなければいけないのではないかと考えています。

だいたい時間になりましたので、私の話は、これで終わりにさせていただきたいと思います。

地域再生へのシニアの役割

- 問題の発見と危機感の共有
- 信頼の形成、リーダーシップの発揮
- アイデアの募集と集約
- 住民を巻き込むネットワークの形成
- 行政、政治家への働きかけ
- 企業への働きかけ

22

地域のSWOT分析

- その地域の強み(S)と弱み(W)
- 外部環境の機会(O)と脅威(T)
- S: 強みは何か、それをどう生かすか
- W: 弱みは何か、それをどう克服するか
- O: チャンスは何か、それをどう利用するか
- T: 脅威は何か、それをどう回避するか

23

< 質疑応答 >

質問：(会場より)

2つお伺いしたいと思います。

1つは、組織の中での専門性についてです。組織を作る専門性なのか、また別の意味での専門性なのか、山内先生のいわれる専門性の意味をお聞きしたい。

2つ目は、ソーシャルキャピタルのお話の中で、NPO法人が信頼を得るためにどのような動きをすればよいのかをお聞きしたい。

回答：1つ目の専門性については、政策形成力。つまり政策をとるにあたって、提言をする力が一番重要です。

高齢化してくると目が不自由な人が増えてくる。50代60代で、私の父も緑内障で、目が不自由なのですが、その年になって、点字を覚える努力はしない。そこである年齢になってから目が不自由な人に対して、どのような政策があるか、実際にニーズを調べて、今可能な技術でどういことが出来るか、そういうことを的確に打ち出していくべきです。コンピュータで着信したメールを読み上げるソフトがありますが、民間企業に任せただけでは、十分な供給ができないとすれば、それに行政が補助金をつけたりしなくてははいけない。このような政策を的確に打ち出せる分析力や、専門性が重要なのではないかということです。

2つ目の信頼については、ソーシャルキャピタルの中での信頼というよりも、先程の質問は、NPO活動の中での信頼という事であると思うので、それについて言うと、この市民社会活動というかNPO活動が、社会のために役に立っているのだという共通の理解がないと寄付も集まらない。NPO活動自体が成り立たない。そういう意味では、活動の内容を充分ディスクローズして、法律に抵触しているような団体に関しては、例えば行政が認証を取り消すとかということを早めにやるようにして、きちんと規制する部分は規制することが必要なのではないかと思います。かつてアメリカのユナイテッドウェイという、日本の共同募金にあたるころの理事長が、愛人の別荘を団体のお金で買ったり、ファーストクラスで海外に行ったりしていることが、ワシントンポストのスクープで明らかになって、ユナイテッドウェイの募金が激減したということがあります。そういう意味で、信頼が大変重要なのではないかと思います。

■パネルディスカッション

「シニアネットは、シニアの生き方をアクティブにし、地域に活力を与える」

コーディネーター：三木 健二氏
(景観ボランティア明日香会長、元読売新聞論説委員)

パネリスト：(五十音順)

井上 文雄氏 (仙台シニアネットクラブ 代表)
塩見 信雄氏 (NPO法人シニアネットひろしま 理事長)
堀池 喜一郎氏 (NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 顧問)
箕田 幹氏 (財)大阪市都市工学情報センター[理事長])
三和 清明氏 (NPO法人寝屋川あいの会 理事長)

■コーディネーター三木健二氏

景観ボランティア明日香の三木でございます。午前中は、山内先生からシニアネットの活動の理念を伺いました。

午後は、実践のためのパネルディスカッションをしたいと思います。

山内先生の話にありましたようにアメリカの大統領選挙

が終わりまして、オバマが選ばれ、アメリカも変わっていくと思いますが、私の考えるアメリカの強さの原動力は、前例のないことに挑むということになると、アメリカ人は必死になるということです。例えば、大阪でこういうシステムで、こういうものを立ち上げようと市民団体が提案すると、市役所も市民もあげて一生懸命やろうということになります。

ところが日本は、前例のないことをやろうとすると、まずお役所からそれは前例のないので、お辞めになった方がいいですよということになる。それから、前例のないことをやり始めると、何かあったときに、責任を誰が取るかというふうに止める方向になる。

今日、報告していただくいくつかの団体は、前例のないことに取り組んでこられました方々です。それで、今日のパネルは、欲張りな目的を持ちました。

一つは、これからシニアネットを立ち上げようという参加者の人に、やってやろうという生きた情報を提供しましょう。

二番目は、シニアネット活動に取り組んでおられて、この辺はどうもわからないんだけど、どうすればいいのだろうという方に、問題解決策を提供しましょう。

三番目は、行政とのタイアップをどうするかとか、ボランティア活動も経済的に自立していかないと成り立たない、といった経済的自立の問題ということについて情報を提供できるようなパネルにしたいなと思っております、というような欲張りなパネルであると思います。



それで、実際にシニアネットとして活動していただいている四つの団体について、私は、元新聞記者なので、一言ずつその活動の特徴をまとめてみますと、トップバッターの仙台シニアネットクラブは、情報弱者脱却推進行政協働型といえると思います。



2番目のNPO法人シニアネット広島は、ITと福祉行政協働型、つまり、最初に報告いただく二つの団体は、行政とどうタイアップするかということ、非常に重視した報告になるかと思っています。

それから、3番目のNPO・SOHO普及サロン三鷹は、コミュニティビジネス優先型の運営と活動をしておられるところです。

4番目のNPO法人寝屋川あいの会ですが、地域密着ふれあい助け合い自立型の活動であると思っております。それで、3番目と4番目の活動というのは、会の自立ということ、かなり重視したお話になると思います。

まず活動の現状、活動のきっかけや現況、プロフィールにあたる報告を、1人7分ずつお話しただきます。それから、最後の箕田さんは、高齢者をパートナーとしたまちづくりの推進の報告をいただきたいと思っています。

それでは、トップバッターの井上さん、よろしくお願いします。

■井上文雄氏（仙台シニアネットクラブ）

私は、一般の企業を定年退職しまして、このクラブに入って参りました。

実は現役のときは、パソコンの「パ」の字も知らない人間でした。それが、なぜこんなふうになってしまったかと言いますと、定年退職後、何か自分の趣味を生かした、取り組めるものがないだろうかということで、女房に尻を叩かれながら始めたのが、パソコンでした。そうしますと、このパソコンの深さと魅力にだんだんととりつかれてきて、気が付いたら、8年ぐらいうちやうとあってこんな立場にされてしまった、ということでございます。

そういう意味から言いますと、題材とは変わるかもしれませんが、シニアが何かをアクティブにやろうという時には、自分で第一歩を踏み出していくということなのかなと思います。まず、仙台シニアネットクラブは何かと申しますと、シニアがシニアにパソコンを教えるということを表題に



しまして、高齢者の方にパソコンを教えている団体で、仙台市の支援をいただきながら、やってきておるといことでございます。

山内先生のお話にもありましたように、国連の定義よりもすと、65歳以上が7%以上超えると、高齢化社会、14%を超えると、高齢社会、日本は8年前に、そこまで行っているんです。先生のお話では、日本は今、25%近い。20%を超えると、超高齢社会となるわけです。よく考えてみると、どんどん進んで行きますとまさに、ICT、ITを使ったいろいろなものがどんどん出てきております。携帯電話でもそうです。携帯電話がものすごく普及しておりますが、どれぐらいの人が、携帯電話の持っている能力をフルに使っているかという、ほとんど使っていない。まさにお話したり、インターネットを見たり、メールしたり、その程度のことではあります。しかしそれ以上はなかなかということですが。それでも、我々の生活の中には、かかせないものになっている、ということなんです。

例えばパソコンであれば、ホームページを見たり、ブログに参加したり、こういうことは日常の社会で当たり前になってきている。それでは、お前さん達はどれぐらいできるのですか。という話になりますと、私たち高齢者は、情報弱者と言われてるようにそういったものにさっと取り込めない状態にあるわけです。しかし、世の中、そういうことを知って、情報を手にいれないことには、なかなか進んで行けなくなっている、と思えるわけです。難しいことを言えば、私どもはデジタルデバイスの克服つまり、情報弱者からどうやって脱却するかという研鑽が必要でしょう。自らが研鑽していくことが必要であることが一つです。それからもう一つは、私ども高齢者は60年も70年も飯を食わしていただいているので、比較的経験は、多いわけです。その経験に伴う知識も、現役の時にはいろいろとやってきておまして、それなりのものも持っています。こういったものを定年になってしまったからそのまま終わりということではなしに、どんどんと世のために、生かしていけると思っています。それには先程の話もありましたように1人ではなかなか難しい。ある団体やクラブのようなものを作って、やはりその中で、生かしていくということが非常に大事なのではないのでしょうか。自分たちに必要な力を自分たちで養って問題を解決していく、高齢参加、貢献型の活動が大事なのではないかなあ、と思ったわけです。

私どものクラブは、60歳以上の団体で、現在106名の会員がおります。常設は二ヶ所、その他に頼まれたら出かけていくという移動教室、各地の老人福祉センターと区のセンターとか、或いは、学校の現場に出かけております。講座は現在7コースをやっております。

それぞれにねらいがあります。パソコンの入門コースは、全くパソコンを触ったことのない方を対象に、パソコンとはこんなに便利なもの、こんなに面白いものということを知っていただくコースで、実に丁寧にわかりやすく、パソコンでできるいくつかのことを体験していただいております。

これは4日間、12時間でやっております。

次に、写真ではがき作成コース、お孫さんや家族の写真をはがきに入りたい方が非常に多い。それで、撮った写真を上手に入れてはがきを作ることを教えております。はがきのソフトも、多

講座の内容

- 1、パソコン入門コース
- 2、写真入りはがき作成コース
- 3、インターネットコース
- 4、ワード入門コース
- 5、エクセル入門コース
- 6、デジカメ活用コース
- 7、パソコンリーダー養成コース

くの機能があり、住所録の設定や撮った写真の加工も教えております。そして、はがきを印刷して持たせております。

次にワード入門、エクセル入門。ワードは町内会の会報を作りたいという方が多く、これは2～3年前から取り入れております。エクセルも同じことです。それから、最近デジカメが非常に好きな方が多く、デジカメの活用する方法を教えようということで、デジカメのとり方またデジカメの長短などもお話をしております。

最後に、パソコンリーダー養成コース、これは仙台市の要請もあり、地域でパソコンを教えられる方を養成して行こうというものです。だいたい以上のようなところでございます。

【三木氏】

井上さん、ありがとうございました。続きまして、NPOシニアネット広島の塩見さんにお話いただきたいと思います。

この活動では、パソコンの受講生が、3万人くらいになっておりまして、これは驚異的な数字だと思いますが、その辺のところのお話をご報告いただきたいと思います。

■塩見信雄氏（NPO 法人シニアネットひろしま）

今日私この晴れがましい舞台上に立って嬉しい事があります。私たちこの仙台の井上さんと東京の堀池さん、この方々と一直線、日本地図を考えてみると、仙台から東京に行って広島へ本土でずっと繋がっています。繋がる心をいつも大事にしています。一番端っこの広島にいても、仙台と東京と一緒に何でもしゃべれる仲間がいるということは、シニアネットというネットワークの中で、非常に嬉しいことなんです。かつ会場にもう一つ嬉しいことがあります。私のこの目の前、会場の4段目のところにですが、日本海に面したシニアネット浜田の方々がおられる。これも私たちにとっては、ありがたい嬉しいことです。それから、3段目のところの一番右端にシニアネット米子の方が来ておられます。中国5県の中で、このように各団体が、フォーラムに関心を寄せて来ていただいているということは、これは皆さんに尊重する気持ちがあるからだと思います。

私の隣の堀池さんは、とても遠慮深い方で、この机の上に、何があるかという、竹トンボが置いてあります。実は、堀池さんはこの竹トンボの名人です。堀池さんは、竹トンボの認定講座なるものをつくられて、アドバイザーの養成講座を作られております。認定の試験に合格するかしないかというのは、子供に教えられるかどうかという大変なことなんです。素人の私が竹トンボを飛ばしてみます。それから、大先生が飛ばしますので、見比べてください。



（2人が飛ばす。その違いで、堀池氏に大拍手）

熟練の技能と経験、我々が、知識と技能の経験が必要というのは、このことです。知識と技能の経験で高齢者のパワーを大事にするというけれども、皆さんはどなたに、皆さんのパワーを大事にしてもらっていますか。どなたが大事にしているか思い当たりますか。

それは、シニアネットの我々同士で大事にしてあげるのが優先ではないかと、私は考えています。以上が前置きのお話です。竹トンボの講座を終わります。

続きまして、私は現役のときに、いずれ高齢者になると思いました。新聞等で、少子高齢化という言葉が出だしたころです。高齢者になったらどんなことになるのか。身体も弱まるだろうし、頭脳も弱まるだろうし、どうしたらいいのか。そう考えまして、行政が行いますいろんな講演会とかセミナーに、アホかと思うくらい真面目に通いました。私の日記帳によりますと、80数回でしております。80数回参加しているうちに行政の方々と仲良くなるんですね。特に、窓口担当の方々と仲良くなります。そうすると、いろんなセクションのところでもいろんな方と知り合います。これが将来、非常に大きな財産を産んでくれます。私の経験で言えば、顔をのぞかせたことが、そして、担当の方々と知り合えたことが、大きなパワーになったと思います。ですから、我々が行っていますパソコン講座にしても、すべて市の方が広報をし、受講生も募集してくれます。私たちは、一切広報をしたことはございません。ところが、3万人の数をこえました。これは、市が募集してくれたことと、受講生が口コミで誘いあってくれる、つまり、知識と経験と頭脳がそこにも表れているのではないかと考えております。

ではなぜパソコンをやったのかということですが、パソコンというのは、その当時の学術論文等を見てみると、将来インターネットというものが盛んになっていろんな知識が吸収できる。今、70億のデータがネットの中にあるようですが、70億のデータを簡単に自分のものにできる。雨が降っても雪が降っても、家の中にいて簡単に収集できる。これはパソコンをやるべきだと立ち上げたのが、シニアネットであります。同じやるのなら、NPO法ができましたので、民間団体よりも、NPOでやったほうがいいのではないかと、社会的価値があるのではないかとそう思ってNPOでやったのであります。以上です。

【三木氏】

井上さん、まだまだお話ししていただく時間があると思います。またあとでよろしくお願いたします。今二つの団体は、行政とのタイアップということが、いかに大切かということをお話になりました。

次に3番手、SOHO普及サロン三鷹から報告をいただきます。よろしくお願いたします。

■堀池喜一郎氏（NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹）

堀池でございます。大阪の皆さん、こんにちは。私は東京生まれの東京育ちですが、母方のじいさんが泉南郡熊取町でございます。全く縁がないわけではありません。今、塩見さんが広島と仙台の横の線の話がされましたが、じいさんと私と、私の子供達、孫という縦の話が少ししたいと思います。私の肩書きの、シニアSOHOは、3年前に、役員をやめまして、運営に全くタッチしておりません。つまり、一会員で顧問ということになっております。竹トンボの会をやっておりまして、なぜ私がこの繋がりのお仕事をしているのか。



シニアSOHOで、運よくシニアの地域参加ということを大々的にできましたので、その経験を伝えてくれと関東経済産業局のコミュニティビジネス推進協議会の幹事をやっております。それが、今一番忙しい仕事になっています。この繋がりを、縦の関係で少し説明したいと思います。

私は、昭和16年生まれで、近く70になりますけれども、その人間がどういう少年時代を過ごしたかと言いますと、父親、祖父と同じ生活をして、培われてきたものを学んできました。これは孫や子供に同じように伝えられたら良いと思います。しかし、長じては全く違う人生、違う世界にどっぷりとつかりまして、技術革新だとか経営のシステムだとか、グローバル的な国民意識の中につかりまして、シニアになっております。これは、私の次の世代にどのように伝えるのかということ最近考えております。

このグローバリズムというのに対抗するものがなにかと考えてみると、やっぱり感覚的に、ローカリズムではないかと思えます。シニアSOHOを地域でやってきましたが、地域というのは違うもっと大きな意味があるのではと考えるようになっております。これは子供の遊びとかに表れて、今の子供に問題視されています。

シニアSOHOは会社人間の集まりでしたが、私がなにか面白いことをやろうと呼びかけまして、ただのおじさんが新しいことをやるという

チャレンジの会を作って、1年に百万円以上の収入の得られるシニアの活動・プロジェクトを6年間、45件やりまして、4億円ぐらいの年収をあげております。この後、今日きております山根さんたちが頑張って6億円ぐらいになっているそうです。こういうビジネスがシニアアドバイザーを中心に、活動しておるわけですが、なぜこのようなことができたのか話したいのですが、この話はあとで、山根さんのお話を聞いていただくということにしたいと思います。

ポイントは、売上と会員の数が推移していろんなことがあったのですが、結局、教えられてやってきたのではなく、出会い頭にいろんなことがあって、自分たちで考えながら、前向きにやってきました。今、IT会員が中心だった会が、この表にありますようにほとんどITのテーマではなく、安心安全とか教育が、テーマになってきたことに注目したいと思います。おそらく三鷹市は16万人ぐらいの都市ですが、ITのメールをできる人を、周辺の都市を入れて3万人ぐらい教えてきたと思っております。

右の写真は竹とんぼ作りの活動で、私は前からやっておったのですが、公民館の工作室で老若男女が集まって、工作します。ここでは、6歳の子供と76歳のおばあちゃんが、一緒になって楽しくやれます。これをやっていてですね。楽しい楽しいということだけではないのだろうか、ということに気が付きました。若い人に言われました。こんなに楽しく、子供達に効果があることを1人2人でやっていてはだめですよ。もっと沢山の人がやらなくては、いけないのではないですか、と指摘されました。

グローバリズム(ナショナリズム)の対抗軸 忘れられた、ローカリズム(地域主義)

ファーストフード	スローフード
現代生活	スローライフ
スピード	ゆっくり、のんびり
効率的、効果的	手間隙かけて、多様に
ロジカル、デジタル	こだわる、アナログ
勝ち負け、シェア	共生、自己認識、私流
ナンバーワン	オンリーワン
中央、専門機関、市民	分散、地域、住民
反懐古・経済的負け犬	反科学・自己喪失



銭湯の休日に竹とんぼ教室 6歳~70歳が集って

p.9

それで、講師を育成しようと思いました。どこでも、竹トンボ教室をできるようにしよう。沢山の講師を育成しよう。これが、「どこ竹」というのですが、ごく普通の人で、のこぎりを1回も使ったことのない主婦の方でも、3時間講習でこれはすごい、なんとしても教えたい、先生になりたいというふうになってしまう講座なんです。実際には、300人教えたのですが、150名の講師が生まれ、この4年半に60都市で、330回教室をやって、おそらく子供達に竹トンボの作り方を教えているのは、2万人を超えたと思います。

こういうことがなぜできたのか、子供たちが工作をしなくなったといわれていますが、その子供たちが工作をして感動します。また、子供の食の乱れとの問題があります。NHKがプロジェクト番組でやったのですが、朝ご飯を食べない子供たちが20%ぐらいいる、小学生でも骨粗相症になる、野菜をほとんど食べていない、という状況が報道されました。

このようなことを考える会というのを継続している竹トンボの仲間がいます。右に「子供の食を考えるごはんの会」を紹介します。私もこれではいけないと思い、自分で五分つき米を炊いています。

まとめますと、ITを使って、地域の活動を表していくことをやっております。

SS子どもの食を考える ごはんの会

- 年4,5回開催 参加費500円。
世田谷・東京農大”食と農”博物館で開催。
- 内容
1. NHKスペシャル を見て意見交換
2. 竹のMyお箸を作る
3. 「日本の朝ごはん」を食べ 解説を聞く



【三木氏】

堀池さんの話は、前編と後編がセットになったような話で、後編の話は、ケーススタディ3で山根さんがお話になります。あわせて聞いていただきますと、より深く理解ができると思います。

それでは4番目、地域密着触れ合い助け合い自立型の活動をされておられます。NPO法人寝屋川あいの会の三和さんをお願いいたします。

■三和清明氏（NPO夫人寝屋川あいの会）

寝屋川あいの会の三和と申します。地元寝屋川で活動しております。

今日大阪の方も、沢山いらっしゃると思いますので、かいつまんでご報告申し上げます。先程司会の三木さんからのご紹介で、地域密着と言われておりましたので、寝屋川あいの会は、どんなことをしておるのか、ITの戦略をどうとっているか、ご説明させていただきますと思います。

ご存知の通り、寝屋川は人口24万、10万世帯という。ベッドタウンでございます。ここで私たちは、ミッションとして、ともに支えあう地域社会の実現ということでやっております。

一つだけ特徴を言いますと、設立は平成13年の4月、その時初めて寝屋川でNPO法人ができたということで、行政の方からも、応援をいただきました。活動内容としては、3つあります。

一番目は助け合いの活動、二番目は、触れ合いの活動、三番目が行政との協働ということですが、



活動会員は、まさに高齢者定年退職者です。今日ここにこられておられるような、子育てを終わられた心やさしい女性群、だいたい両方合わせまして、90名と60名、150名がおります。触れ合い交流ということで、パソコン教室、ITサロンの二つをやっております。パソコン教室は平成14年1月に始めましたが、その2月に読売新聞が大きく取り上げてくれまして、友達感覚でできるパソコン教室ということで反響を呼びました。中身につきましては、入門教室と同好会の教室とかいろいろあります。

次のITサロン工房といいますのは、指先の運動から脳の活性化、認知症予防の支援ということで、お年寄りがボケないようにするというITを使ったら活動しております。このサロンは、平成18年の11月からやっております。そして、私たちは、地域通貨、大阪元気ネットワーク、北大阪経営支援マスター、これは中小企業のIT支援ということ、そして、まちづくりということで、ロボット作りを大阪電気通信大学と一緒にやっております。目標はノーベル賞のとれる子供作りです。

なぜ始めたかと言いますと、平成13年でしたか、森内閣の頃だったと思いますが、行政がパソコン教室に力を入れたことがあります。ところが年寄りが教室に行きましても、スピードについていけない。さっぱりわからないという欲求不満が溢れていました。それだったら、我々がやろうかということで、好きな人が集まりました。その時、たまたま大阪府から設備費用の支援がありまして、その設備を使って商店街の中でやっております。商店街は、客集めのために家賃はタダで応援してくれる。わいわいガヤガヤ、楽しく始めたのが、スタートです。以上です。

【三木氏】

これから箕田さんの話を聞きます。箕田さんは、行政の立場から、ボランティア活動に関わってこられました。その立場から報告をお願いいたします。

■箕田幹氏（財団法人大阪市都市工学情報センター）

箕田でございます。よろしくお願いたします。

今4名の方の具体的な活動のお話をお聞きしました。私は行政の立場なので、ちょっと観点が違うと思います。私が今所属しておりますところでは、もちろん今までも活動しておりますが、まちづくり、それから情報化の推進ということをやっております。実は、NPOの活動ということでの具体的な業務はやっていなかったのですが、まちづくりも情報化推進も、事業をするという観点があって、活動団体の方々と相通じるところもあります。

行政と活動団体という二つの観点から、お話をしたいと思います。

最初に4名の方々の話を聞いて、情報化を推進する上で、パソコン教室の話とは少し違うので

活動内容

謝礼ボランティア（地域通貨の活用）

- ①助け合い活動(1)高齢者支援(心のケア)
(2)子育て支援
(3)まちづくり支援
- ②ふれあい交流(1)高齢者パソコン教室
(2)高齢者ITサロン&工房
(3)健康・癒し教室・サロン
- ③行政との協働 ・市民会館指定管理者
・駅前自転車放置防止
・街かどデイハウス 等

◇活動会員 約150名【2007年】
元気な高齢者集団(男90名 女60名)



すが、行政がどのような役割をしていかなければならないかという点、基盤整備をするという環境を作ると言いましたが、技術開発をするための実証実験をしております。情報化を進めるためにはまず、民間でなかなかできない仕事を行政がやって、行政がやったことにビジネスモデルができれば、民間の方々がやっていくとゆうように、先導的にやっていかなければならないと思います。

大阪市としての考え方は、まず、パートナーシップで情報化を推進することです。どこか一つではできないことを、大学とか企業とかと関係を持って、例えば大阪市大では、人材の育成とか技術開発を推進しております。

コミュニティを考えると、やはりNPOとか市民、行政この三者のネットワーク、パートナーシップが大事になると考えています。その中に、市民高齢者がおり、あくまで目標は、市民高齢者の豊かな生活を実現するためにやるということです。

重要なのは、コミュニティをちゃんと形成していくことだと思います。このことが、やはり中心にある。それで、地域の課題解決を担うNPOを支援し、行政がその環境づくりをするという形で、連携をしながら情報化を推進していくという考え方をとっています。

その中でNPOの役割というものは大変大事なものです。

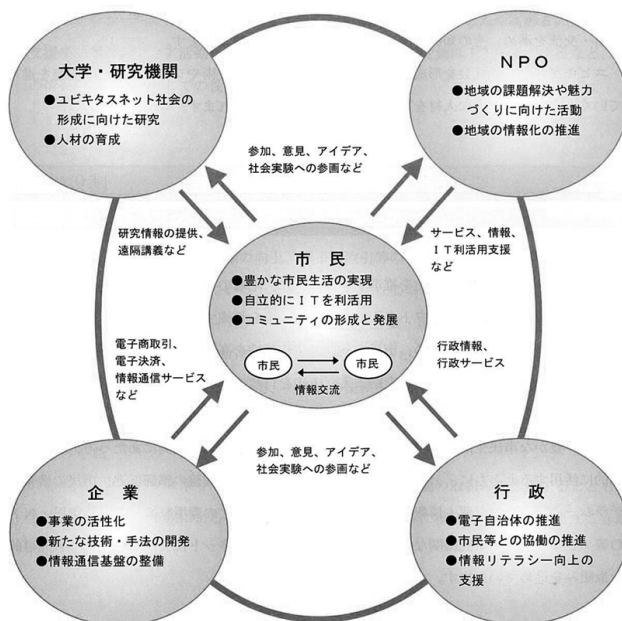
今朝、山内先生から、NPOは、草の根を脱却しなければならないというお話がありましたが、その意味もNPOが、大きなパワーを持つ意味で大事だと思いますが、NPOは実際に、地域に根差した特色と個性のある活動ができます。NPOは、公共的な行政ではできない部分を持っており、地域に根ざした目的をもってキメの細かい活動ができます。そして、迅速で効率的であるということでNPOの持つ役割は、重要であります。

行政というのは、公平性というものを重んじますので、なかなか個性のある考え方を打ち出せないということがあります。目的を絞るということに関して、行政というのは幅広いことをやりますので、キメの細かいことができない。それをNPOはできる。迅速で効率的ということはよく言われますが、公共の場合、行政は、仕事が遅いという話がいっぱいあります。そういう意味でNPOは効率的な活動を迅速にできるという。行政には、もてない部分ではないか思います。

これを、公平性だとか幅広さとか、仕事は遅いけれどももしっかりやるから安心感があるということも大事なことです。公共とNPOが本当に連携してうまく噛み合っていて、一番良い形ができるのではないかと思います。これをベースにして、具体的にどのような活動をしていくか、行政とおおさかシニアネットの事例は、後で少しお話しします。

これは実証実験です。子供を見守るロボットということで、大阪の中央小学校の皆さんに協力をいただいて、実証実験をやっておるのですが、この小学生が端末をもって、自動販売機にセンサーがついていて、小学生がどこにいるかすぐわかるようになっています。そのようなことで、

パートナーシップによる情報化の推進



子供を見守っていく。そのシステムは、学校があつて、通学をする小学生がいる。その小学生の位置がすぐわかる。その位置が、子ども都市工学センターのサーバーに入り、それが、保護者とか学校のパソコンとか携帯電話に入る。つまり、いつも保護者も学校も小学生がどこにいるかということがすぐわかる。そこで事故が起こると、端末にボタンがついており、それを押すと、すぐに何が起きたか保護者や学校が見に行くことができる。これを高齢者で考えますと、防犯防災がおきたときに、どこにいるかすぐにわかる。

これからビジネスモデルといたしますか、高齢者を考えていく一つになる。

もうひとつは、先程来お話しております文化を継承する、高齢者の知恵を継承していく。これは、西淀川とか、野里でやっている活動ですが、地元の祭りを伝承していくという活動です。そこで歴史ガイドブックを作って、まちづくりの中で生かしていくという活動です。今までこれを、活字でやっておられますが、やはりITを使って双方向でいろんなことをやっていくといった行政としての支援、大いにITを使った活動に応援していくといった事例を紹介しました。

ユビキタス街角見守りロボット モデル事業(社会安全システム論)



平成20年 10月 16日

ユビキタス街角見守りロボット
事業推進協議会

2年間の取り組み

- 広報活動として、町民手づくりの歴史ガイドブック「のざと」
「野里まちづくりだより」の発刊
- 各種行事に参加
- 他町見学会の開催



【三木氏】

今朝は平松市長から、随分と心強い言葉がありましたけれども、これは日頃、箕田さんが、市へ提言されとることをございましょうか。

堀池さんの言葉を借りれば、まさにただならぬおじさん達のただならぬ活動が行われていることが、皆さんわかったと思います。これから、いよいよ本論に入ります。

ここに来ていただいたのは、全国的に見ても、ユニークな活動であり、成功しているからであります。これが、うちの活動の特色でこれはどこにも負けない活動として自負があります。その成功の秘訣とか、工夫している点とか、それから、どれだけ地域に活力を与えているか、まあ、自慢話をしていただきたいと思います。これは皆さんが、こういうことをヒントにすればいい。また、ヒントになるな、手本にすればいいなといった自慢話をしていただきます。それでは塩見さんからお願いします。

【塩見氏】

今年、更新講座を受けた方がここにもおられるのではないかと思います。更新講座を受けた方で気がつかれたことがあるかと思いますが、それはなにかというと、シニア情報生活アドバイザーの更新認定書に公益法人認定と書かれている。これは私たちの社会的な印象を高めるために、

ニューメディア開発協会とタイアップさせていただいて、2年越しでやっと実現いたしました。これは広島が言ったから、広島だけでやるというものではなく、やるのなら、全国的にいかがですかというものです。それで、ニューメディア開発協会が、今年の更新講座から公益法人認定という言葉を確認書の左肩に書き入れております。

まず自慢の話ですが、パソコン教室はどこでもやっておりますが、30,000人という少し鼻が高いといいたまいますか、なかなかやるねということになります。俗人的にいいですと、約半分ぐらいの約15,000人の重みを胸に抱いて、日常においても、どなたの目が私たちに向いているかわかりませんので、自分たちの行動と言動が、地域の活動を行う際、誹りを受けるようなことのないように、後ろ指をされることのないように、自分たちの生活を戒めており、みんなで励まし合っております。もうひとつ、教室の中での自慢といえるかわかりませんが、介護施設に目を向けてみました。介護施設には、ご老人を含め、相当の数の方が入っております。あの人たちに何かしてあげたいということで、施設と話をしまして、施設でパソコン教室を開催することになり、4年目を迎えております。非常に熱心に利用者の方々が、教室に通って来られます。長い時間拘束しないように所定のコースは一時間ということにし、そのリーダーには男女共同参画社会の実現の証とし、女性の役員さんをリーダーにいたしました。これが見事に当たりまして、施設の責任者はこちらの責任者が女性同士でありますので、非常に円滑にスムーズに行われております。これも成功した例かなと思っております。

もう一つ自慢できるのは、6階の交流広場に展示しておりますが、8月の原爆の日にホームページにサイトを設けて、全世界から平和メッセージを頂戴いたします。当日テントをはり、持って行った12台のパソコンとプリンタで、参加される皆様のメッセージを灯籠に貼って差し上げております。この活動をももちろん無料で、大変喜ばれております。今年からは、記念にはがきを作り、表にドームの絵、裏にメッセージを印刷して差し上げております。

【三木氏】

塩見さん、介護施設に目を向けるとか、8月6日の原爆の日の活動は、感動的な話でございました。それでは次、堀池さんをお願いいたします。

【堀池氏】

これは他にないだろうという話を4つしたいと思います。

私はブログに毎日やっていることを書いておりますので、ここで話きれないことは、コメントをいただければ続けた話ができると思います。ここでは断片的にお話をしたいと思います。

一つ目は、プレーヤーとして、仕事しようと思っております。これは別のことでいうと、有償で仕事をするということです。仕事をする。それが役立つのだから、報酬をいただく。

これは、シニアSOHOで徹底してきました。竹トンボでも規模は非常に小さいですが、費用は実費ということで徹底しております。

お手伝いと違う プレーヤー

- 打席では走者を帰す。出塁する。
(観客にない修練を積んでいる)
(事業に必要な金は用意できる)
- 見物客に魅せる技を持つ。
(お金が取れる)
- ピンチに動じず対応する信頼感がある。
(未経験のことに対応するただならぬ人)

~~人手ボランティア~~

~~お手伝い~~

p.17

プレーヤーということはお手伝いではないということです。専門性を持っていて、責任もってやるということではないと地域信頼されません。

シニアSOHOでは、沢山の学校支援のコミュニティスクールで、すべての学校が教育委員会から離れ、地域運営学校になっております。

その学校では、地域住民が教員と一緒に全授業に参加します。学校の安全見守りをNPOが、警備保証会社ではなく請け負うといったことやっております。

二つ目は、今日会場を見回しても、女性の方が多いのですが、シニアSOHOは、女性が3割います。200人の会員の内、女性が60人います。これまで入会してやめた方を入れますと、550名いますが、女性が輝いていると発展しますし、女性がいると安心します。なぜかというと、私たちの世代の女性の方は、やはり、シャドー世界に生きてきたと思います。お金で評価されない世界でやってきた。この方々の考え方というのは、今の会社員生活をやめた男性のシニアの方にとって、非常に役立つ、共通性があるのです。女性とそういった会話ができないとだめなんですね。女性が多いということは一つのノウハウであります。

それからもう一つは、会社員生活と感覚からに変身をしなければならない。シニアSOHOは、変身の仕方を持っているということです。顔の見えるIT活動というのも、それですね。

それから、6階の交流広場で、どこ竹を展示しているのは、竹とんぼを一緒に作りましょうということではなく、たかが竹とんぼの活動でも、これだけ全国の地域の社会施設に信頼されて展開しているというのは、信頼される仕組みがそこにあって、IT活用を行っているということなのです。

このような認定講座をやります。埼玉県の上尾では、商工会議所が、地域の中小企業向けだけに対応する商工会議所ということをやめて、地域のシニアもすべて商工会議所の対象として、住民すべてに対応する商工会議所になっております。ここが、竹とんぼを一緒にやろうということになって、昨年1,800人の子供たちに教えた最大の地域グループになっております。

商工会議所がやっている団体が竹とんぼを教えている。好きなことをやって、生きがいを感じるだけではなく、地域に役立つことをやって尊敬されるやりがい、もう一つ大事なことは、輝いて発信する、やはりITで見えるようにし、まわりからも見える仕掛け、ここまでやって地域の信頼が得られます。私たちは、多くの各地でやっている。どこ竹と同じだということで感動しました。4つの自慢をお話しておわります。以上です。

【三木氏】

今、非常に大きな宿題を与えてくださったと思います。来年のこうしたパネルディスカッションのパネリストには必ず女性の方にも参加していただくということを来年の宿題にしたいと思っております。

サンガイ主義ということで、「生きがい」「やりがい」「ナイスガイ」という説明がありました。それでは次、自慢できることが沢山あると思いますが、できるだけ厳選してお願いしたいと思

変わらないと諦めていた、 「第2の人生」で好機高齢者！

事例1)学校支援 三鷹四小・学習アドバイザー
事例2)学校安全 みたかスクールエンジェルス
事例3)地域ムック編修「多摩ら・び」三鷹特集

「地域が」「一人が」に着目。
「いろいろな課題」から仕事



地域発のビジネスに経済産業省も着目

p.18

ます。それでは三和さんお願いいたします。

【三和氏】

ご報告をします。先程お話しました新聞広告のことを少しお話申し上げます。平成14年の2月3日の日曜日に朝刊に掲載されました。地方版です。

ところが、それから1週間、電話が鳴りっ放しでした。大阪市内、私は寝屋川ですから、堺の方からも、京都、神戸もおられました。大阪市内の方が、地下鉄がタダですから、寝屋川でもどこでも同じというような話があったと思います。

その時に、なぜそんなに多く応募が合ったかということを考えますと、まず一つは、少人数で開催しました。6人を2人で、教えました。個人指導のようなものです。二つ目は、差別化をしました。商店街には、就労目的のパソコン教室がありました。こちらは楽しむためのパソコンですから、1回600円の受講料に決めました。多くの方が来られて、大慌てで対応しました。最終的にここまで残っていることは何かと言いますと、一人一人の受講者に個人メンテをしたことです。

わかりやすくいうと、受講生の家から電話がかかってくる。「私のパソコン、おかしいのよ」それに対して、パソコン用のソフトもあれば、ハードもある。トラブルに対して、親切に対応したということです。なかにはお家まで行って、対応するといった親切さです。年寄りには時間がありますから、一つ一つ親切にコツコツと対応していった。それが今まで続いている大きな理由だと思います。以上です。

【三和氏】

それでは、箕田さんよろしく申し上げます。

皆さんの今までのお話を踏まえたことでも結構ですし、行政の立場からの自慢話でも結構です。

【箕田氏】

それでは、先程の話の続きになりますが、元来大阪というのは、進取の気性と言いますか新しいものをどんどんビジネスに取り入れて、インスタントラーメンとかカラオケとか、よく言われますが、プレハブ住宅もそうです。また、商人の町ですから、民間主導型である仕事が、いっぱい成功しているわけです。

先程、おおさかシニアネットさ



MPO法人おおさかシニアネットは 「大阪市公募提案型委託事業」を受託しました

●地域密着型いきがい情報配信システムの構築中 副題：輝ける「場所・活動・出会い」がある

- ◆ 1982年「高齢者問題世界会議」で、高齢者の心身機能の低下や役割の喪失が強調されすぎることのアンチテーゼとして、高齢になっても多くの分野で活躍し成長を遂げる主体的なシニア世代を「プロダクティブ・エイジング」と位置づけています。
- ◆ 21世紀はまさに、「プロダクティブ・エイジング：高齢者によるボランティアアクション」であり、2002年の世界会議で「すべての世代のための社会構築」が主要テーマとなっています。
- ◆ 一方日本でも2005年に内閣府が、「世代間の連携強化」「高齢者の社会参画の促進」を課題としています。
- ◆ これらの背景をもとに、NPO法人おおさかシニアネットは、団塊の世代の自己実現を後押しするとともに、シニアの社会参加の実現を目的とし地域密着型いきがい情報のコンテンツ(ホームページ)作りを提案しました。

んの話差し上げるといいました。これは行政とNPOが連携してやる、一番いい例になっております。仙台さんとか、他のNPOも行政とやっているとの話がありましたが、これは新しい試みだと思えます。これは、大阪市が公募して、大阪の政策に役立つことをNPOさんに考えてもらおうということで、おおさかシニアネットさんが応募され、選ばれて来年の3月に向けて検討されているわけです。

おおさかシニアネットが、いわゆるパソコン教室とかセミナーとか、一般的にしている内容を越えて、草の根といいましたが、もう少し広い範囲で、高齢者を対象に、コミュニティづくり、ネットワーク作りをしようという試みです。技術的にも、主体的な高齢者、元気な高齢者を対象に、社会的に参加をしていく、これを実現させて行こうという考え方です。

技術的には SNS（ソーシャルネットワークキングサービス）、ご承知の方も多いと思いますが、ブログ形式でやりとりするホームページ（コンテンツ）です。そういうものを使って、友人と友人、人の関係、ネットワークを作る。これは、地域に根ざすだけではなくて、もっと広く、会社の経営者、或いは、団体の方々、またいろいろな情報を求めているの方々、いろいろな方を対象に、地域への参加貢献をするというようなことをコーディネートするホームページになる。

つまり、簡単に言いますと、会社で、このような人材が欲しいと言いますと、人材がどこにいるかを探して結びつけていく。かなり広い範囲で、社会貢献に発展する取り組みだと思えます。そのようなことをおおさかシニアネットがしようとしている。こういった大阪全体を、広域的に考えている団体、一方で地道に独自のパソコン教室もやっておられますし、行政とのこのような関わりを持たれながら、行政の施設でもパソコン教室を委託されてやっておられる。

今、3,500人からの会員をお持ちですし、こういったパソコン教室以外にも、健康のセミナーであるとか、各会員にカードを発行してきめ細かいサービスをされながら、非常に大きな話と細かな話も組み合わせで活動されている。今後は大阪としても、市の行政に対しても、役立っていただくと言ったことをご紹介しておきたいと思えます。

【三木氏】

いろんな分野のいろんな活動に対して、お話を聞きましたが、聞く方にとっては、非常にポイントが絞りにくい部分があるかと思えますが、それはあとで質問の時間を設けますので、その折に聞いていただければと思います。

【井上氏】

私の方とすれば、行政とのコラボレーションを非常に上手にやっていると思っていただければありがたい。行政の方と絶えず連絡を取っております。私どもの主管としてやっていただい

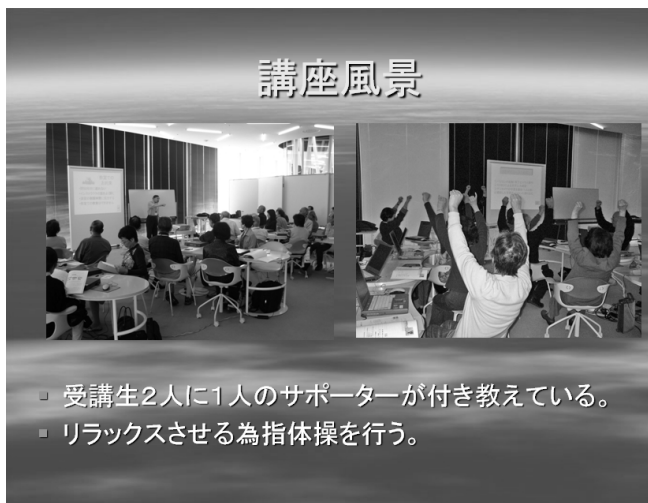
■ このネットの名称は、MAWSnet(マウズネット)

- ★コンテンツ(ホームページ)作りには、SNS(Social Networking Service)、オープンソースを使います。SNSとは、人と人とのつながりを促進・サポートする、簡易ブログ形式のコミュニティ型コンテンツです。
- ★ コミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供することに特化しています。
- ★ 団塊の世代の自己実現を後押しするこのバーチャル空間(コンテンツ)を使って、地域社会への参加、貢献(地域デビュー)がしやすいネット上の環境を提供します。
- ★ 会社経営者(Manager)、団体に所属して活動している人(Activist)、働いている人(Worker)、情報を探している人(Seeker)が、情報提供、情報交換、情報検索することによって、輝ける「場所・活動・出会い」があること知り、地域社会への参加、貢献(地域デビュー)への動機付けになればと思います。
- ★ マウズネットは、来年3月から実稼働です。みなさん楽しみにしてください。

るのは、健康福祉部の高齢企画課です。

それだけではなく総務局の情報政策というような人とも、コミュニケーションをとっています。コミュニケーションをよくとるには、仙台市のホームページをよく見えています。ホームページを端から端までよく見ると、おやおやというような内容のものがよくあり助かります。そういったものを早く掴んで行政の方と話をすることが必要です。

では、実際に私どもがやっている中、特徴があることはどういうことかということ、スタート以来、高齢者の方を教えているということで、受講生2人の中に、必ず私どもメンバーがサポーターで入ります。高齢者の方は、ご存知のように耳が遠い方が多い、画面を見ても、どこに何があるかよくわからない、見つけにくい。このような状況なのです。その時に、インストラクターが、前でしゃべっていることが、どんどん進んでしまうのではなく、サポーターが「今ここです、遅れても、このように追いかければいいですよ」とついてあげることで非常に喜ばれております。



- 受講生2人に1人のサポーターが付き教えている。
- リラックスさせる為指体操を行う。

もうひとつの特徴は、受講生の方に、終わる最後の日に、感想文をパソコンで入力してもらうことです。それを私どものホームページに掲載するというやり方をしております。これをやりますと、聞いた話ですが、アメリカに住んでいる息子から「お母さん、いつからパソコンをやっているのよ」電話がかかってきたので、「なんでそんなことがわかるの」と聞くと「インターネットを見ていたら、出てきたんだよ」といった、家族の中で話題となる。このことによって、広がりが出てきている。さらにもう一つの特徴は、私どもの開催しているリーダー養成講座があります。この養成講座の受講者からクラブ員を募集していく。会員がサイクルしていく方法となっております。もちろん、これだけで良いということにはなりません、メンバーの主要な方々をそこから集めていく。

これ以外にも、サポートをやりたいという方がおられれば受け入れていくという形で動かしております。このようなことが、よその団体さんと、違う所かなと思ひまして、紹介させていただきました。

【三木氏】

井上さんありがとうございました。受講生2人に1人の方が教えていくということは、シニアにとって、とても大切なことから思ひました。ただ教えるだけではなく、パソコン教室の後、感想を作ってもらって、ホームページに載せる。それを息子さんが、アメリカからアクセスしてくるといいお話を聞きました。このような自慢話は、3日間も4日間も続く可能性があると思ひますので、この辺で打ち切りにしまして、今から、最も肝心な話に入りたいと思ひます。

事務局をどこに置くかとか、事務局の仕事を誰が負担するか、ボランティア活動をする上で、まず最初の問題として出てきます。私も、ボランティア活動も主宰して7年目に入りますが、おそらくボランティア活動をやっておられる方にとっては、共通したいろいろな問題があると思ひます。

当初は、助成金がでていたのですが、もう打ち切られてしまってどうしようか、せっかくいいアイデアでこのような事業は始めたのですが、なかなか市民に伝わりにくい。先程、市の広報で、しっかりやってもらっているという話もありましたが、そういったボランティア活動に共通する話題・課題・問題、それから、シニアネットに共通する話題・問題等あると思います。

今日のパネリストの5人の方々は、そういった問題を、直面して解決してこられた方々だと、私は思っております。

先程は自慢話をしていただきましたが、今からは、苦勞話を聞ければと思います。

堀池さんトップバッターでお願いします。

【堀池氏】

私は問題点として、組織運営のことで、最近気になっていることをお話したいと思います。先週滋賀県近江八幡市の役所の方から、電話がありまして、次のようなお話でした。シニアの方が近江八幡で活動するのに、会社のOBの方などを集めて、団体を作った。そして1年くらい活動しているのですが、市役所としては、地域貢献とか地域の課題解決につながるように持って行って欲しいと思って作ったのですが、交流会とか勉強会は、多く行われていますが、活動自体が、なかなか始まっていない。なぜ始まらないのか。この電話は、高齢者支援室の方でした。このことを少し考えてみました。

町に役立つサービスを始める

ボランティア／市民活動とは明確に異なる

「志」をはっきり「相手に発信」

- 「誰のために」「何を」「どのように」サービスするのか。
- ホームページ、印刷物での表明が必須。

仕事が継続する運営を明確にする。

- 仕事の分担と責任
- お金(少なくとも)の流れを計画し、管理する

n.25

好きな人が集まる＝ NPOビジネスという方向

- 事業の形態を考えた
教える楽しさ重視→ ボランティア
教えるが継続のため実費回収→ NPOビジネス
事業目的の利益回収→ PC教室協同組合・会社
- 関わり方に温度差があつてのビジネスは？
「まとめ役」、「中心戦力」、「支援係」の役割必要
(プロデューサー)(プレーヤー)(サポーター)

隣の寝屋川あいの会の三和さんはコミュニティビジネスですとおっしゃいました。

そこで、思ったのですが、地域に役立つビジネスというものを考えると、なかなかそれをはじめにくい。地域で始めるビジネスというのは二つあって、こういうことを思っているから始めるというのは、ボランティアとか市民活動です。コミュニティビジネスというのは、そうではなくて、こういう問題・課題を持っているから、それを解決するのが、コミュニティビジネスだと思います。問題を解決するから有償でよいし、それでは、このお金を払いましょうとか行政がその分持ちましょうという話になると思います。誰に対して、この活動をするのか、誰というのは、どういう課題を持っている人なのかをはっきりして、こういうことをしますというところから始まる。これをホームページに書いたりすると言う。そのためには、どういう人どういう人が繋がらなければならないのか、これは、学者の人がいう理屈なのですが、その関わり方にグループの中でも温度差がある。そこまでやれないという人と一生懸命やる人が、混在しています。だが皆が同じ考えでないといけないのではないかと考えます。これが良くないですね。

私がやってきてこれだなと分かってきたのは、地域の活動というのは、会社のように就業規則

で縛って、これやらなければ、給料やらないですよという世界ではないのですから、特に、NPOは、いつでもやめられるわけです。突然、全く考えの違う方が入ってくるわけです。そういう方と一緒にやるには、温度差があって当たり前です。その温度差をこのように考えたい。

3種類の人があります。その一つは、プレーヤーです。認定講座を受けて、ITをきっちり教えられる人、教えるのが好きな人、これがプレーヤーです。このプレーヤーは、わけのわからない行政からこのようなことをやってくれということに、どのようにまとめようかなど、考えたくないのです。

ある程度形ができてから仕事をする。この形を作るという所にいる人は変わり者で、やっぱりプロデューサー役、そういうことになると元気がでていろいろ考えだす人、数は少ないですが、プロデューサーという方がいるわけです。もう一つはちょっとだけお手伝いする。プレーヤーの技術はないかもしれないけれど、趣旨が分かっているからお手伝いする。

サポーター役、ちょっと受け付けだけでもやってくれないですか、といった人が沢山いないとうまくいかないです。プレーヤー役とかプロデューサーばかりではうまくいかない。全体として20人の会があるとすれば、プロデューサー役は1人か2人、プレーヤーという人が4人か5人、お手伝いとかサポーターの方が10数人、という感じが良いのではないかと思います。そこで自分はそのどれにはまっているのかなということが、お互いよい意味で分かっていたら、これがひとつの課題解決というか、困ったことの解決策ではないかと思います。

この地域の事に関わるには、3種類の間があるということを考えてたらいいのではないかとご提案したいと思います。以上です。

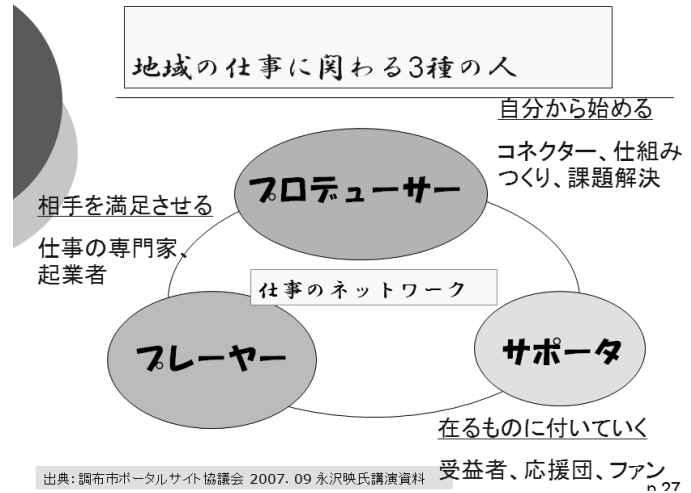
【三木氏】

プロデューサー役、プレーヤー役、サポーター役、言われてみると、まさにそうであって、私たちの活動の中でもトラブっていたのは、このことであつたのがよくわかりました。

次に三和さんお願いいたします。

【三和氏】

活動が19年まで約6年、だいたい受講されている方が年に100人少しおられます。今まで700人から800人ぐらいです。先程、経営という事で堀池さんがおっしゃっていましたが、コミュニティビジネスというのは、あまり良い言葉とは思いませんが、事業を継続しないとビジネスにはならない。どうやって継続するか、継続すれば、



出典：調布市ポータルサイト協議会 2007.09 永沢映氏講演資料

ITサロン&工房

(ベル大利ふれあいサロン『時遊館』内)

◇ サロン

・指先の運動から脳の活性化

↓
・介護予防の支援

◇ IT工房

・パソコントラブル対応
・機関紙
・チラシ・ポップ
・HP制作支援

『ITサロン&工房』トピックス



12/22日 NHK TV 取材風景



平成19年1月4日放送画面

ITサロンの現状風景 平成19年3月30日

それだけ世の中に役に立つといった発想で経営しておるわけです。

経営には、人とものお金があります。人はこうして皆さん、一緒にプレーヤーとかいろいろありますが、熱心な方が最初にいなかったらだめです。

もの（場所）は、商店街の空き店舗を借りましたので、タダです。家賃はいらない。光熱費もいらない。商店街の行為でサポートしていただいています。あと残るのは、お金です。どのように経営しているかという、受講料で、受講料がイコール教えていただいた先生がたのお手当てという形でした。これは自主独立経営ということで、少なかったら報酬は少ない。受講者が増えたら報酬が多い。こんなことで、やらせてもらっております。

そこで、自主経営をしなければならない。どのようにしたら良いか、先程でておりましたが、IT工房というのがあります。皆で、商店街のホームページを作り、商店街をいろいろ応援してお金を稼ごうかという話も出まして、基本的に自主経営をしております。しかし大きなお金、機械の入れ替えや更新のお金です。ソフトは、みんなで買っていただいておりますが、設備だけは、寝屋川あいの会というNPOの団体でもたなければ仕方がないと思っております。ということでずうっと続けていきたいというのが、現状です。以上でございます。

【三木氏】

それでは、箕田さんお願いします。

【箕田氏】

私の方からは、行政の方からの観点の課題ということで、二つ程申し上げたいと思います。

一つは、規制緩和があります。公共がいろいろとやるときにまだまだ民間が、十分に機能していないときに、先導してやります。うまくビジネスモデルができれば、民間にゆだねてやっていただき、行政が連携してやる。例えば、民間が活動するとき、学校だとか老人福祉センターとか、市の施設を貸し出すことがあります。そのときに、行政財産ということになりますと、目的にあったことでしか使えない、といった制約、行政ルールが沢山あるわけです。いろいろ場所の問題以外にも、制度があるわけですが、なかなかうまく合わない方には、その対象にはできない。ところが、民間の方にやっていただくには、ぴったりと合うというケースが、ないことが多い。そういうときに、柔軟にそれを運用していく。まあ、規制緩和を考えるということがないと行政と民間のNPOの方々とうまく連携してやっていく。そのような仕組みを作っていかなければいけない。これは、まだまだ続いている問題です。私ども財団がいろいろと考えて、やりやすく考えていくことが必要かなと思っております。

二つ目は、情報リテラシー、デジタルデバイドの話になりますが、私ども財団でもいろいろアンケートをとりまして、どのぐらいの方がインターネット利用されているか、今朝、山内先生から60代の方が半分、60代後半で3割程度とおっしゃっていましたが、私どもの調査では、高齢者の方でインターネットを利用している方は、もっと少ないです。

地域でのまちづくりの話ですとか、見守りのシステムであるとか、幾らシステムを作っても、高齢者の方がそれを使えない。やはり作ったシステムが使われないことになる。デジタルデバイド、格差をなくしていくことをやっていかなければならない。アンケートでも何が問題かと、整理しますと、高齢者の経済事情が悪いから、パソコンがまだ高いということもありますが、これはだんだんとやすくなっていきますから良いとして、意欲と関心がないという方が多い。

自由回答を、幾つか見てみましたが、関心がない、役に立たない、子供に悪いといったマイナ

スイメージが先に立って、アンケート等してもらわなくて構わないといった回答まであります。

でも山内先生は、世代が動いていくからそれで構わないと言われましたが、今のネットの利用率を考えると、情報化に親しんでいただく、これをやっていかないとシステムを幾ら作っても、なかなか使われない。行政としては、ここを考えないと幾らシステムを作っても、高齢者に浸透していかないことが問題だと思っております。

私どもは、パソコン教室等はもちろん、NPOの方でいろいろやっていただいております。普及啓発の問題は、大いにきめ細かく連携してやっていかなければならないと思っております。

【三木氏】

それでは、井上さん、よろしくお願いします。

【井上氏】

端的に申し上げまして、一番困っていることは、広報です。いかに受講生を集めるか、知らしめる、募集する、これが一番苦勞しております。今のところ、幸いにも、仙台市とのコラボレーションの中で、市の便りという広報誌の中に、掲載していただいております。市の方から、これもなしと言われますと、全くお手上げになってしまいます。

それともう一つは、教室です。教室もいろいろ制約はありますが、市の方の施設をお借りしてやっておりますので、今のところ問題はないのですが、これもだめということになると、商工会議所とか他の施設を貸していただけるということであれば、何とかかなと思うのですが、そうはうまくいきません。そして、今の教室は、市の事業であると、皆さんに思われておりますので、クレーム等が、市の方へストレートに行きます。これは、困った問題ではなしに、クレームが市の方へ行った時の問題解決ということで考えておったのですが、私どもが、サポータ或いは、インストラクターに絶えず言っていることは、生徒と教師の関係ではなく、教えてやるというようなおこがましい考えを持ってはいけません。あくまでも受講生の方は、お客さんであるというところをすれば、自から、お話すのも、接する態度も、変わってくる。まあ、大変苦勞します。

やはりボランティアというのは、企業ではございませんので、十分なお金をお払いしているわけではありません。だから、「ギャラが安いと思ったらやめろ」とか、「首にするぞ」、「どっかほかへとばすぞ」というセリフは当然聞かないわけです。一番肝心なのは、本人たちのヤル意欲です。意欲にはないわけです。この意欲をいかにして出させるかということに苦心するわけです。よく言われるマグローの五段階ですが、自己実現が重要になるでしょうから、本人達がやりたいということを実現させてあげる方法というのが一番いいわけです。

先程聞いて、なるほどなあと考えたことは、それぞれの人にそれぞれの特徴があるわけです。俺は教えることに生きがいを感じる、俺はマネージメントすることに生きがいを感じる、俺はそんな大げさなことを考えていないので、お手伝いさえできればいいということで、自己実現している方もいるわけです。

そういう人々のやりたいこと、希望がどの辺にあるかということ絶えず気にしながら、やっていくタイミングを図っていくことが肝心なのかなあと考えておりました。

【三木氏】

ありがとうございました。私自身も広報ということについては、取材する側でしたので、私たちの活動をPRすることに苦心しております。行動を継続して行くことに、大切なのは、毎年毎

年、新聞記者等が見ても、何か新しい話が、ちょっとでもはいつていないと、取材する側は、「何だ、去年と同じじゃないか」。ニュースネタにならないと思ってしまう。パソコン教室にしても、今年から、受講生のOBの方がインストラクターやサポートになって教えてくれるとか、毎年違った新しいことを入れたような工夫が必要だと感じました。

【塩見氏】

困ったことは、先程、介護施設で、パソコン教室をする。前々からやっているというお話をしました。

やる時は非常に勇ましく、やりますよ。大丈夫ですよ。パソコンは我々が持ってきます。大変かっこよかったわけです。ところが、やっていく間に、その当時の OS、98では、ウィザードが出てこない、クリップアートの絵が少ない。これでは、だめじゃないかということになります。中には、新しいソフトを持っておられる方もいます。2000とか、ME、もっと新しいものが、入ってくると、アンマッチするわけです。

パソコン教室をやると言った以上、いかにその覚悟が乏しかったか。これを非常に反省いたしました。直ちにエンタープライズのソフトを手に入れまして、XPに置き換えたわけです。私どもはアプリケーションには、強い面を持っておりますが、基本のハードデスクであるとかドライブに非常に弱い。或いは、ウイルスの駆除に弱い面があります。他の団体の方々は、わかりませんが、私たちはそうでした。我々の組織の中に技術担当ということで、3名のプロを配置いたしました。

いずれも、我々の団体の役員です。この3人が、素敵な方でして、このうちの1人は特に仏様のような方で嫌ということを行ったことがありません。どこへでも、行っていただける、また、何でもニーズに応じてくれる。みなから頼りにされている。こういう人物がシニアネットのハード部門を守る立場として、ぜひ必要であろうと思います。先程、堀池さんがサポートのことを言われていましたが、多分このことではないかと思いました。私どもでは、技術担当という役割で、活躍していただいております。いずれも、メーカーにおられたプロです。

それから次にオフィス2007と2003の競合について、困った問題が、いろいろ出ております。マイクロソフトオフィスの2003と2007は、使い方も違いますし、ボタンの位置も違います。2003で作ったものと2007で作ったものが、お互いにみえたりなかったり使えたり使えなかったり、私たちパソコン教室を担当するものは、技術の最先端ぐらいのレベルを持っておかなければならない。常に勉強を怠ってはいけません。そういうことを真剣に考えておるところです。

そして、当面取り組まなければならない問題というものが、一つあります。3万人の大台を超えたと言いましたが、この3万人の方々が、おうちに帰えられて、今日現在、今現在、なにをされているか、パソコンを使っているのか使っていないのか、どのように活用しているのか、アフターの調査が不十分です。今日、山内先生は、シニアの方々は、継続していくのではないかとお話しなさいました。私たちも、そうであるかなとは思いますが、実際に調査をしておりません。ここは私たちの手ばかりなのかなあと思います。これからシニアの方々をサポートするには、教室が済んだ後のフォローもしっかりしていかなければならないと思います。以上です。

【三木氏】

やはり、第一線の現場でやっておられるリーダーの方ですから、非常に役に立つお話が聞けたと思います。

今回のパネルディスカッションを聞いて、これからシニアネットを始めようという団体の方も、おられると思います。第4番目のテーマとして、これからシニアネットを立ち上げる皆さんに、この辺は、押さえておいた方が良いでしょう。この辺は、このようにした方が良いでしょうというところが必ずあると思います。そのノウハウを、少しお話ししなければと思います。

これからシニアネットを始められるようとする方々には、最前線の方々のアドバイスは、非常に役に立つものになると思います。

今回は、三和さんからお願いします。

【三和氏】

あまり僭越なことは、よう言いませんが、感じることをそのまま申し上げたいと思います。

私は、寝屋川あいの会の経営をしております。基本的に私たちのこの活動というものは、マーケットインと言いますか、利用者の立場に立って物事を考える。これが一番基本かと思っています。

会社にお勤めの方わかるとは思います。プロダクトアウト、できたものを押し付けるという考え方が、非常に多いわけですね。しかし、こういうボランティアの世界、地域の世界というのは逆です。地域の皆さんが本当に必要なものを何かと、このことを聞いてこれを取り入れていく。これが、基本のスタンスだと思います。その中で、自分の得意なことをあれもやりたいこれもやりたい、いろいろありますが、本当のニーズはないかと。写真の加工であるとか、もっと単純に、インターネットであるとか、そういったところから入るのではないのでしょうか。常日頃、そのようなところからしております。私たちのメンバーもいろいろおられますが、それぞれ得手不得手があります。メンバーのネットワークの中で、葛藤しながら続けていておるといふ事が大きいのでしょうか。

なぜこのようなことを言いますかという、広報活動で先程からお話が出ておりますが、なかなか今の時代、広報だけでは集まってくれません。何かという口コミです。徹底した口コミです。なぜ口コミの起こるかという、来てくれた方がうれしかったから口コミが起こるわけですね。それははっきりしております。特に、女性の方は、お友達が多いですから、そういう意味では、次あの人、次あの人というような形であらわれてきます。これが大きな基本かなと思っております。

先程にもお話がありましたが、すでに習った方へのフォローが大切です。私どもの講師の方々が、やっていることは、Eメールを習った方へ発信しています。発信しても、返事のない方がいっぱいおられます。発信しておれば、必ず相手は、見ておられます。お返事はないけれども、見ている。このような形が今出ているのではないかと思っています。そういう形を続けていって、私たちの熱意を、本当に好きだからできるのだと思いますが、伝えていく。いつかは、形になっていく。だいたいそのようなことを感じております。

【三木氏】有難うございました。次に、箕田さんお願いします。

【箕田氏】

私のほうから、3つほどお話ししたいと思います。

一つは、支援制度ということで、勉強される費用を負担したり、コンサルタントされる方を派遣したり、私も知らなかったのですが、行政のサポートする制度が、ネットで調べますと、たくさんあります。今朝も近畿経産省のかたもお話されていましたが、国のほうも協力するための支援制度があるとおっしゃっていましたが、ある意味では、国も府も市も含めれば沢山あるということです。それが意外と隠れたところにあるということです。これを是非探す必要があります。私どもも見まわりロボットというのは、国の実証実験の補助があつて、最初気が付かなければ、実証実験も出来ませんでした。やっぱりいろいろ探して、補助がいただけるということです。地域の方のご協力も勿論あったわけで、うまくいって、その実験現場の小学校が有名になって、その小学校以外からも、防災・防犯に役立つという事で、引き合いがありました。最初に良いメニューを見つけて取り入れると、NPOさんなどの経済力を考えても、役立つものが沢山あるということです。自分たちに合ったものを見つけるということが大事かと思ひます。

次に、広い範囲でいろいろなビジネスを考えますと、高齢者に関するマーケティングというのが大事だと思います。自慢話になるかもしれませんが、例をいいますと、大阪市内に随分高齢者が戻ってきております。昔、大阪市は、ドーナツ化現象という事があり、皆さん土地が高かったものですから、郊外に住まいを移される方が多かったわけです。それがお年を召されて、子供さんが独立すると、都心の歌舞伎や音楽といった文化施設がたくさんあり交通機関も地下鉄や市バスが充実しており、住みよい、過ごしやすいという事で、都心のマンションに帰ってこられる方が増えてきております。やっぱり、私も段階の世代ですが、都心に住んで都心の生活を楽しむという事があります。そういう方々がそこに帰ってきているという、統計なりデータが、随分公開されております。したがってマーケティングするということに、情報化時代のITを駆使して、これからのビジネスに合った情報を探していただく事が大事だと思います。

三つ目は、先程のマイナス面の話ですが、地域で活動しようと思うと、堀池さんがおっしゃっていましたが、温度差がある。私どもがまちづくりをしようとする、温度差というより、まったく対立することが多く、ひとつのコミュニティーをまとめるという事は、たいへんです。誹謗したり中傷したりする事もできます。そういうことを念頭に置かれて、コーディネートする、リーダーシップをとるということが、デジタル社会の影の部分のカバーしながら、活動を進めていく事が必要なと思ひます。

【三木氏】

井上さん、お願いします。

【井上氏】

グループとかサークルとかいう集まりですが、ご本人たちが楽しめばある程度目的を達成するわけです。ボランティア団体のようなある程度組織化された団体、目的をもって組織化された団体は、信頼を得る、つまり相手があるということが大事です。信頼というのにはいろいろありますが、個人情報といったことにもしっかりと配慮して、特に行政とのなかでのお手伝いということを考えますと、ここをきっちりと守ってやるということが非常に大事です。

それともうひとつですが、いかにボランティア団体といえども組織としてしっかりしていなければならない。継続していろいろなことをやっていくということになったとき、これは一般企業と同じであると思ひます。端的に申し上げますと、このようなボランティア団体を立ち上げた人というのは、大変思いが強く、大きな目的をもって立ち上げますが、年齢的な問題、健康的な問

題、いろいろなことでこの人ができなくなったとき、ポシャってしまうような団体ではいけない。やはり継続して続けるためには、私は2代目ですが、初代の偉大な人がいましたが、何とかしてこの組織を続けていかなければならないということに力点をおいてやってきました。今度は自分がそろそろ引き下がる。そのときにやはり次の人を育て上げた中で、継続していけるように考えていかなければならない。これから、何をするにしても、団体を立ち上げるときに一番大事なポイントであると私なりに考えております。

【三木氏】 塩見さんお願いします。

【塩見氏】

今井上さんがお話されましたことに、私自身も関連するのですが、NPO 法人というのは組織化されているのですが、考え方としては組織であって組織でないと思っております。なぜ企業のような組織でないと思うかという、命令系統というのが組織のように独立しておりません。わたしから誰かに命令をするというのは、間違えの元になります。受け取る側が、命令として受け取らないですから、

同じ仲間同士との感覚ですから、命令による伝達という方法でやりますと、当然そこには抵抗感が生まれます。つまり現役を退いた方々は、皆さん同じレベルです。たまたま、役員をやっている、ある窓口をやっているということです。丁寧にお互い話し合いをしてお願いをする、依頼をする。そして同意を得て実行をする。そうすれば、あまりもめることもないのではないかなと思います。そのようなことで組織であって組織でないと申し上げました。

それから、介護保険制度のいろいろなことを私はやっておりますが、その中でご承知であると思いますが、施設に入る場合には、入居説明の際に、アシスメントというのがありまして、家族の意見、ご本人の意見を、「何がしたいですか」「何が望みですか」「日常生活の中でどういうことがお好みですか」など、聞くようになっていきます。それで介護施設に入って毎日生活する中で、聞いたアシスメントに基づいて実現させてあげることが、介護施設の役割ということになっております。

それと同じことで、私たちがある教室を作って、あるテキストを作って、それを押し付ける。そのようなやり方というのは、いいのだろうかと思えます。本当にシニアの方々が習いたい、その内容というのは、どんなことでしょうか。このことをきっちりアセスメントして実行したほうがいいだろうと思えますが、なかなか難しいことです。難しいですが、受講生を集めなくてはならないし、それをいちいち聞いていると何も実行できない。時間もかかる。しかし本来の基本は、やりたいことをやらせてあげることが、長続きすることであり、平穏なことであると思えます。辛抱して、よく考え、努力することが、成功の近道ですと、私は信じております。

【三木氏】

ありがとうございました。ボランティア活動というのは、組織であって組織でない。組織でないけれども組織立ってやらなければならない。あい矛盾した使命であって、そのことをよく心がけてやりなさいという貴重なアドバイスだったと思えます。

続きまして、堀池さんお願いします。

【堀池氏】

シニアネットをこれから始める方に、私から言いたいことは、少し違うことです。この会は10回目です。10年近く続いてきた。10年前のスキムで動いてきているわけです。どういうことかという、非常にデジタルデバインドとしてのシニアが多い。いかにシニアに、ITを、メールを、インターネットを活用してもらおうか。それがいかに充実した生活につながるかということやってきておるわけです。そのなかで課題として、いかに組織運営だとか、効率的にそれを教えるのかということになってはいますが、私はそういうどのようなやり方をするかというテーマではないテーマが、これから始める人にとって、一番大きいのではないかと思います。

世の中がシニアに求めているのは、なにをやるかといったスキムがないのではないか。2002年に政府がIT教育を530万人やりました。大半がシニアです。

その後入ってくる団塊の世代は、企業でかなりやってきている。ITを活用して、なにを地域でやるのか、地域でITを活用しないことのほうが問題なのではないか。その方が、非常に大きな課題ではないか。

今日、経済産業の部長の方が挨拶でお話されましたが、コミュニティビジネスの推進ということで、地域に役立つビジネスを地域住人がやることに、かなりのお金を国が付けるようになってきた。

問題は、課題解決です。このようなわけのわからない課題というのがあります。例えば最初に戻りますが、日本人が持っていたいろいろな物づくり、ナイフの切り口はどちらですかと、小学校5年生に切りだし小刀を見せて、40%の子供しか切り口がどちらか答えられない。生まれて初めてナイフを見ましたという子が多い。それぐらい親が見せていない。台所の包丁すら見せていない。こういう風なことが問題ではないか。非常にマイナーな問題に見えますが、我々シニアにとっては、大事な問題で、シニアがやらなければ誰がするんだといった課題が残っています。

このことをやりたいということで、小学校でやりました。たくさんのノウハウがあります。このときにITが大変役立つわけです。こういうことをやりたいという人がたくさん集まってくるわけです。このことをブログに書き、見ている人とメールでやり取りをする。なにをやっているかということが明快に分かるわけです。これは高度なITの話ではないわけです。ITをこういう活用をしていくということで、こういうことにお金を出しましょうとか、ビジネス的にもやっていきたいと思いますという話が出てくるわけです。

マイクロソフトの営業の方とも2~3年前に話しましたが、このような活動が活発化すれば必ずマイクロソフトも儲かる。必ずマイクロソフトの製品を使うようになる。活発化する活動は、何でもよい。今までやっていない活動をやっていただいたら、取り組みましょうということがあるわけです。

シニアネットの活動で、シニアドというのはしっかりとした仕掛けとして展開しているわけですから、この上に乗っかって、ITの活用は楽しいよということ、これはこれで需要がありますからやって、その次に、何を活用するのかということに対する、勉強、コーディネーションをしていくようなことを、シニアド2.0といったことでやっていくべきだと思います。

徳島大学の吉田敦也先生が「構築ガイド」109ページでおっしゃっていますが、今ヨーロッパで、このシニアドを世界標準にして、EUの方々は労働者名簿にこの資格を持っているということで、採用のときに使っている。日本にはこのことがないのは、シニアドがこのことに取り組んでいないからです。

こういうことを取り組んでいかなければならないと、吉田先生はおっしゃっています。非常に

重要なことであれば、アドバンスの次のことをやる。このことを、これからシニアに入ってくる人たちのことを考えて、やっていくべきだなと私は思っています。リアル活動にITをどう活用していくかということテーマに、新しい方々は取り組んだらよいと思っています。

サジェスションなのか提案なのか分かりませんが、よろしくお願いします。

【三木氏】

ありがとうございました。10年一区切り、また新しい10年が始まるわけで、それに対応した取り組みも必要だというご指摘をありがとうございました。

報告者の方々には、たいへんご協力をいただきまして、時間を知らせる押鈴もほとんどなくなっていて、予定通り進めてこられたことを大変感謝いたします。

このパネルは、双方向性のものでして、これからフロアからのご質問を受けたいと思います。今日はずいぶん盛り沢山のいい話がありました。この提案をもう少し聞いてみたいなというところがあったと思いますが、どなたかおられますか。

少し考えていただいている間に、これからどうするか、今後こういうことやってみたいということがありますでしょうか。

では塩見さんいかがですか。

【塩見氏】

いろいろな場面でたとえの話が出てきます。

日本人の人口の5人に1人は65歳以上であるとか。繁華街に目を向けてみると、5人に1人が65歳以上であるとは感じられない。若い人たちが多い。では、この時間65歳以上の方々は、どこで何をしているのか。その活動のパターンを、行政の方とか調査会社が、この時間、このような活動があるから、皆さん参加してこのような活動をしてみてはいかがですか、午前10時頃にはこんなこと、午後3時頃にはこんなことをしてはといたことができるよう、調査していただければいかがでしょうか。シニアの行動パターンを、5人に1人が、1日どういうことをしているのか。ただ5人に1人と言うだけでなく、その有効性をこのような活動につなげていこう。このことが、次の世代にいい結果を生むのではないかな、いい活動につながっていくのではないかなと思います。今日のこのフォーラムのテーマのように、アクティブシニアに、我々シニアネットが近づいていけるのではないかと、常日頃考えております。

【三木氏】井上さんいかがですか。

【井上氏】

今日はいろいろと、隣におられる皆さんのお話を聞いて、私どもこの10年ほとんどITの講習を中心にきておりましたけれど、正直申し上げましてこれだけでは行き詰ってくるだろうと思っております。そう意味で言いますと、ITを活用していく場面をもっと考えていかなければならぬだろうと思います。行政を含め、いろいろな方々とお話しながら、もっとITを活用する場所、お手伝いできる場所はないだろうかということで、もっと広がっていかないと、現在やっている我々の活動は、そのまま収縮してしまうだろうと思っております。その辺のところをもう少し広めていく。また堀池さんの三鷹とか、広島塩見さんのところなどのことを、もっともっと具体的に聞いていきたいなと思っております。

【三木氏】

ありがとうございました。三和さん、非常にきめ細かくやっておられますが、リーダーとなる後継者について、どのようになさっているのかということと、今後こういうことやりたいという取り組みについてお考えがありましたらよろしくお願いします。

【三和氏】

リーダーの問題は、正直困っております。次の世代をどうするか。今感じておりますのは、定年退職して年金がもらえるまでは、こういう NPO 活動や、ボランティア活動に来られない。昔は60歳ぐらいでしたが、今は65歳ぐらいです。年金が満額もらえるようになると、NPO やボランティアに来られる。これが今の実態です。そういう中から、先ほどから話に出ているような、本当に好きな方がおられて、後のことをしてくれたりなということで、現在のところ70歳前後の方ががんばっているのが実情です。

もうひとつは、どうしても先生というのは、上から物を言う。これだけはやめてほしい。私たちは、同じ目線でやるのが大切である。会社にいたときの肩書きが、絶対通用しませんよ。そのことが分かっていたら、人柄も分かってきますから、起こしになる方も喜んでいただける。ちょっとお茶汲んできてくれないかなどと、先生が言ったら、だれがついてきますか。なんで、他人の亭主にお茶をいれなあかんのやと思います。ボランティア活動の基本です。そういうことを分かった親切さ、お互いの待遇を認めあってやっていけたら、パソコンというのは本当にいい武器だと思います。

私の女房も好きになってやっておりますが、取っ掛かりをうまく誘導してやる。もっと端的に言うと、えらそうにせず、素直に接して一緒にやりましょうとこんな感じで進めていけば、輪が広がっていくのではないかとそんな感じがいたします。

【三木氏】

蓑田さん。

【箕田氏】

私は観点が違うのですが、シニアネットさんの今後の活動に参考になるかもしれませんのでお話しします。

ハードの話ですが、今地上デジタルとか、新しい情報のツールができてきて、双方向でいろいろなことができる時代になります。私ども大阪市の場合、光ファイバーを引くために関西電力さんと昭和60年ですからずいぶん前になりますが、一緒に会社を作りまして、今はそれを唐沢寿明がe o ひかりという宣伝をしております、ケイオブチコムと言う会社になっていますが、大阪市が最初に取り組んで、今は民間会社になっています。その中でCATVという有線TVがあります。地デジはたくさんのチャンネルを持っていますが、このCATVもたくさんのチャンネルがあります。それを地域の活動に使いたいという話が、そのCATVから来ていまして、私もお付き合いがあるものですから、お話をしておりますが、その日の市場の価格なども含めて、双方向でリアルタイムにやり取りできる番組ができるわけです。CATVというのは、地域に依存型の放送ですから、そういうものを地域のツールとして使っていくような基盤ができて、皆さん方の活動がスムーズにブロードバンドでやっていけるように、整備ができればと思っております。そういうハードの進展もにらんで活動をやっていただければ、いろいろなことも考えられるので

はないかなと思っております。

【三木氏】

堀池さんにお伺いしますが、竹とんぼのお話で、私は最後のところを聞き漏らしているかもしれませんが、講習会をやって、あのよく飛ぶ竹とんぼつくりの技術を体験してもらおうということで、これはすばらしい世代間交流の場になっていると思います。そのこととITのことが、具体的にはどのようにしているのかというところをもう少し聞かせていただきたいのですが。

【堀池氏】

フロアの方から質問ができれば答えようと思っていたのですが、今、どこ竹の活動は、子供たちにどのように教えるかということには、ITをまったく活用しているわけではありません。営業をして、教室を準備して、児童館とか学校とか、商店街と組んでやるときに、その活動の連絡をきめ細かく、メーリングリストでやっています。その間の資料のやりとりとか、テキストなどを渡したりするときにITを使っている。実際に行われるところ発信の共有、どのようなことが行われているのかという部分です。どういうことをしているのかということが、単純な写真をブログに掲載することで分かるわけです。

会社のIT→発信と仲間づくりのIT

ナイスガイの<7つのIT道具>

- 名刺 (私はこう思ってますを語るスタート)
- ポップ文字、チラシ(「ちゃんと」「良く」なければ…)
- ★デジカメ (生々しく、本物と判る!)
- ★レポート (ブログ発信でいつも刺激を共有)
→ソーシャルネットサービス (SNS)
- ★連絡 (みんなで情報共有メーリングリスト管理者)
返事 (携帯やWebメールですぐに)
カラープリント (良い資料をふんだんに見ながら)

自身の事業する人 サポーターする人も

p.33

県立の博物館の方とか、これを見た方から電話が「あなた方の活動はほんものだ」とどんどんかかって来るわけです。講師依頼があつて、打ち合わせをしましょうということになります。それをまた、メンバーに連絡する。本部はほとんど活動しておりませんが、10の地域のグループが、それぞれメーリングリストをもって、ブログを発信しますし、個人ブログも発信しますから、個人でやっている工作や、使っている道具が掲載される。やっているレベルは低いのですが、よってたかってITを使っている。ITを使わないとこのようなアナログの活動が推進できない。

アナログの活動をやればやるほどITで連絡をとるという関係になっている。これは、竹とんぼの例をお話していますが、竹とんぼでなくてもいいわけです。子供に料理を教えるとか、ほかのことでもいいと、そんなことを思っています。

【三木氏】

ありがとうございました。よく分かりました。フロアの方から、質問がないようなのですが、私のほうから質問しますと、いろいろな活動をする場合に、専門家が必要になります。専門の技術や知識を持った人やサポーターを集めなければいけない。そんなときに皆さんはどうされているのでしょうか。どんな工夫をなさっているのでしょうか。

井上さんのところは、リーダーの人材は苦労して集まるというのか、育成など意図的になにかやっておられるのでしょうか。

【井上氏】

意図的にとか、特別にということではないのですが、私どもがスタートしたときには、ただ一人よく知った方がおられた。その人が先生になってやっていって、そのあとは皆がそれを聞きながら勉強しながら、今度は自分たちがインストラクターとして教えられるように努力していった結果です。

ただ最近では地域のリーダーとしての活動できる、地域リーダー養成講座などもやっております。養成講座にこられる方は、かなり詳しい方も増えてきております。ワードやエクセルといったいろいろなパソコンのコースを特別に6日間かけて長くやります。そういう風なことをやってクラブ員になってもらって、そこからシニア情報生活アドバイザーの資格認定をしてもらうための講座をやっております。

私どもがやっているのは、パソコンを教えるということが中心です。ほかの方々は、もっといろいろなことをされていますので、それぞれリーダーをどのように発掘されているかわかりませんが、私どもがやっているのは、以上のようなことです。

【堀池氏】

今の三木さんのご質問に答えるのは、なによりリーダーシップの発見の仕方というのをやっているのが、シニアドです。

シニア情報生活アドバイザーの価値というのがどこにあるかというと、いろいろなレベル、高いレベル、低いレベルの教える人がいるのではなくて、さまざまなシニアに対応するためには、このレベルのことをきっちりやらなければならない。みんな同じにするわけです。そのことによって共通した教室運営がやれるようになるわけです。そのことにものすごい価値があるわけです。

私はそれを、シニアドで学んだので、ドコ竹に持ち込んだわけです。竹とんぼの教室に、ものすごくできる講師がいたら、工作をやったことがない方は怖気づいて、協力しにくくなるわけです。最低限30分で子供に作らせて10m飛ばせるようにする

ということは、これを必ずやらなければならないし、必ずこれをやってください。それを皆できるようにしているから、教室が協力して、どんどんどんどん運営できるようになるわけです。私がその先というのは、高度なことではなくて、これから地域課題をやるときに、このようなことをやればよいのではないかという、シニアドが考えているような仕組みを、地域課題の解決に持ち込むことができるのではないかという気がしています。

リーダーのリーダーシップに温度差がある中で、どのようにやるかということは、シニアドの教育の中で、シニアド育成の中で非常によくできていると思います。

【三木氏】

ほかになにかありましたら。


地域に信頼を得た～ 「どこ竹」のグループ活動

シニアドが生み出した人たちが！

世田谷区桜丘小
夏の集まれ広場

- 普通の人々が、「町の交流の竹とんぼ教室」
- 4年半で、150人の講師が誕生。60都市、300回の教室で1万5千人に竹とんぼを伝授
- 都内、首都圏から全国に10グループ...

孫世代に知恵と技術を伝えたい！がなぜ実現？



【塩見氏】

私がなぜシニアネットの理事長になっているかはともかく、理事長である代表者は、パソコン教室を開催する当事者ですから、パソコンのことについて1から100まですべて精通しているかと、そういうことはありません。

要するに、私たちは何を目的に、何をしたらよいかという理念をしっかりと持って、マネジメントすることが大事です。そのマネジメントすることを見失ってしまうと、教室があっち行ったりこっち行ったり、ばらばらになってしまう。アドバイザーの配置をどうするか、広報をどうするか、そのようなことをキチッとマネジメントできません。

ですから、役員会とか、部次長とか言う人はマネジメントを心がけて、教室が正常に運営できること、堀池さんが言われたように、平均のレベルに教えるために、学んでいただくためにどうすればよいか。

平均レベルの方が10人いて、そうでない方が90人いたのでは、組織はうまくいかないのではないのでしょうか。90人の方が、怖気づきますから。

私どもはすごいとは思いますが、その精通したレベルには到達できないと思います。私はせめてマネジメントが正常にできるように、皆が笑顔で受講できるように、そういう教室の進行を目指しているところです。

【三和氏】

活動のポイントですが、富士山がそこにあるとしますと、富士山は東西南北どこからでも登れます。上り方は、いろいろテクニックあって、それぞれ個性があつてかまいません。一番上にある目的・ミッションに到達する意識を合わせておかななくてはけません。これが長続きする最大のコツです。

そのときに個性がいろいろあります。個性同士がけんかしないことです。お互いにけんかばかりしては、前へ進まない。お互いの非難をしないことが、チームワークのあり方だと思います。私がマネジメントをやって、ITの方は、2人の方が中心ですが、2人の意見が違います、発想が違いますが、目的は一緒です。そのなかで私が営業をしてやっております。

それぞれの進め方の中に、私も加えてもらってやっていますが、そのような形で進めていくのがよいのではないかなと思います。

【箕田氏】

私のところは組織が違いますので、ITを教える人を教えるということでお話をしますと、私どもの中にホームページを作る仕事があります。それには派遣社員を使っていますので、かなりのプロです。

そういう派遣社員が、私どもの職員に教えるわけです。また教えてもらったものが次に教える。そういうことで次第に職員のスキルが上がっていきます。

それぞれの職員が独立して仕事ができるようになる。組織が違いますが、人材を育成するというのであれば、そのような感じでしょうか。

【三木氏】

シニアネットがいかにシニアの生き方をアクティブにしているか。いかに地域に活力を与えているか、ということ、実際の例を下に実感していただけたと思います。駆け足の討論になります。

したが、でてきた話題とかテーマとかいうものは、大変密度の高いもので、他のボランティア活動をやっています、私どもにとっても非常に有益な議論を聞けたと思っております。ほかにお話はありますか。

【井上氏】

私は、ひとつ会場の皆さんに考えていただきたいことがあります。

それは何かといいますと、ボランティア活動というのは有償なのか、無償なのか。本来ボランティアというのは、無償だと聞いております。最近では違ってきて、有償活動なのです。私どもは、ここにおられる方も同じだと思いますが、年金生活に入っていますので、それほど有償にはこだわらないと思いますが。しかしこれから入ってこられる若い方々は、どうなのだろう。お前意欲があるから、無償でがんばれ、ということが言えるのか。有償というのは、どれぐらいどうなのか。今日の話題には、そこのところはタイトルとしてありませんので、述べるつもりはありませんが、やはりそういうことも考えた中でやっていかないと非常に難しいのかなと、逆提案で申し訳ありませんが、勝手なことを申し上げました。

【三木氏】

それではおしまいにあたって、私が一言だけご挨拶します。高齢社会が進むにしたがって、「3カク健康法」ということがよく言われるようになりました。私はどなたが言い出したかは存じませんが、この「3カク」とは、「汗をかく」「文を書く」「恥をかく」ことです。「汗をかく」というのは、適度な運動をする。意欲的に物事に取り組むことです。「文を書く」とは、シニアネットの場合には、キーボードをたたいてしきりに情報交換を行う。ボケ防止にも役立つ。3番目の「恥をかく」、これが大切です。恥をかくことをいとわず、前例のないことに挑戦する。若者のような旺盛な好奇心、これが必要ではないかという「3カク健康法」です。

今日、報告をいただいた5人の方の活動なり、お考えに共通していたのは、まさに、この「3カク」ではなかったのかなと思います。

それから最後に私自身のボランティア活動を通じて感じていることを、一言申し上げて、それでお終いにしたいと思います。

ボランティア活動とは、一番目、まずは、自分が楽しむこと、二番目、楽しみながら心地よい汗をかくこと、三番目、心地よい汗をかきながら、ちょっぴり社会に貢献したなという満足感に浸ること。これがボランティア活動をやる上で基本的に押さえておかなければいけないことかなと思っております。

楽しんで、心地よい汗をかいて、ちょっと社会にいいことをしたなという満足感に浸るのが、シニアネットの活動の基本ではないかと思えます。

この活動が、さらに拡大、発展すること祈念しまして、このパネルを閉じたいと思います。長時間ご清聴ありがとうございました。

ケーススタディ 『シニアネットが地域を支える』

■テーマ1 「シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています」

課題提供者

砂川 正男氏

(NPO法人沖縄ハイサイネット 会長)

こんにちは、沖縄では、挨拶はハイサイです。女性は、ハイタイ。男性は、ハイサイ。ですから、ネットのネーミングは、シニアネットですけどもハイサイネット、ハイサイの特別な意味から説明ができるのでハイサイネットにしたわけです。

ご承知の通り、沖縄県は離島県ですけれども、ITの世界になってくると東京も大阪も沖縄もないと思います。しかし、これは、非常に大切なことが一つあります。通信回線です。通信回線は、東京や大阪におられる方は、あまり感じないでしょうけども、これはITの活動だけではなく、緊急時の救急活動とか医療にとっては、大変大切な物です。ですから、通信回線がどういふふうにかれるかってことが大変な問題ですが、まず、沖縄県は、面積にしてみれば大変ちいさい。

人口は137万人ぐらいで、年間の観光客が今620万～630万人ですが、1千万の観光客も迎える準備でやっております。

これは沖縄県をこちらから上の方は鹿児島です。これは与論、これは奄美大島、ざっとこのように沖縄県本島が、このようにあって、竹島、宮古、八重山があります。なぜこのようにざっと出しているかというと、沖縄県の有人島というのが、49有ります。それから、無人島があつて、72ぐらいありますか。東西が1,000km、南北が400kmという広大な県域を持っています。

東京は東京、大阪は大阪という陸だけ（区域だけ）を考える。これは、大変な誤りですね。日本の領土とか領域とかを考える場合、陸と海と空、陸海空からなるのが一つの領土ですから、これからいうと沖縄県の海は、一番広い面積を持っています。海の海域によって、領土の大切な資源があり、海産物もありますけども、海の中の鉱石もあります。いろいろありまして、沖縄県でもこの与那国は、日本の最先端で、ここは、台湾がすぐ晴れの日には見えます。私ども沖縄から飛行機できましたけれども、だいたい時間にして1時間と40分くらい2時間弱ですね。沖縄の人間というのは、船というよりも、ほとんど飛行機で行くのです。昔は舟でいきましたが、今はほとんど飛行機で飛びます。

ということで、北海道まで3時間、そんなに時間的な移動についてはあまり不便がありません。どこに行くにしても、海外に行くにしても、非常に飛行機が大変発達しておりまして、そのような意味で非常にありがたいと思っています。



今、沖縄が観光で注目されているようですが、衛星からみて沖縄県は、非常に大切な、重要なところ・太平洋のキーストーンであると言われていています。第2次世界大戦の時は20数万人の県民がなくなっているのですが、そういう太平洋のキーストーン・要石にあるわけです。

私どもは、鹿児島に飛んでくるよりは、台湾に飛んでいったほうが早いです。大体50分もあれば、台湾まで行きます。台湾に行つて帰つてきても、どこ行つてきたのか、と聞かれて、鹿児島に行つてきましたと言っても全然わからない。ソウルとか、或いは、香港でもいいし、フィリピン等、アジア地域にもすぐ飛んでいける。

今沖縄では、ドルが大変やすくなっています。円高ドル安です。

私どもが住んでいるところでは、米ドルも使えるのです。ですから、買い物をする時、タクシーに乗るとき、また居酒屋行くにしても、どちらを使うか選択するのです。今だと、ドルを使う人はあまりないですね。今1ドルが、100円もいかないでしょう。今まで120円だったでしょう。皆さん、テレビでも新聞でもご承知の通り、輸入品が安くなっていますね。円高ドル安だからです。旅行に行つても、海外のドル圏内はやすいですね。沖縄では、ちょっと違った面がありました。

沖縄で私がいつも申し上げているのですが、沖縄の文化には、琉球料理がありますが、これは戦後いかなる料理も含めて沖縄料理と言っています。まず料理、それから琉球舞踊、琉球泡盛、この三つが沖縄の総合文化だと、私は思っております。

この三つは、お正月であれ、結婚式であれ、青年祝いであれ、祝いの時にはこの三つが必ず出ますね。

まず食べる。琉球料理がいろいろ出ます。それから、三味線と一緒に琉球舞踊があります。それがあつたら必ず銘酒泡盛があります。特に古酒。

私がITをやりだしてから大分になりますが、琉球泡盛というものがどれだけおいしい酒なのか。泡盛のルーツをたどるために、ITを始めたのです。中国とか台湾とタイとかミャンマーとか、そういうところに行く為にパソコンを初めました。そういう文化というものを大切にしております。

なぜ、私がこういう話をするかというと、すべてITを活用しているからです。沖縄にいらつしやる時に大切にしたいのは、この三つの言葉、これだけ分かつておられれば、沖縄も通だと言われます。

沖縄の方言で「チヌゴクル」肝心というのは、ちょっと、当て字みたいですが、誠心誠意という、真心というよりも、もっと深い意味があります。それから「ヌチドウタカラ」これは最後の琉球王朝の小大王が、戦い終わつて言った言葉ですが、何よりも大切な命、命さえあれば、どんなことでも乗り越えていける。「イチヤリバチョウゼイ」行き会えば兄弟、これも沖縄の言葉で、横の関係、横社会を大変大切にする。これは外国に行つても沖縄県人が盛んに活動できる、キーポイントになっています。

沖縄の文化

総合文化として、次の3項目に分類することができる。

- ① 琉球料理
- ② 琉球舞踊
- ③ 琉球泡盛

☆大切にしている言葉

チヌゴクル(肝心、誠心誠意)
ヌチドウタカラ(何より命が宝である)
イチヤリバチョウゼイ(行き会えば兄弟)

私がこの話をしているのは、南米ブラジル、ボリビア、アルゼンチンに移民した一世の皆さんがいるのですが、だいたい95歳から97歳の高齢の方、6人程と懇談している時にその皆さんに、「何が大切にしている言葉ですか」と聞いたら、この三つの言葉をズバリ言ったのです。

大変感激いたしました、金じゃない財産じゃない大切にしているのはこの「チヌゴクル」です。ひとつは「ヌチドウタカラ」です。大変な目にあってきましたがこうしてやってきました。そして「イチャリバチョウゼイ」という言葉も大切に地域に溶け込んでいます、ということで、ここでITが有用になるのです。皆さん、使っていると思いますが、メールは、相手が受診する装置を持っていれば、どこでもできます。そこで、ブラジルにいる親戚とか、知り合いとか、ハワイにいる兄弟とか、そういうところに、写真を添付してメールを送るわけです。またよく使っている方がおられますが、テレビ電話、これはインターネットを使えば、顔を見ながら何でもしゃべれます、ということで、私たちの沖縄ハイサイネットのメンバーの中に、活用されている方がおられます。

これは、代表的な沖縄文化の踊りですね。また料理がいろいろあります。

泡盛があります。

沖縄県というのは、通信回線の使用料がやすい、だいたい本土の半分以下だと思います。

それはどういうことかという、企業誘致や雇用対策が大変重要だということで、通信回線（通信料）を安くしております。それと、医療福祉とか、教育振興が大切だということでやっています。



沖縄ハイサイネットは、8周年を迎えて、9周年目に入って、立ち上げから仙台シニアネットクラブの井上さんや、広島塩見さんという皆さんに大変お世話になって、今10周年を目指しております。

元気、勇気、活気というテーマを作って、元気とは何ですか。健康にはかなわない、勇気何事にも挑戦する勇気が必要である。活気とは、みんな笑顔で、みんな楽しくする。

沖縄ハイサイネットのテーマは、常に楽しくなる。これ一本です。楽しくないとだめです。むつかしいこと楽しくないことは、やめておきなさい。一切それ以外のことはいいです。後でも出てくると思いますが、

生活に役立ちますか。便利な機能ですか。趣味に生かれますか。これ以外難しいことはやりませ



ん。なんでも自分たちでやります。踊りから振り付けから、沖縄ハイサイネットの作詞作曲したハイサイネット音頭というものもあります。全部自分たちで創作舞踊から古典舞踊までいろんな事を自分たちでやります。プロの皆さんもメンバーの中に入っていて、本当に何でもやってくれる。そういうことがとてもたのしい。

現在ではパソコン教室、沖縄県的那覇市、沖縄市、うるま市に18クラスを持っていて、延べ人員ですけれども約1,000人が修了しています。

これは、パソコンをクラスでやっています沖縄子供のくに未来ゾーン、そこでやって休憩の様子です。

これも、うるま市での受講風景、これは事務所です。理念と目的は何かというと、パソコン教室というのは、あくまでもこれは手段である。ツールである。どんなにパソコンが素晴らしく技術ができて、幸せになりません。それから、絶えずスキルアップをはかり、自ら人材にならないといけません。なぜそういうことをやるかというと、最終的には、常に楽しく浸透するという事になりますが、こういう四つの理念と目的でやっています。

人間というのは、私はいつも、感動と発信だと言っております。自分が感動しないと人にも伝えることができません。本当に嬉しい楽しい素晴らしい。自分が感動すれば必ず相手にも、伝わります。そのような感動と発信というものが、大切だと思います。

私たちが大切にしなければならないことは、時間の使い方ということです。時間の使い方としては、1日は24時間。子供から年寄りまですべてにあります。あの24時間をどう使うか。これが大切だと思います。私は今、退職しておりますが、35年ぐらい市役所にいました。

まず、私たち自身の1日の時間を考えると、一つは睡眠時間をとらなければいけません。これは3分の1で大体8時間と言われております。もう一つの8時間というのは、仕事時間です。今一般の人の仕事時間を、私はシニア時間といって、自分のために使う時間にしてあります。あと一つは、生活時間です。この三つに大きく分けて、私は、生活しています。睡眠時間とシニア時間と生活時間。8時間を睡眠時間、8時間を生活時間、後残りをシニア時間として、自分自身のスキルアップをしたり、シニアのために活動したり、自由時間に行っているわけです。私のテーマとしては、会社とチャレンジです。今まで生まれ、ずーっと仕事もさせていただいて、いろんな人にお会いして、家庭もそうですが大変多くの人にお世話になった。私の人生、今までの人生、会社以外の何ものもありません。そんなからの人生をどうしますか、今日から明日、明日からの私の人生があります。私は、69歳です。しかしチャレンジ、会社とチャレンジ、これが私のテーマです。今日から明日からの人生、挑戦・チャレンジのための人生です。どんなことにも、勇気を出して、踏み込んでいく。一歩乗り越えていく、ということを私は考えております。

これはハイサイネットの合言葉で、常に楽しくということをやっております。

先程、仙台シニアネットの井上さんがおっしゃっていました。シニアがシニアに教える上で人気の高いのが、仙台シニアネットで学んだことですが、教えるということよりも、

ハイサイの合い言葉:常に 楽しく



沖縄ハイサイネットの総会風景



自ら作詞作曲:沖縄ハイサイ音頭

ともにパソコンをさわることなのです。キーボードもわからない、ローマ字変換もわからない、さっぱりわからないというのが最初ですが、初級・中級・上級とやってきて、デジカメもありますが、シニア情報生活アドバイザー養成講座を受けてもらいます。私は、アドバイザーで実働できる人が、100人欲しいのです。

ハイサイネットでは、18クラスのパソコン教室を持っておりますが、そこに来て、いろいろサポートをしたり、応援したりしてくださる方がトータルすると、実働70人ぐらいです。一つのクラスに講師が1人、サポーターが4人、それに見習のような自分からスキルアップしていくサブサポートがいます。シニア情報生活アドバイザーに合格した人は、サブサポートになる。そして、私たちハイサイネットの会員もシニア情報生活アドバイザーに合格して認定書をいただかないとサポートになれない。今、うちの会員と97名。それに教室長という責任者をおいてしております。

この宮里さちこさんという方が民生委員もやっておりますが、ブラジルとかカナダとか、ロサンゼルスとか、ハワイとかこういう海外ネットワークを組んでメールでどんどんやりとりをしている。自分の孫とかは当たり前です。言葉がわからないときは、通訳をお願いして70歳あまりになりますが、本当に一生懸命されております。



これはハイサイネットのデジカメ作品展ですが、ハイサイネットでは、達成会というの、やります。まあいふなれば、沖縄県内の名所旧跡を尋ねて、デジカメで撮影して、別にデジカメのクラスもありますから、そこで撮影会をやって、それから、展示会をやります。市役所のロビーとか、病院のロビーとかでやります。この病院のロビーでもこの11月15日から20日間やります。

おもな支援活動、沖縄が誇るエイサーです。エイサーというのはお囃子で今まで、52回続けております。



沖縄の文化 (エイサー) 青年たちの熱い エイサーの演舞



9月の第2日曜日、旧盆明けの日曜日に青年男女が集まり、1グループで約80人から90人で活動します。幼稚園の時から小学校中学校とやっていくものですから、後継者の心配が全くない。そして、エイサーの団体に入ると先生が、幾ら注意しても、きかない子も、エイサーの先輩が、いうと一発でいうことを聞きます。教育効果がものすごい。

万博以来、私は、100回近く大阪を訪れていますが、本当に懐かしいと言いますか憧れの地でもあります。大阪の豊中市と姉妹都市を結んでいます。ということで大変お世話になっております。

国内外との交流ということでは、台北とか、ソウル、ハワイとかいうところへ訪問してシニアネットと交流する、ということもやっております。これは台北との交流風景です。

台北シニアとの友好交流



これは、ソウルでの交流の風景です。

韓国ソウル江南区との友好交流



これはハワイシニア及び松本シニアネットとの交流風景です。

結びとして、事業として、確立はしておりますが、もう少しスタッフを充実したいです。私どもは、あまり受託事業を受けておらず、受講料ですべて運営してきておまして、だいたい年間予算は1千万ぐらい。これは、ほとんど受講生からの受講料です。だいたい3ヶ月、5,000円～6,000円の受講料です。月2,000円、これは、中級上級で違います。各シニアネットのネットワークをどうしても構築したい。また、シニアネットの海外交流をどうしてもやりたい。また、ずっと続けて拡大もしたい。というようなことも考えて、窓口が欲しいなあ、と思っております。今日は、お話を申し上げましたけれども、ハイサイネットとしては常に楽しくこれ以外に、全然考えておりません。細かいことがありましたらまたいつか機会を見つけ、メールでもやりとりしたいと思えます。ありがとうございました。

■テーマ2 「シニアネットは歴史文化を次代に継承し、
地域振興に貢献しています」

課題提供者
布上 太三氏
(メロウ倶楽部)

メロウ倶楽部の布上でございます。本日のケーススタディは3テーマですが、その一つとして、私どもメロウ倶楽部の報告をさせていただくことは、大変有り難いことだと思っております。

最初にメロウ倶楽部の生い立ちに関して、おはなしさせていただきたいと思っております。

このクラブは、かなり個性的な団体で、今朝もお話の中で、シニアネットは百数十団体あると、お聞きしましたが、メロウ倶楽部もその一つであり、個性的なところというのは、主にその生い立ちに由来していると思っております。次に、本日の中心テーマですが、私どもの活動の一つにメロウ伝承館活動というのがあり、これを、詳しくご説明させていただければと思っております。

メロウ倶楽部の生い立ちでございますが、メロウ倶楽部は、1999年11月に立ち上げた団体でございます。先程、日本のシニアネット活動は、ほぼ10年前からだったなあ…というお話がございましたが、まさにその始まった頃、立ち上げた団体でございます。但し、メロウ倶楽部には、前身がございます。その前身といいますのは、1991年7月、その当時は、インターネット以前の話で、パソコン通信がネットワークの中心だったのですが、その一つ、ニフティサーブ上に、エフメロウ・フォーラムというものが、発足いたしました。ニフティサーブの後身が、現在のアット・ニフティ(@nifty)でございます。

このパソコン通信時代のエフメロウは、一時、大変隆盛をきわめて、最盛期の1994年から1997年頃、エフメロウ・フォーラムに対して発言をする、書きこみをする、所謂、アクティブな会員が、2,000人程いたのではないかと思います。当時としては、大変大きなネット上の集団でした。

ところで、パソコン通信が、順次インターネットに移行して行くという状況がはっきりしてきて、



メロウ倶楽部の生い立ち

- 1991年7月:パソコン通信(ニフティ・サーブ)上にエフメロウ・フォーラム 発足、最盛期(1995-1997)、アクティブ会員約2千人
- 1999年3月:パソコン通信⇒インターネットの趨勢を背景に、エフメロウの有志でネット団体設立検討開始
- 1999年8月:ネット団体設立発起人会発足(16人)
- 1999年11月:メロウ倶楽部設立・会員募集開始

1999年の3月頃にいずれこのエフメロウ・フォーラムは、終焉を迎えるだろう、それに、備えて、エフメロウの参加者自身でネット団体を設立しようではないかという動きが芽生え、1999年の8月にエフメロウの有志16人で発起人会を設立いたしました。そして、先程申しましたように1999年の11月にメロウ倶楽部を設立いたしました、会員の募集を開始しました。

2000年1月に、当時としては、斬新だったと思いますが、オンラインで設立総会を開催いたしました。設立当時の参加者は、129人でした。メロウ倶楽部の発足といたしましては、かなりラッキーなポジションにあったと思います。

2000年11月には、メロウ倶楽部の独自サイトを立ち上げました。この時に開設しましたサイトが、現在も続いております。2002年の11月には、後で詳しくご説明いたしますが、メロウ動画館というサイトを開設いたしました。2003年の7月には、メロウ横丁というサイトを開設しております。更に、2004年3月にメロウ伝承館を開設いたしました。

2005年の6月には、メロウ伝承館活動が、国連情報社会（WSA）の日本大会文化部門で最優秀賞を受賞しております。2005年7月には、英語版サイトを開設いたしました。2006年の2月には、メロウライブ館というサイトを立ち上げております。2007年1月にメロウ倶楽部のサイトのうち、公開のページのアクセシビリティ対応をしております。アクセシビリティというのは、サイトのバリアフリー化でございます。現在の会員数はこの10月末で452人になっております。年齢は452人の平均がおおよそ70歳となっております。

メロウ倶楽部というのは、どういう特徴を持っているのかと言いますと、ネット縁で始まったグループということになるかと思えます。これはどういうことかと申しますと、日本のシニアネットが百数十団体あるというお話がございましたが、先程、お話のありましたハイサイネットさんも、この後の仙台シニアネットさんも、どちらかという、地縁を中心に生まれた地域を中心としたグループだと、言えるかと思うのですが、メロウ倶楽部は、初めからネットの縁で生まれた団体であり、従って、会員も特定の地域に集中しておらず、全国各地にいます。

では、メロウ倶楽部はどのようなミッションを掲げているのかですが、1999年11月に設立致しました時に、設立趣意書を制定しており、その主意は、シニアの知識・経験を、ネットを通じて、発信することで社会に貢献し、シニア自身の生きがいを見いだす、といえるかと思えます。

メロウ倶楽部の特徴

『特徴』 ネット縁で生まれ、ネットで絆を深めているシニアのグループ

多くのシニアネット(日本全国で百数十団体):
地縁等で生まれ、ネットで絆を深めているシニアのグループ

メロウ伝承館のミッション

我々、平成のシニアが

- ・前の世代より引き継いだ大切なもの
- ・自分たち自身の生きた記録を

ありのまま、データ・アーカイブの形で、後世代へ申し送る作業を、日本中の、将来的には世界中のシニアの手で行なえるようにする土台を作ること

古きよきものを、最先端のIT技術を駆使して後世に残すことを目指すプロジェクト

これは、シニアの社会貢献活動の意味でございりますが、率直な話をいたしますと、多少、お耳にさわるかもしれませんが、私もシニアのひとりですから、ご勘弁して聞いていただければと思います。シニアは社会の卒業生であり、社会の非扶養者であります。これは年金生活者ということになるかと思うのですが、言葉を代えて言えば、我々シニアの存在そのものが、社会的コストであると言うことだと思えます。従って、私どもの心構えとしましては、社会への甘えを謹んで、出来る範囲で、社会貢献を行うことが望ましく、そのこと自体が、人間の本性として、生きがいに通じるのではないかという発想のもとに、この趣意書を制定しております。もう少し説明させていただきますと、我々シニアの存在そのものが社会的コストなのであり、このことを我々は、受けとめなければならないと思えます。逆に言いますと、よくピンピンコロリということが言われておりますね。私どもは、ピンピンコロリという言葉には、もう一つ意味があると思っております。現役の間はピンピン、リタイアしたらコロリというのが、実は社会的コストを最も掛けないことではないかと。これは、厳然たる事実ですね。しかし、そのようなピンピンコロリの姿を求めるような社会ではいけないですね。長寿成熟社会こそ、望ましい姿であり、我々が求めるものであり、社会全体が、それが望ましいと思えるような、そういう社会を作っていかなければならないと思うのです。そして、シニア自身も、そのような社会の構築に向けて、貢献しなければならないではないかと。そして、それが、大きな意味での社会貢献活動であると考えているわけでありまして。

私どもは、例えば、大阪府立健康科学センターで2001年の8月から毎週火曜日2時間、シニア対象のパソコン講座を開講しており、月4回の講座をずっと続けております。そのような講座もやっておりますが、メロウ倶楽部の特徴は、ネット上でのボランティア活動にあると思えます。

その一つがメロウ伝承館活動であります。メロウ伝承館活動は、サイト上からコンテンツを発信しております。これが、今回の報告テーマのメインでもあります。具体的にメロウ伝承館のほかに、二つ程サイトを立ち上げております。一つは、メロウ動画館です。メロウ動画館は、メロウ倶楽部のサーバーからシニア自身が、撮影編集したビデオを発信している。どうして始まったかという、これは2002年の10月に開設したサイトですが、その少し前に NTT の本社さんから動画配信というもの、黎明期と言いますか、

メロウ伝承館の歩み

2003/07:システム検討の結果、『XOOPS』採用決定

2003/10:コミュニティ活動支援センターに企画を認められ、助成金受領、システム構築を加速

2004/04:メロウ伝承館・日本語版サイト開設

2005/07:メロウ伝承館・英語版サイト開設

2005/07:国際連合情報サミット・日本大会・文化部門・最優秀賞受賞(この時点での投稿総数:958件)

2006/02:SNF21 in 東京・ワークショップ参加

2008/11:SNF21 in 大阪・ケーススタディ発表

『2008/10/15現在・投稿総数:3236件』

主要コンテンツ

メロウ動画館:2002/10開設 NTT本社より受託の自宅サーバーでの動画配信実験を発端にスタート(光るプロジェクト)

メロウ伝承館:2004/3開設 我々、平成シニアの経験・智恵を、ネットを通じて集積し、アーカイブの形で後世に残すことを企図⇒後世プロジェクト

メロウライフ館:2006/2開設 シニアの生活の智恵や、ノウハウをネット上に集積し、シニアが相互に、活用しあうことを目的とするプロジェクト

始まって間もない頃で、シニアの自宅のサーバーから動画を配信するという実験をしたいという話がありました。そして、そのプロジェクトをメロウ倶楽部で受託してくれないかという話があり、迷いもあったのですが、やってみようということで引き受けました。このプロジェクトに取り組んだ事が現在のメロウ動画館に繋がっております。メロウ伝承館、これは、2004年3月に開設したわけでございます。当時、ネット上で、ボランティア活動するということ掲げたものの、具体的にどんな事ができるだろうかと、一生懸命、考えました。その結果、我々シニアは、いろんな経験をしている、その経験を、ネットに集積して、それをアーカイブの形で後世に残すということをやろうではないか。そして、このプロジェクトを、メロウ伝承館という名前にしたわけです。これが二つ目ですが、もう一つ、メロウライブ館を立ちあげております。これは、メロウ伝承館を作って、後世に申し送るということに取り組んだ訳ですが、よく考えてみると、シニア自身が、生活の知恵とかそういうものを他のシニアからも教えてもらったり、教えたり、ということも大事なのではないかと考えまして、始めたわけです。即ち、シニアの知恵、シニアのノウハウをネット上に集積いたしまして、シニアが相互に活用し合うことを目的とするプロジェクトでございます。

メロウ伝承館ですが、我々平成のシニアが、前の世代より受け継いだもの、私たち自身が生きてきた記録をありのままにデータアーカイブの形で、後世に申し送る作業、これを日本中の、将来的には、世界中のシニアで行えるようにしていきたい。少なくとも、その一番手前の、取り組んでみるというところからやってみようではないか。別の言葉で言いますと、古き良きものを、最先端のITの技術で、後世に残すことを目指すプロジェクトかと思えます。

では、壮大なことを掲げて実際にはどんなことやっているのか。2003年7月にシステムの検討を行いました。このときに問題になりましたのは、通常、多くのNPOサイトはフロントエンドのみですが、企業などの本格的なサイトでは、必ず、バックエンドに、データベースを持っております。フロントエンドとバックエンドを連携させてサイトを構築するわけです。このフロントエンドとバックエンドをつなぐというプログラムは、ほとんど独自のプログラムが使われています。それでは、メロウ倶楽部で、それができるの？と言われると、メロウ倶楽部には、それ程の知識や経験がありません。私どもはそのギャップに悩みました。メロウ伝承館というミッションを掲げたわけですが、自力でプログラムを開発するという事は、ほとんど不可能に近いことです。その当時ちょうどタイミングよかったといえますか、世の中で、CMS、コンテンツ・マネジメント・システムの開発が進んでおりました。これは、フロントエンドとバックエンドをつなぐプログラムをパッケージにして開発しようというものでした。CMSは、幾つかありましたが、いろいろ検討した結果、私どもは、ZOOPSというフリーソフトを、使うことに決めました。それからサイトの構築をはじめましたが、そのまだ試験版ができた頃の2003年10月頃、コミュニティ支援センターというところから、認められまして、多くではないのですが、助成金をいただくことができました。それが、システム構築を加速させた契機になっております。それで2004年の7月頃にメロウ伝承館のサイトの日本語版を開設、2005年の7月には、メロウ伝承館の英語版サイトも開設いたしております。そして、2005年の7月に国際連合・文化部門の日本大会で、最優秀賞を受賞しております。この時の投稿総数は、958件でした。2006年の2月には、シニアネットフォーラム 21in 東京がございまして、この時のワークショップに参加いたしまして、当時の状況を報告しております。本日、2008年11月6日、ケーススタディとして今ここで発表させていただいております時点での最新の数字では、投稿総数は3,236件になっております。

それではどのような投稿が集まっているのかと言いますと、私たちシニアが生きて来た、戦争前後の話が、大変多いですね。例えば、「玉砕戦生き抜いた兵士」、倉田洋二さんが、投稿されておりますが、パラオ諸島のアンガウで玉砕戦があった、その時の実際の記録であります。この倉田さんは、この玉砕戦を生き抜いて帰国されておられますが、帰られた後、戦後は海洋学を研究されておまして、現在は、自然保護のため、再びこのアンガウ島で、暮らしておられる。この方が投稿されておられます。特殊潜航艇海竜に乗られておられた方もおられた方の投稿もあり、こんな事もおっしゃっておられます。「これで安心して戦友の所へ行ける。我々の記録が末永くメロウ伝承館に保存されれば、きっと戦友も手を合わせ喜んでくれる」。

戦災とか引き上げの記録というのがあります。これは北朝鮮から脱出されて帰国された後の記録ですね。会社にお勤めされまして、定年後に、書かれたものであります。戦前の旧植民地の暮らしだとか、引き上げの時の状況とかが克明に書かれております。或いは、広島原爆の記録も入っております。これには「最後のトマト」というタイトルがついております。この方のお姉さんが原爆でお亡くなりになったようですが、これは原爆に遭って火傷されていたお姉様にお父様が、トマトを絞って与えられた。これは、最後の水分を補給するためのものということが書かれております。

戦時中の生活に関して書かれた記事もございます。ここには絵日記もありまして、東京のエリート学校の生徒さんだったようではありまして、この方が疎開されまして、その様子を絵日記に残されている。これを見ますと、随分、今の生徒と違って、先生のいうことに追随されたのだなあとということがわかります。それから、韓国の方の日本の植民地時代に、韓国の方から見られました旧植民地時代の韓国の方の生活がよくわかる投稿もあります。

東村山ふるさと昔語りの投稿では、東村山を中心としましていくつかの地区で、古老と申しますか、老人の方に戦中戦後の出来事をお聞きして、それを記録したものが投稿されております。

外部からの反響、読んでいただいてどのような反響が出ておるかということですが、一つは2004年7月30日に、読売新聞で、メロウ伝承館の記事がかなり大きく取り上げられました。この記事は、「思い出の品をネットで後世へ」というタイトルで、昔の氷式冷蔵庫や、足踏み式ミシン、八つ割れ草履等が、写真を添えて平成のシニアが後世に送るプレゼントとして、紹介されました。

外部からの反響----新聞・メディア

読売新聞 2004.5.30

「メロウ倶楽部伝承館」の記事が掲載された。
「思い出の品 ネットで後世へ」と題し、氷式冷蔵庫、足踏みミシン、八つ割れ草履の写真と共に、平成シニアが後世に贈るプロジェクトとして紹介された。

NHKラジオ第一 2006.1.4

東大坂村教授のコメント「(いろいろなシニアネットの活動のなかで)メロウ伝承館が一番重要。自分たちの生きてきた軌跡をデジタルアーカイブにして後世に残す事業には、国ももっと力を入れるべき。高齢層の方々自身がそれに気づいて取り組んでくださったことにびっくりしている。

2006年1月4日、NHKのラジオ第1放送で東大の坂村先生がコメントされております。いろんなシニアネットの活動の中で、メロウ伝承館が一番重要と書いていただいております。自分たちの生きてきた軌跡を、デジタルアーカイブにして残す事業に国がもっと力を入れるべきではないか。それに気が付いて高齢者の方々が、その事業に取り組んでいただいた事に大変びっくりしていると評価していただいております。実際に読まれた方からも、いろんな反響があります。「ある学徒生の父」これはメロウ倶楽部の会員でハンドルネームがスカッパさんという方が

書かれた記事で、今日をこの会場にも来ておられますが、それを読まれた方から、ちょうどその方のおじいさんが亡くなられた所で、そのおじいさんの戦地の状況を知りたいということで、筆者の方と連絡をとられたとのことでした。

またハーバード大学の大学院生の方から、植民地小説の歴史を勉強しているということで、伝承館に投稿されている朝鮮関係の回想録が非常に興味深い、出来れば、投稿者本人と連絡を取って個人的にお話をしたいということで、その仲介をさせていただいております。このような読者の方からの反応も多いということでございます。実は、終わりにあたりまして、NHK ラジオの、先程申しました坂村先生のコメントですが、NHK さんから了解が得てありますので、今日公開させていただこうと思ったのですが、この会場では、ネットに繋がりませんので、インターネット上に、音声メッセージを置いておきますので、後で、インターネット上のプログラムにアクセスしていただければ、お聞き頂けるだろうと思います。

最後に、もう一つ申し上げたいことがあります。坂村先生のコメント中には、アメリカではすでに国家がそういう歴史的な事実を収集して、それをデータアーカイブに残す作業を2006年から始めているが、日本ではまだ始めている。日本でも始めるべきであると、提案をされておられますが、これはアメリカン・メモリーというサイトであります。アメリカン・メモリーというサイトを、キーワードで検索をしてご覧になれば判りますが、ライブラリー・オブ・ कांग्रेसというアメリカの国会図書館に相当する組織が中心になって、歴史的な事実をデータアーカイブに残すという作業を始めています。私はそのサイトを見たのですが、私が見た範囲では、アメリカでやっていることは、現段階では、文献に残っているものをデジタル化して、それをアーカイブにして保存しようということのようでございます。

メロウ倶楽部がデータ化しようとしているものは、文献に入っているものではなく、我々シニア自身の体験を、私ども自身が投稿して、それをアーカイブとして保存しようというものです。そういう意味でメロウ伝承館は、その特徴を生かして行けるのではないかと考えております。是非、日本政府にも、アメリカン・メモリーのようなサイトを立ち上げて欲しいと思うのですが、シニアである、私ども自身もやることのあるのではないかと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

■ テーマ3「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアに、地域に
活力を与えています」

課題提供者

山根 明氏

(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹
運営ワーキンググループリーダー)

こんにちは。ご紹介いただきました山根でございます。よろしくお願いたします。

関西の方は、三鷹をご存知ないかと思いましたが、ちょっとご紹介させていただきます。三鷹というのは東京の都心から少し離れておりまして、都心から西へ約18キロ、人口は、17万人程度の小さな町でございます。比較的有名なのは、江戸時代に江戸に飲料水を送った玉川兄弟が作ったという玉川上水があります。そこに太宰治が入水したということもご存知だと思います。三鷹というのは、文学者ゆかりの街でございます。ここにありますように山本有三記念館或いは、三木露風の赤トンボで有名な牌がございます。その他国木田独歩の牌がございます。変わったところでは、東京天文台がございます。



若い方には、宮崎駿監督のジブリの森美術館が結構有名で、外国からもアニメファンの方が見学にこられます。そういう町でございます。

三鷹でございますが、2005年にIT都市世界一ということで、表彰されたということをおまわりご存知のない方もおられると思いますので、ご紹介させていただきます。

なぜ三鷹が世界一かといいますと、民間すなわちNPOそれと学校、三鷹の周辺には大学が13校ございます。企業それと行政、4者が協働してまちおこし、町づくりをやったということが、表彰の理由であるというふうに聞いております。古い話になりますけれども三鷹市の場合も、ご多聞にもれず、三鷹市から工場が逃げ出したという経過がございました。そうしますと、どうなるかと申

「SOHO CITYみたか」構想

<http://www.sohocity.jp/kousou.html>

工場の流出10年間で100社
(従業員4,000人減、工場出荷額1千億円減 法人市民税の減少)
高齢化、少子化(個人市民税の減少)



税源確保につながる「情報都市づくり」 情報産業の振興
既存産業の情報化支援
「住む・働く」の調和を目指すSOHO振興



活力のある地域社会の形成 市財政基盤の安定

しますと、当然事業税が入らなくなる。少子化傾向がありまして、やはり税収が下がるということになります。

そこで、SOHOシティ三鷹構想というものを立ち上げました。その成果が、先程の世界一に表彰されたということに結び付いたと理解しております。それはITを利用してまちおこしをやったということだと思います。

私自身の自己紹介はまだでしておりませんので、簡単に申し上げます。私がパソコンを始めたのは、退職1年前、64歳から始めました。今73歳でございます。約10年やったということですね。私が所属するシニアSOHO三鷹について、簡単にご紹介申し上げます。1999年に草の根のPCクラブとして発足しまして、来年10周年記念を迎える段階でございます。その間いろいろありました。

シニアの特質は、次のようにまとめられると思います。

一つは、シニアというのは、在職中は会社と家庭の間を往復しただけで、地域については、何も情報を持っていません。一言でいいいいますと、地域情報の異邦人です。それと在職中のお仕事がITに関連している方もおられるとは思いますが、偏ったビジネススキルしかお持ちではないと思います。SOHOなどにこられましても、お1人で事業をしたくない、事業を持ちたくない。まあできないというのが正確かもしれません。自律

に欠けるところがあります。はっきり言いまして、在職中は、会社に行けば、嫌という程仕事が待っています。自分でものを考えて、何かをやるということは、不慣れであると思います。まあ指示待ちという状況でしょうか。この状態が退職した後も、ずっと続いています。ある事業を作ったとしたら、それを離さない、人に渡さない。いわば利権化しています。私どもシニアSOHOの場合も、同じでございます。

また比較的自分の時間を優先させます。どちらかというとながままです。

そういう人達をどのようにしてアクティブシニアにしたらよいでしょうか？そのためには、仕掛けがいろいろあります。その仕掛けは、二つ程ありますが、後ほど詳しく説明させていただきます。シニアは、やはり、規則・規則、ルール・ルールでしめ付けるということは嫌われます。そして、長続きしません。緩やかな仕掛けが必要です。また、ITを活用するということが非常に大切だと思います。

シニアの自立について申し上げますと、二つの仕掛けの一つは、ワーキンググループという仕掛けを用意しております。もうひとつは、ワ

シニアの特質 新しい仕掛けが必要

- 企業の卒業者は地域情報の“異邦人”
- 偏ったビジネススキル 一人で事業(をしたくない・が出来ない)
- 自律に欠けて安易にとどまり、指示待ち 持ったら離さない(利権化)
- 自分の時間を優先させる「自由・気まま」



シニア起業の地域プラットフォーム

緩い参加の形態

ITで自立を学ぶ

新事業実現

シニアの自立

- ワーキンググループ活動で自立を学ぶ
- プロジェクト方式で事業を拡大
- メーリングリスト(ML)の活用
超多忙なシニアの時間の有効活用
情報の共有と顔の見えるIT(=会っても連絡はML)

ワーキンググループをプロジェクトチームにして一つの目的に向かって集まって、わいわいガヤガヤやるという方法でやっております。その場合に、有効なコミュニケーション手段としましては、メーリングリストを活用しております。どこの組織でもそうだと思いますけれども、ごく一部の人が非常に忙しい思いをしております。そのためにも、メーリングリストというものが大切になります。それからもう一つは、やはり、情報の公開、このためにも、メーリングリストというものは非常に有効になります。

ワーキンググループにつきましては、私、山根がやりたいことがあったとします。メーリングリストにオープンします。この提案に皆さんが参加され、ワーキンググループというものが出来上がってみんなでワイワイガヤガヤやりながら、一つのプロジェクト或いは、事業として、展開していきます。その場合に必要なのはやはり情報の公開だと思います。

先程、私どもの堀池が数字を発表しましたけれども、2007年度の私どもの年商でございますが、9,400万円弱でございます。プロジェクトの中で、やはりポイントは、繰り返しになりますけれども、公募し、スタッフとマネージャーを募集しております。形式的になるかもわかりませんが、やはりオープンするという原則をとっております。そうしまして次は、協働事業として受注し、実施するという形を取っております。ここで必要なのは、会社じゃありませんけれども責任のある仕事をするということだと思います。これが大事なことです。

もうひとつ大切なことは今の仕事を、終わる前に、次の仕事の提案をできる準備をするということです。行政に対してですけれども、行政ではなくても、メンバーに対しても、現状に甘えることなく次のことを考えるということが大切だと思います。私ども10年の間には、いろんな失敗も過去にやっております。その中で必要なのは、リスク管理が大事だと思います。私どもシニアSOHO三鷹が、現在、展開している地域サポートを列記してみました。一番上は、皆さんもされ

ておりますパソコン教室です。私どもの少し違う点は、講師養成講座を併設しているということでございます。三鷹市から受注して、高齢者のマッチング事業もやっております。

それから三番目、これは後からもご説明すると思いますが、学校の安全推進員というのを昨年一昨年からやっております。一言で言いますと学校の見回りでございます。学校のある期間は朝から夕方まで正門の前に立って見守り。定時的に学校の中を巡回するということをやっています。先程ロボットでという話もありましたが、私どもは人力でやっています。

そのメンバーに私どもシニアSOHO三鷹が中心になって市民と一緒に事業を展開しておりま

ワーキンググループ(WG)でビジネスを作る

- 自分の関心あるテーマを提案
- 新しいWGへの参加者募集
- 「関心あり」と発言しWGに参加
- WGで議論、研究、情報公開
- ビジネス展開

プロジェクト方式で展開

- 年商9,381万円(2007年)
- メンバーは公募(プロジェクトマネージャ・スタッフ)
- 協働事業として受注・実施
- 責任ある活動と次の提案を準備
- リスク管理は重要

す。小学校が三鷹市の場合、15校ありますから、1日午前中の方と午後の方と、1校につき2人、30人が毎日、学校のあるときは、見守り定時的に校内の見回りをしております。教育委員会から年間予算を2,4000万～2,500万をいただいております。

その他に、市役所内部のPCのヘルプデスク、こういうメンテナンスの仕事もやっております。それから三鷹市の教育委員会からの学校支援のヘルプデスクというのもやっています。これはだいぶ前に、IBMから三鷹市の小学校にパソコンを無料で寄付していただきました。そのプロジェクトは終わりましたが、その後、教育委員会が引き継いで父兄と教育委員会或いは学校とのイントラネット、そのメンテナンスをやっているということです。次に耐震の診断のお手伝いもしています。個人が起業をするためのコミュニティビジネスサロンというものもお手伝いしております。

それから、高齢者のための確か55歳以上だったと思いますけれども、そのような人を対象にした無料の職業相談所、これを東京都と三鷹市から受注して紹介しています。その他、パソコンの無料相談とか訪問サポートというものもやっております。こういうことが、評価されまして平成16年にこの二つの賞を受賞しております。

最近ですけれども、やはり、行政もコミュニティビジネスというものに非常に着目して、予算もつけているように感じます。要するに個人が業を起こすためのサポートセンターの役割を果たしております。

コミュニティビジネスサロンについてご説明します。その中でシニアSOHOは、受付業務をやり具体的な企画の提案をしているということでございます。

コミュニティビジネスサロンは個人が起業するための無料相談の窓口になっております。その主催者が一番下の行にある前田隆正さんという方が主催しています。この方は三鷹市から第三助役として条例を改正して迎え入れた方です。本が発行されていまして講文社の「会社をやめたら社長になろう！ - 身の丈起業塾」です。大きなリスクを犯さない範囲で、事業を起こしましょう、起業をしましょうということが趣旨でございます。また異業種間の交流会は、いろんな業界の方の意見交流ということで、週1回実施されています。それから先程団塊の世代の話がでていたけれど、団塊の世代は私も期待していたのですが、なかなか入っていただけの方がいないですよ。当たり前だと思うのですが、年金をもらっていないからまだ稼がなければいけないのが実状であると思います。

実は今までお話したことは、私のあまり得意ではない分野です。私の得意な分野は今からお話することです。

コミュニティビジネスサロン

<http://www.mitaka.ne.jp/tmo/plaza/cbs/cbs.html>

- 起業支援・起業無料相談
- レンタルデスク・レンタル会議室
- 異業種交流会 起業した先輩の声を聞く(<http://www.24stream.co.jp/soho/>)
- 団塊の世代はまだまだ働かなければ
- 会社を辞めたら社長になろう！

(「身の丈起業－会社を辞めたら社長になろう」前田隆正氏著 光文社)

シニアにとってやさしい講座というのは、なんだろうかと考えて見ますと、二つファクターがあると思います。一つは講座の内容が、楽しいということです。ワード・エクセルを習って今更就職活動するわけではないですから。やはり楽しい、楽しくて役にたつということが、一つのキーワードだと思います。それから、もう一つの大切なファクターは、私は講師の人柄だと思います。どんな人柄かと言いますと、受講生にゆっくり・優しく・繰り返して・楽しく・仲間作りができるようなそういうサポーターが、私は望ましいのではないかと考えています。

私どもシニアSOHO三鷹は、4つの講師養成講座を持っております。PCアドバイザー認定講習、これはシニアSOHO三鷹独自の研修会です。この研修を受講しない人は、例えば講習会でサブもできない。或いは訪問サポートにも行けないという事で、お客様に接する場合には、PCアドバイザー研修を受けなさいということが、義務づけられております。内容的には、やはり責任と品質について自覚していただくということが一つ、それからやはり個人情報の保護ということが2つ目です。3つ目は、ややもしますとテキストなんかをコピーしている、ソフトもそうです。そういった著作権の問題についても、私どもは過去に失敗しておりますから、その反省に立っております。それと倫理規定、何気なく私どもは、普通の社会慣習上、行政の人にビール券を贈る、それは許されないことです。そういう過ちも犯しております。人様に接する場合には、こういう研修を受けないとだめだよということをやっております。その他、シニア情報生活アドバイザー、それから文科省の福祉情報技術コーディネーター、私どもは、対策講座を実施しておりますし、試験校にもなっています。それからシニアITアドバイザー(SITA・サイタ)です。それから、最近ではマイクロソフトさんの認定している、去年の11月から始まった、ICTマスターフォーNPOというのも今年2回程講座をやってきています。今20名程合格しています。

以上の4つが、私どもが人様に教える場合の、講師として最低限の資格として用意しております。私どものパソコンの超初心者向けのゆうゆう講座というのはもう4年経過して5年目に入っております。

シニアがシニアにやさしく教えるパソコン教室を実施しております。この写真は、日本政府が、海外広報誌として2005年だったと思いますけれど、5月号でNPO特集の、シニアが

シニアにやさしい講座と講師を

- 楽しく・役に立つ
- ゆっくり・やさしく・繰り返し・楽しく教えられる人柄
- シニアSOHO三鷹校の講師養成講座
 - PCアドバイザー認定研修 (会独自、190名、責任と品質の保持、個人情報保護、著作権・倫理規定)
 - シニア情報生活アドバイザー (93名 <http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser/>)
 - 福祉情報技術コーディネーター (7名 <http://www.joho-gakushu.or.jp/>)
 - シニアITアドバイザー (SITA 1級、55名 http://www.knowledgewing.com/oc/sita/sita_top.html)
 - マイクロソフト認定 ICTマスターfor NPO (20名 http://www.microsoft.com/japan/learning/ict/master_NPO.msp)

ゆうゆうサロン

シニアによるシニアのためのやさしいパソコン教室

<http://www.minamitam.com/~yuyusaloon/index.html>

- 試行錯誤でスタイル確立
- 1回2時間の内、1時間は復習
- 有資格者の仕事を作る
- 講師のインターン制度
- 三鷹市報に掲載
- Yahoo google検索でトップ
- '6年9月読売新聞掲載(全国版夕刊)
- '7年7月4日日本テレビズームイン放映



政府海外広報誌 ASIA-PACIFIC Japan+ NPO特集に掲載(2005年6月)

ゆっくり・やさしく・繰り返し・楽しい・仲間作り

10回同じことを聞かれても笑顔で答える ゆうゆうサロン

シニアを教える講座風景でございます。

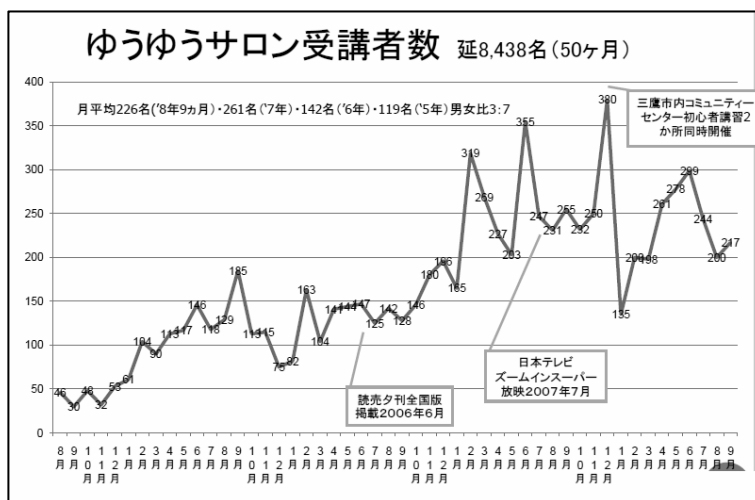
4年間の試行錯誤の結果、一定のスタイルができたと思います。一つは、1講座2時間ありますけれど、2時間の内1時間は、必ず前回の復習をする。残りの1時間は新しいことを教える。この繰り返しをしております。仮に1回欠席されても大きく遅れることのないように配慮しております。これが一つです。

それから、シニア情報生活アドバイザーもそうですが、資格をお受けくださいという、受けたら仕事がもらえますかと聞かれます。皆さんも聞かれた事があると思いますが、私は職安・ハローワークではありませんと答えているのですが、そうは言うものの活動の場を作らないといけないと思って開始したのが、このゆうゆうサロンです。わかりやすいと思いますと、お医者さんの卵が大学病院でインターン生としてグルグル回って研修するという、インターン制度のつもりでやっています。最近あまり掲載してくれなくなったのですが、三鷹市の市報に時々乗せていただいています。4年も経ちますとお前ところは古株だから遠慮しろと言われてあまり載せてくれなくなって困っています。

2006年9月に読売新聞の全国版の夕刊に、私どもゆうゆうサロンが取材されたことがあります。昨年7月4日に日本テレビズームインスーパーに取材されたという経過がありまして、おかげさまでYahooとかGoogleで、ゆうゆうサロンを検索していただければ、トップに出てくるかと思えます。私どもゆうゆうサロンのモットーは二つございます。ひとつは、「ゆっくり、優しく、繰り返して、楽しい、仲間作り」をしましょう。今ひとつが、「10回同じ事を聞かれても、笑顔で答える」です。なかなかできませんが、モットーとしています。

ちょうど4年前からスタートしまして、現在の9月までの具体的な実数でございます。右肩上がりだと思いますが多少乱高下しております。ここでご注目していただきたいのが、男女比は男性が3で女性が7。50ヶ月で8,500名弱という延べ人数です。

皆さまもそうでしょうけれど人集めに苦労しています。なかなか受講生は集まりません。しかも私



どもは有料です。このグラフは今までの私どもの講座のスクラップ&ビルドの姿です。やはり長生きする講座もありますけれど、途中で潰れている講座もあります。私たちは思い切って潰しております。上のほうにはビスタが発売されたとき、去年の9月に開設して、はじめましたけれど、その講座もやめようとしています。当時は、去年の9月はビスタを持参していただいて講座をやりました。止めたい講座は夜間の講座で、夜間のシニアは集まりにくいです。でもやせ我慢でやっています。夜間しか来られない方がおられます。中には若い方で、基礎学力のない方でも来られている。その方のためにもやせ我慢をはって開設しています

講座をご紹介します。ボランティアベースですが基本的に有料でございます。1回2時間で2,000円いただいています。講座の内容は、ここにありまして通りでございます。ゆっくり講座というのがまったくの超初心者が、電源スイッチの入れ方からメールインターネットができるまでということで、入力については2ヶ月、メールインターネットについては2ヶ月ということで、合計8回16時間でとりあえずに入力からネットができるまでということ目標にしております。なかには留年される方もおられます。

その次に一步ステップアップという講座で、ワード・エクセルの勉強をしています。これも2ヶ月コースです。それが終わった方は、パソコン活用、中級講座を4ヶ月で行っております。最近今年9月から始めたのですが、マイクロソフトさん認定の「パソコンで生活をもっと楽しく」という講座をやっております。キーワードは、パソコンを「楽しくやろうよ」ということでございます。

その他特別講座として以下のようにいろいろとやっております。マイシリーズとしてこだわりの私だけの作品・小物作りをやっていきます。これはワード・エクセルとデジカメを利用したもので、非常に評判がいいです。

それからパソコンと上手につきあう方法ということで、「パソコン解剖学」と称して、パソコンをばらしたり組み立てたりすることをやっていきます。これも評判がいいですね。ご婦人の中にも、じゃあ私も自作機を作ろうかという方が時々でできます。

そのほか出前講座として、以下のような講座をやっております。これも皆さんと同様でございます。

やはり、人並みに私どもも、人集めに苦勞をしております。やはり泥臭くシコシコとやるしかないと思っています。何かやったら良いという特効薬などないと思います。商いですから、飽きずにうまず弛まずシコシコと一本釣りするしかないと思っております。やはり基本的な、どなたかがおっしゃっていましたが、ロコミトリピータだと思っております。

講座紹介

(ボランティアベースですが有償です @2,000円/2時間/回)

- 「ゆっくり講座」(2時間・8回・2ヶ月、入力・インターネット各2ヶ月)
- 「一步ステップアップ講座」(2ヶ月、ワード・エクセル初級)
- 「パソコン活用講座」(4ヶ月、ワード・エクセル中級)
- マイクロソフト認定「パソコンで生活をもっと楽しく」講座
- 特別講座
 - 「Myシリーズ」(デジカメ・ワード・エクセルの応用、私の世界で唯一の小物作り)
 - 「パソコン解剖学」(パソコンと上手につき合う方法)
 - 「60歳からのインターネット実践講座」(出張・出前講座)
 - 「老人連合会インターネット実践講座」(出張・出前講座)
 - 「コミュニティセンターパソコン初心者講習」(出張・出前講座)

泥くさく 努力しています

- コツコツと継続(“商い=厭きない”は、ロコミトリピーター)
- 受講者はお客様・主人公、講師は説明員・サポーター
- 講座は楽しく・役立つもの、講師はエンタテナー
- 受講料は一括ではなくそのつど払い(講座は真剣勝負)
- 三鷹市報、HPに掲載、新聞・雑誌・TVの取材に本音で対応
- むさしのみたか市民テレビ局
 - 「月刊わがまちジャーナル」30秒無料CMに5回出演
- 手に取ってもらえるチラシづくり
 - (「行列のできる講座イベントとチラシの作り方」牟田静香氏著 講談社)
- チラシ・DMは、伝えたいことではなく、お客様の知りたいことに答える工夫を(受講者はご自分のことを知りたい)

それから私どもは受講生に対しては、こんなふうを考えています。受講者は、お客様で主人公だと思います。私ども講師は、パソコンというすぐれた機械、すぐれたソフトの説明員だというように考えています。あくまでもサポーターだと思っています。そうでない方についてはご遠慮願っております。講座はやはり楽しくなければいけないとおもっております。先程申し上げましたけれどワード・エクセルで就職活動するわけではないですから。なかには時々いらっしゃいますが、「パソコンできるといったら就職が決まったので1週間で教えてください。」と駆け込み寺で来られる方がおられます。

講師はエンターティナーだと思っています。例えば予備校の名物講師のように、あの面白くない受験勉強を楽しく分かりやすく教えるという、それなりの努力をされていると思います。それだけの努力を我々もしなければいけないと思っています。受講料につきましては、私どもは月謝制ではありません。入会金も取っていません。その都度2,000円いただいています。今日の私の講座が面白くなかったら来週来ていただけません。ある意味では真剣勝負です。いい意味の緊張感を保つためには、私はそれが必要だと思っています。広報は非常に難しいのですが、私どもNPOはお金もありませんし、なかなか手段がないのですが、できるだけことはやっております。例えば市報に記事を掲載していただける様お願いしています。市報の効果は抜群ですし信用度が全然違います。市報にのりますと必ず数名の方が参加されます。

それからホームページも、シニアには見られないのではないかと馬鹿にしておりましたが、子供さんがお父さんやお母さんのためにホームページで検索して教室を探して来られるのですね。ですから、ホームページも大事にしなければと思って、心がけています。それからマスコミの取材に対しても本音でおはなしをして対応しています。武蔵野三鷹ケーブルTVという放送局がありますので、無償で30秒コマーシャルを、去年一昨年に通算で5回掲載していただきました。あまり効果ませんが、見ておられる方もあります。シコシコとやっております。

皆さんもチラシ作りはやっておられると思います。私も同様にやっていますが、チラシ立てに10種類かそのくらいはあると思います。その中で手にとってもらえるチラシを作ることが大事だと思います。そのために私は、「行列の出来るイベントのチラシの作り方」、これは講談社の新書版だったと思いますが、この著書の方の同じ講習会を2回受けました。非常に勉強になりました。皆様もこの牟田静香さんの本を読まれたらいいと思います。ビフォーアフターで、悪いチラシと良いチラシを具体的に指導していただきました。それから私がチラシを作るときに絶えず考えている事は、伝達したい情報ではなくて、お客様が知りたい情報を発信するように心がける事です。分かりやすくいいますと、受講者がひとクラス終わりますと、次の講座は、何を受けたらよいか非常

ゆうゆうサロンの 今後の課題

- 「サロン化」をさらに(名前のように楽しく集える ゆうゆうサロン)
- 超初心者講師に(シニアにやさしい講師をもっと多く)
- 70歳の挑戦: 女性 K・Mさん・主婦の場合(私もパソコンを教えたい)
- '6年11月、シニア情報生活アドバイザー養成講座合格
- 超初心者から講師デビュー 6名
- パソコンが無い人も始めよう! (受講者の20%パソコン無し)
「中古パソコン再生工房・三鷹」('6年11月)との協働
- 引きこもりシニア男性対策(受講者の男女比 3:7 「未来をつくる図書館- ニューヨークからの報告-」菅谷明子氏著 岩波新書)

に関心を持っておられますそのためには、この講座があなたにはよいのではないですかという発信の仕方です。

我々のゆうゆうサロンの今後の課題をすこしまとめて見ました。サロンという名前をつけている以上、楽しく集まる会にしたいと思っておりますが言う安く実行は難しいですね。やはりお互いに忙しいから、終わった後に、お茶を飲むとかいうことを、心がけていますがなかなかできません。

それから私どもが最近心がけていますのが、私どもの教室にこられる超初心者講座に参加した方を、講師に育てることを心がけています。なにが言いたいかといいますと。やはり、シニアにやさしいシニアの講師を沢山作りたいということです。実際に、先月10月シニア講座をりましたが、その時サブ講師として超初心者からの方が参加しております。

それから、ゆうゆうサロンという講座をやってみますと、ちょっと乱暴な言い方もわかりませんが10人の内3人ぐらいはパソコンをもっていない方が参加されます。お持ちの方も子供さんやお父さんのお古というのですか、払い下げというのですか、そのようなものを使っておられます。面白くなってくると、ご自分のマイパソコンが欲しくなります。私どもは2年程前からマイクロソフトさんのライセンスをいただきまして中古パソコンの再生工房というのをやっております。まあ入力程度でしたら96でも十分間に合いますね。その中古のパソコンを貸し出しております。それからゆうゆうサロンの参加者の男女比が3対7と申しあげましたけれど、圧倒的に女性が元気です。シニア男性が実際になかなか来ていただけない。これを「シニア男性の引きこもり」と言ってからかっているのですが、教室になかなか来ていただけない。それを家庭から引っ張り出すというのは、私も方法が見つからないけれど、ひとつヒントとして、「未来を作る図書館、ニューヨークからの報告」という数年前に発刊された岩波新書の図書がございます。これの中に、非常に考えさせられたのですが、今までの日本の図書館のイメージと全然違うのですね。私自身も大学入試のときに、弁当をさげて図書館にこもった経験があるのですが、きたない言葉でいうと浮浪者みたいな方が、ずうーっと朝から晩まで利用されています。実際、ニューヨークの場合は違います。だからここにヒントがあるのではとも思います。退職したら、図書館に行きます。家にいると奥さんが厭な顔をしておられない。金もかからないですから。ところが図書館に行っても独りぼっちですね。これをいかに組織するかということが一つ課題だと思います。

次に私どもが行っている企業とのコラボレーション・協働の具体的な例を紹介申し上げます。一番上はトレンドマイクロ社さんとのインターネットを活用する際の安全対策という講座をやりました。それから日本HPさんの子供向けスクイーク親子教室でございます。これはご存知の方も沢山おられると思いますけれど、要するに子供向けのプログラムソフトです。それから、NECさんの子育てママの就職支援エクセル講座もやりました。それから先程のパソコン再生工房・三鷹、それからビスタの講演会と体験会、これはマイクロソフトさんのIT経営キャラバン隊というのがありまして、これの力を借りて講座をやりました。それから同じくNECさんのシニアITサポート養成講座、これは、シニアと障害者に特化した講座で、俗にパソボラと言われておりますパソコンボランティア講座でございます。今予定しておりますのは二つございます。一つは、12月1日からだと思っておりますがマイクロソフトさんが打ち出すと思っておりますが、全国的に展開される小学生向けのインターネット安全教室というものです。これを三鷹で年内にモデル的に一つやってみようかと思っております。これはどういうことだといいますと、ソフトをマイクロソフトさんが用意されて、私どもNPOの人が講師をやるという講座です。先程学校の見守りということがありましたけど、そこに見守りを行っているNPOの人が学校にも顔が分かっている、子

供にも顔が分かっているシニアのおじさん・おばさんが講師をやる講座を考えています。ただ学校というのはご存知の通り、年間行事が隙間なく詰まっていますから、割り込む隙がなかなかないと思います。課外活動また春休み夏休みという感じになるかと思います。これはやりたいと思っています。それから「アクティブシニア推進計画 I N三鷹」と称しまして、これもマイクロソフトさんとタイアップしてやりたいと思っております。企画中でございます。

最後になりますが、最近のトピックスということで、三つほどあげさせていただきました。ひとつは先程の日本TVズームインスーパーの取材を受けて、その時のエピソードでございます。当時取材を受けた久保田さんという方が、今年9月3日になると思いますが、パソコンをなぜ始めたのですかという質問に対して、こんなふうに答えました。「入院中の奥さんの病状を家族にメールで知らせたい。」

奥さんは3年間アルツハイマーで入院されているのですが、その病状を家族に知らせたいということでございます。放映された翌週、9月3日ですから杖をつかれていたのですが、トイレへ行くのに杖なしでスタスタ歩かれていますので、これに私は感動いたしました。やはり少しオーバーな言い方をしますと、人間としてちゃんとまともに向き合ってくださいと、医者もいらない薬もいらない杖もいらない、これには、さすが日ごろシニアと接している私も、人間として非常に反省させられました。

反省させられた事のもう一つは、この取材を契機にして、問い合わせが殺到するわけです。受講したいけどということが一つ、もう一つは講師になりたいけどという問い合わせです。そのことから私が反省したことは、情報が本当に欲しい人に届いていないことです。私どものPR活動の欠点かなと反省しております。情報が必要な人に、届ける難しさを痛感しております。

去年の11月にマイクロソフトさんが、たち上げた「アクティブシニア推進計画」というものがございます。岡部理事長とともに私もそのアドバイザーボードに参画しております。次に今年の9月からゆうゆうサロンの講座は全面的にビスタと2007に切り替えました。1部まだ2003でやっている講座もありますが、講師は大変です。その都度画面を切り替えなければいけませんから。習うほうも大変ですけど教えるほうは、もっと大変だと思います。簡単でございますが以上でございます。ご静聴どうもありがとうございました。

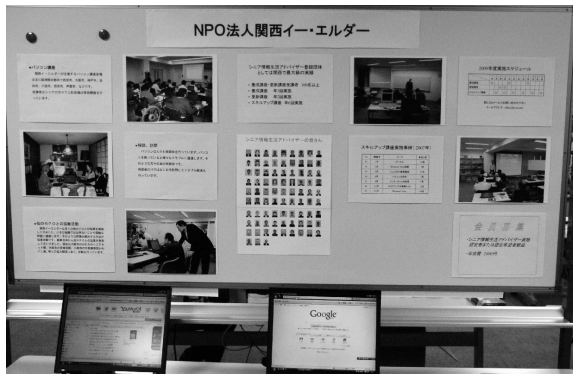
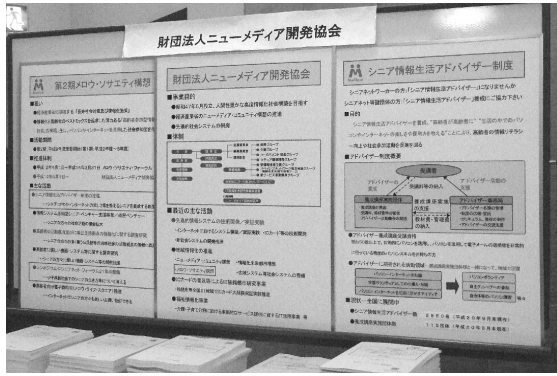
■シニアネット交流広場

11月6日(木) 10:30~16:30

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場と致しました。

約20のシニアネットや協力企業等が出展され、参加者同士、熱い意見交換や相互交流が行われました。





【出展団体】

財団法人ニューメディア開発協会 財団法人JKA 徳島県	http://www.nmda.or.jp/ http://ringring-keirin.jp/ http://www.pref.tokushima.jp/
仙台シニアネットクラブ	http://www.zundanet.co.jp/seniornetclub/
メロウ倶楽部	http://www.mellow-club.org/
シニアネット加賀	http://hpl.cyberstation.ne.jp/seniornet-kaga
マイクロソフト株式会社	http://www.microsoft.com/japan/
NPO法人シニアネットひろしま	http://www.seniornet-hiroshima.gr.jp/
NPO法人姫路シニアネット	http://www.hipsc.net/
e-とぴあ・かがわ	http://www.e-topia-kagawa.jp/
NPO法人いきいきネット徳島	http://www.ikiikinet.org/
NPO法人沖縄ハイサイネット	http://www.e-haisai.net
NPO法人おおさかシニアネット	http://osaka-senior.net/
NPO法人湖南ネットしが	http://www.konan-net-shiga.jp/
ひと・まちPCサロン	http://homepage2.nifty.com/hitomachi/
NPO法人まちづくりねっと・うじ	http://www.ujimachi.or.jp/
NPO法人関西イー・エルダー	http://www.k-ee.com
NPO法人つれもてネット南紀熊野	http://tsuremote.net
NPO法人寝屋川あいの会	http://www.paw.hi-ho.ne.jp/ainoki
景観ボランティア明日香	http://www17.plala.or.jp/
シニアネット どこ竹@竹とんぼ	http://www.place24.ne.jp/dokotake/

■クロージングセッション

総括

中西 建策氏

NPO 法人おおさかシニアネット副理事長

おおさかシニアネット副理事長、中西でございます。

今日はシニアネットフォーラム21 in 関西に、北は北海道から南は沖縄まで、大阪に来ていただき、厚く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

総括ということでございますが、総括をしておりますと、朝早くから大変長い間、いろんなことをお聞きになり、私も、聞く話一つ一つにいろんな思いがあり、どんな話をしたらいいかなと、思っておったわけでございますが、次から次へと新たなことが入って参りまして、何を総括していいかわからない。しかし、一つ一つよく考えて行きますと、我々の行動において、これからの事業の推進にあたって、本当に示唆に富んだいろんなご意見を頂戴したのではないかと思います。

私は、おおさかシニアネットを立ち上げた頃、皆さんもご存知の2001年9月11日を思い出します。あの時に私はアメリカの西海岸におりました。

なぜアメリカに行っていたかと言いますと、介護保険制度が立ち上げられた時でございます、その海外視察に行っておりました。アメリカの介護政策というもののはどのようなことをやっているのかということで、ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトルの三つの都市を訪問して、アメリカには、保険制度がないはずなのに、どのような仕組みでやっているのかを調査しました。

その時に、説明を受けたところ、ロサンゼルスへ行くとロサンゼルスシニアネット、サンフランシスコへ行くとサンフランシスコシニアネット、シアトルへ行くとシアトルシニアネットがある。このときに、シニアネットという言葉聞いてどんなことするのかと思いました。

介護施設はどこにもない。健常者を中心としたいろんな政策をとっている。それも、自由に参加しているというような、仕組みでやっておられまして、私も、介護保険制度ができた時、だいたい要介護というのが、1割程度であろうと、言われていたましたが、ご存知のように2年3年で、20%を超えています。しかし、それにもまして、健常者は、介護保険料を払いながら、何も国からしてもらえない。私はこのような疑問をもって、勉強をしたわけです。

そのときに、健常者については、これだと。いつまでも元気で暮らせるように、価値ある人生



を送ってもらえるのかなあ、という思いにたちまして、そこで、いろんな話を聞いて、これを持って帰って、定年になって、議員も辞めた時に、まずこの仕事に取り組もうということで、2002年の終わりからNPO法人の申請をいたしまして、退職と同時にシニアネットを立ち上げ、2003年の4月から開始したわけでございます。

本当に活力のある生活を送れるかということが大切なことではないかと、いつまでも元気であれば、医療費も減るわけでございます。そのような面から、行政も私どものこうした活動に対して、理解していただきたい。私どももお金を多くくれとは申しません。三鷹市さんへも十数年前に訪問させていただいて、非常に先進的なことをなさっているということで、当時伺ったことを覚えております。

私どもが思うのは、指定管理者制度についていろいろ言っておりますが、官ばかりでやっていたら、税金の無駄遣いが多いではないか。じゃあ民に行こうか、一気に官から民へ流れていく。そうすると、官でなければできないサービスが、民へ行けばできるのか、そういったことも私の大きな課題でございます。

特に今、指定管理者制度というものをそれぞれの自治体が取っております。こういうことに私どもは、極端なことを申し上げますと、ニューメディア開発協会の皆さまのやっていらっしゃるような、いわゆる公益法人とかNPO法人とか、官から民へ行くときの中間的な機関というものが、必要ではないかと。そういう意味で、これからのシニアネットというものが大きな役割を担っていくのではないかなと思います。

税金を無駄遣いせず、税金を効率的に使えるように、やはり私どもも考えていかなければならないという、こんな思いを非常に強く持っております。

そして、私どももいろいろと頑張っておるわけでございます。

今日こうして、大阪で盛大に開いていただきましたニューメディア開発協会の会長、また基調講演はじめパネリストの先生がたに心から感謝を申し上げます。

来年2月に東京でこの大会があるようでございます。その時には、ぜひ、私どもも参加させていただき、また皆様がたもぜひ顔を合わせていただき、懐かしい話をして、またそれまでの経過を話し合いたいと思っている次第でございます。

本当に長時間にわたりまして熱心な、勉強会、研究会を催しさせていただきました、心より厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

「シニアネットフォーラム21 in 関西」 付属資料

- 「シニアネットフォーラム21 in 関西」開催案内
- 「シニアネットフォーラム21 in 関西」来場者用アンケート表
- 「シニアネットフォーラム21 in 関西」来場者アンケート調査結果

シニアネットフォーラム21 in 関西

◇シニアネットで、実り豊かなシニアライフと

活力ある高齢社会を！◇

平成 20 年 11 月 6 日(木)

大阪産業創造館(大阪市中央区)

主催:財団法人 ニューメディア開発協会

(<http://www.nmda.or.jp>)

現在、65歳以上の高齢者が約2744万人、人口比率で21.5%となっております。実に4.5人に1人が65歳以上と言うことになります。日本の総人口は既に減少に転じている中、団塊の世代の第一陣が既に定年を迎え、高齢者の仲間入りを間近に控えているなど、高齢化はますます進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやってくるのが予測されております。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていく、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、今後、高齢者の社会での活躍が大いに重要となって参ります。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のためにお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、仲間とともにITを勉強し合ったり、高齢者を中心に地域の方々へのIT講習を行ったりと、地域に根差したさまざまな活動を活発に展開しております。

シニアネットは、まさに高齢者の生きがいづくりや仲間づくりに大きな役割を果たしてきております。高齢者が培ってきた知識・技術・経験等を活かして社会参加を果たし、シニアライフを豊かで楽しいものにしております。そうしたなかであって、地域の自治体等と協働(コラボレーション)し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしてきております。このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業の方にとっても極めて意義深い組織であると言えます。

旧通商産業省(現経済産業省)が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指しております財団法人ニューメディア開発協会と致しましては、こうしたシニアネットの活動こそ、かかる構想の実現に重要であると認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化して参りました。こうした経緯から、当協会はシニアネットが全国津々浦々、至る所にあって、高齢者が生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えております。

その為、これまで経済産業省や財団法人JKAのご指導、ご支援と、シニアネット諸団体等のご協力を得て、シニアネット普及・拡充を図るべく、全国的に「シニアネットフォーラム21」を開催して参りました。

そこで、この度は大阪市で「シニアネットフォーラム21in関西」を開催し、全国のシニアネットが一堂に会し、お互いの意見交流・人的交流を行う中で、特に関西におけるシニアネットの更なる普及・発展を図ることに致しました。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「シニアネットに参加したい…」「何か地域のために活動してみたい…」等々お考えの高齢者や団塊世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の方など、幅広い分野の方々にご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、シニアネットの、そして参加された皆様の今後のご発展につなげて頂ければと思います。

このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットの普及・拡充が一層加速され、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

是非とも、全国各地の、特に関西地方の、多くの方々のご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



競輪補助事業



開催概要

日時 平成20年11月6日(木) 10:30~18:15
(懇親会 18:30~20:00)

会場 大阪産業創造館
〒541-0053 大阪市中央区本町 1-4-5

主催 財団法人ニューメディア開発協会

後援 経済産業省(予定)
大阪府
大阪市

協力 NPO法人おおさかシニアネット
株式会社ジャストシステム
トレンドマイクロ株式会社
ニフティ株式会社
マイクロソフト株式会社 (五十音順)

定員 約150名

参加費 無料

参加対象 ・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方
・シニアネットのメンバーの方
・団塊の世代の方
・シニア情報生活アドバイザーの方
・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方
・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方
・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方 等々

申込方法 下記いずれかの方法でお申込み下さい。

①FAXまたは郵送でのお申し込みの場合

同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記「お問い合わせ先」までお送り下さい。

②ウェブサイトよりお申し込みの場合

下記ウェブサイトへアクセスして頂き、専用フォームよりお申込み下さい。

・フォーラム事務局

URL: <http://osaka-senior.net/snf/>

・主催者 URL: <http://www.nmda.or.jp/mellow/>

申込締切:平成20年10月10日(金) (郵送の場合、当日消印有効)

申込締切後「参加証」をお送り致します。なお定員に達した時点で締め切らせていただきますのでご了承下さい。

懇親会 どなたでもお気軽に、ご参加下さい。

新しい出会いをつくり、お互いの親交を深めて頂ける場です。ご参加頂いた皆様同士、親しく、そして楽しくご歓談頂きながら、有意義なひとときをお過ごし下さい。また、余興や抽選会など楽しい催しもご用意致しております。どうぞ、どなたでもお気軽にご参加下さい。

■ 会場 : シティプラザ大阪 4階「眺」
大阪市中央区本町橋 2-31
TEL06-6947-7888

■ 会費 : 5,000 円

ご昼食 お昼には、お弁当をご用意致します。どうぞご利用下さい。

■ 料金 : 1,000 円

懇親会・ご昼食をご希望の方は、事前に下記口座に所定の金額をお振込頂けますようお願い申し上げます。尚、振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。

お振込み先 三井住友銀行 日比谷支店 普通口座
口座番号: 8322576
「シニアネットフォーラム 21 事務局」

お振込み期限:平成20年10月10日(金)

【お問い合わせ先】

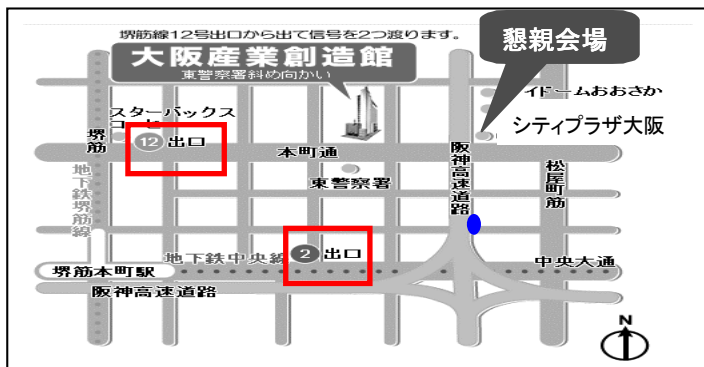
「シニアネットフォーラム21 事務局」 〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階
日本コンベンションサービス株式会社内(堀内、西村)

TEL 03-3508-1213 FAX 03-3508-0820 e-mail snf21@convention.co.jp

大阪産業創造館へのご案内

● 地下鉄「中央線」、地下鉄「堺筋線」堺筋本町駅下車徒歩約5分。中央線2号出口または堺筋線12号出口が便利です。

※付近に十分な駐車場や駐輪場はありませんので、出来るだけ地下鉄などの公共交通機関をご利用ください。



プログラム

11月6日(木) 大阪産業創造館 4階イベントホール(シニアネット交流広場 6階会議室E)

9:30～10:30	受付	
10:30～10:50	オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 平工 奉文氏(近畿経済産業局長)(予定) 橋下 徹氏(大阪府知事)(予定) 平松 邦夫氏(大阪市長)(予定)
10:50～12:00	基調講演	<p>「シニアネット・NPO活動のすすめ ～高齢社会におけるシニアの新しい生き方～」</p> <p>山内 直人氏(大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授)</p>
12:00～13:00	シニアネット交流広場 休憩(昼食)	シニアネットの成果展示による相互交流の場
13:00～15:30	パネルディスカッション	<p>「シニアネットは、シニアの生き方をアクティブにし、地域に活力を与える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター 三木 健二氏(景観ボランティア明日香 会長、元読売新聞論説委員) ・パネリスト(五十音順) 井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表) 塩見 信雄氏(NPO法人シニアネットひろしま 理事長) 堀池 喜一郎氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 顧問) 箕田 幹氏(財団法人大阪市都市工学情報センター 理事長) 三和 清明氏(NPO法人寝屋川あいの会 理事長)
15:30～18:00	ケーススタディ	<p>『シニアネットが地域を支える』</p> <p>テーマ1:「シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています」 課題提供者 砂川 正男氏(NPO法人沖縄ハイサイネット 会長)</p> <p>テーマ2:「シニアネットは歴史文化を次代に継承し 地域振興に貢献しています」 課題提供者 布上 太三氏(メロウ倶楽部)</p> <p>テーマ3:「シニアネットはコミュニティビジネスで、 シニアに、地域に活力を与えています」 課題提供者 山根 明氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 運営ワーキンググループリーダー)</p>
18:00～18:15	クロージングセッション 閉会	総括 小島 孝治氏(NPO法人おおさかシニアネット 理事長)

懇親会場:シティプラザ大阪 4階「眺」

18:30～20:00	懇親会	
-------------	-----	--

実施予定プログラム

基調講演 (10:50~12:00)

『シニアネット・NPO活動のすすめ ~高齢社会におけるシニアの新しい生き方~』

山内 直人氏(大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)

我が国の高齢化は急速に進み、早晚3人に1人が65歳以上になる時代がやって参ります。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者の社会での活躍が益々重要となって参ります。

そうした中、多くのシニアは「シニアネット」「NPO」等に集い、元気に、楽しみながら、IT講習などをはじめボランティア活動に邁進し、豊かで充実したシニアライフを目指しております。まさに、自ら自立し、社会を支える側に立とうと意欲的な活動をされており、シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしてきております。今後、ますます多くのシニアがこうした活動に加わることを求められております。

そこで、NPOの活動に造詣の深い学識経験者より、未だ経験したことのない少子高齢社会を何らかの形で「支える」ことが求められている高齢者が自らのシニアライフを更り豊かなものとして切り開いていく「新しい生き方」について語っていただきます。

パネルディスカッション (13:00~15:30)

『シニアネットは、シニアの生き方をアクティブにし、地域に活力を与える』

(コーディネーター)

三木 健二氏(景観ボランティア明日香会長、元読売新聞論説委員)

(パネリスト)

井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表)

塩見 信雄氏(NPO法人シニアネットひろしま 理事長)

堀池 喜一郎氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 顧問)

箕田 幹氏(財団法人大阪市都市工学情報センター 理事長)

三和 清明氏(NPO法人寝屋川あいの会 理事長)

(五十音順)

少子高齢社会にあっては、シニアが主役となって地域社会を盛り立てて行くことが重要となって参ります。その中であって、多くの意欲あるシニアが結集している「シニアネット」こそ、こうした社会の牽引力になることが期待されております。

そのため、全国津々浦々にシニアネットがあって、多くのシニアが元気に活動する中、自らのシニアライフを楽しく豊かなものにするとともに地域社会を元気にしている、そういった姿を作り出していくことが急務となっております。

そこで、全国の著名なシニアネットの代表者や行政関係者にご登場いただき、シニアネットを立ち上げた動機・想い、設立に至る経緯や現況、そしてこれからの展望等を熱く語っていただき、シニアネットとシニアの関わり方やシニアネットの進むべき方向等について全員参加で議論し、これからの新しいシニアネットのあるべき姿を探っていきます。

ケーススタディ (15:30~18:00)

『シニアネットが、地域を支える』

シニアネットはそこに集うシニアの設立の趣旨、目的等からITを基軸におきながらも様々な形で活動を展開し、自己実現を果たすとともに地域の発展に大きく貢献してきております。まさにシニアネットが地域を支えているといっても過言ではないと考えております。

そこで、シニアネットのいくつかの活動について豊富な事例を交えて詳しく語って頂く中、全員参加型で意見交流を行い、今後の活動に生かして頂ければと思います。

テーマ1:シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています

課題提供者:砂川 正男氏 (NPO法人沖縄ハイサイネット 会長)

シニアネットは、その本業とも言える「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアの情報リテラシー向上を促進し、社会に活力をもたらしております。シニアネットならではのきめ細かな教え方や仲間同士で楽しく、気楽に学び合える雰囲気はシニアに喜ばれ、大きな実績をあげております。自治体との協働も進み、地域ITリーダーとして地域への貢献も大きなものがあります。地域のシニアのITに対する意識を変えながら活動を進めているシニアネットは、IT普及に今や必要不可欠な存在と言っても過言ではありません。しかしながら、こうした活動もあってシニアのIT人口は年々増加しているものの、未だシニアの十数パーセントと言われ、残念ながらまだまだ少ないと言わざるを得ません。

そこで、沖縄市を核にその周辺地域や那覇市等で広くシニア向けのIT講習を行い、毎年千人規模のシニアに教え、高い実績を挙げております「沖縄ハイサイネット」の事例をもとに、シニアネット共通の活動であるシニアへのIT普及活動について、シニアのIT普及を一層加速させるためにどうすればいいか、どのような方法がより効果的か、参加者全員で今後の方策について考えていきたいと思っております。

テーマ2:シニアネットは歴史文化を次代に継承し地域振興に貢献しています

課題提供者:布上 太三氏(メロウ倶楽部)

今、昭和の時代が人気を呼び、地球規模では世界遺産の動きが注目を浴びております。様々な貴重な遺産を次代に残すことの重要さに皆が気がつきました。シニアには郷土の歴史や文化、自然等に通じている人が多く、そうした財産を守り、次代に引き継ぎ、地域の振興につなげることは明るい未来の礎をつくるシニアの重要な役割であり、シニアネットの大事な活動の一つと言えます。

そこで、「メロウ倶楽部」の『メロウ伝承館』は、後世への文化伝承を目的としたシニアのためのコミュニティサイトであると内外で高く評価されておりますが、こうした活動事例を通して具体的な取り組み方について議論を深め、今後の活動の指針を提供していきたいと思っております。

注. 『メロウ伝承館』は WSA-JAPAN2005 における『e-Culture』の部で最優秀賞を受賞。WSA-JAPAN2005は、デジタル格差の是正を狙って活動している国際連合の組織「国際連合情報社会世界サミット(WSIS)」が行う世界規模のインターネットサイト・コンテスト「世界情報社会サミット大賞(WSA)」の日本代表選考会。

テーマ3:シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアに、地域に活力を与えています

山根 明氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 運営ワーキンググループリーダー)

長年に亘って培ってこられた知識、ノウハウ等を生かして社会に貢献したい、できるかぎり生涯現役でいたいとするシニアは大勢おります。そうした中、コミュニティビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつあります。まさに「人材の宝庫」であるシニアネットだからこそできる活動であると言えます。

そこで、「事業型」シニアネットとして全国的に著名な「NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹」の活動事例を通して、これから、コミュニティビジネスを新たに起こすにはどうしたらいいか、また今の活動をより一層飛躍させるにはどうしたらいいか、具体的な取り組み方について提言していただくことにいたしました。コミュニティビジネスを目指すシニアネット・NPOの方々には是非、ご参加下さい。

シニアネット交流広場 (10:30~16:30)

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場と致します。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けております。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、皆様の今後の活動に必ずお役に立つものと期待いたしております。自治体や企業の方も是非、お立ち寄り下さい。

シニアネット・フォーラム21 in 関西

アンケート

財団法人ニューメディア開発協会

アンケートにご協力をお願い致します

1. どのプログラムに参加されましたか。参加されたものすべてに○をつけてください。

イ. 全プログラム

ロ. 基調講演「シニアネット・NPO活動のすすめ－高齢社会におけるシニアの新しい生き方－」

ハ. パネルディスカッション「シニアネットは、シニアの生き方をアクティブにし、地域に活力を与える」

ニ. ケーススタディ：テーマ1「シニアネットはシニアと地域の情報化を支えています」

ホ. ケーススタディ：テーマ2「シニアネットは地域の歴史文化を次代に継承し、地域振興に貢献しています」

ヘ. ケーススタディ：テーマ3「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアに、地域に活力を与えています」

ト. シニアネット交流広場

2. 「シニアネットフォーラム21 in 関西」に参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. 自身のシニアネットでの活動に役立てるため

ロ. シニアネットを自分で設立する際に役立てるため

ハ. シニアネットに参加するにあたって役立てるため

ニ. とりあえずシニアネットについて詳しく知るため

ホ. その他（以下に具体的にお願いします）

.....
.....

3. 「シニアネットフォーラム21 in 関西」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. シニアネットについての理解が非常に深まった

ロ. シニアネットについての理解が深まった

ハ. あまり理解が深まらなかった（どのような点か下の欄にお願いします）

.....
.....

ニ. その他（下の欄に具体的にお願いします）

.....
.....

4. 「シニアネットフォーラム21 in 関西」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. 既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい

ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい

ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい

ニ. 別段関わっていこうとは思わない（下の欄にその理由をお願い致します）

.....
.....
.....

ホ. 参加すべきかどうか、よくわからない（下の欄にその理由をお願い致します）

.....
.....
.....

5. 「シニアネットフォーラム21 in 関西」の全体の感想についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。また、全体的なご意見等がありましたら、ご自由にお願ひします。

イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った

ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った

ハ. あまり参考にならなかった（下の欄にその理由をお願い致します）

.....
.....
.....

ニ. 全く参考にならなかった（下の欄にその理由をお願い致します）

.....
.....
.....

■ご感想・ご意見欄:

.....
.....

6. 行政や企業関係者の方をお願いします。

今後、諸施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協働（コラボレーション）について、どのようにお考えでしょうか。

イ. 是非、協働していききたい（分野等： _____ ）

ロ. 協働出来る場所があれば、していききたい（分野等： _____ ）

ハ. 今のところ、考えていない（下記に理由をお聞かせ下さい）

.....
.....
.....

■シニアネットとの協働についてのご意見（ありましたらお願いいたします）

.....
.....

7. 「シニアネット交流広場」(展示コーナー)はいかがでしたでしょうか。ご意見や感想など自由にお書き下さい。

.....
.....
.....
.....

8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。ご意見をお聞かせください。

.....
.....
.....
.....

9. 今後の「シニアネットフォーラム21」で取り上げるべき講演、パネルディスカッション、ケーススタディ等のテーマや、是非聞きたいとお考えの講師の氏名・講演内容等を理由も含めお考えをお聞かせ下さい

.....
.....
.....
.....

10. あなたご自身のことについてお聞きします。

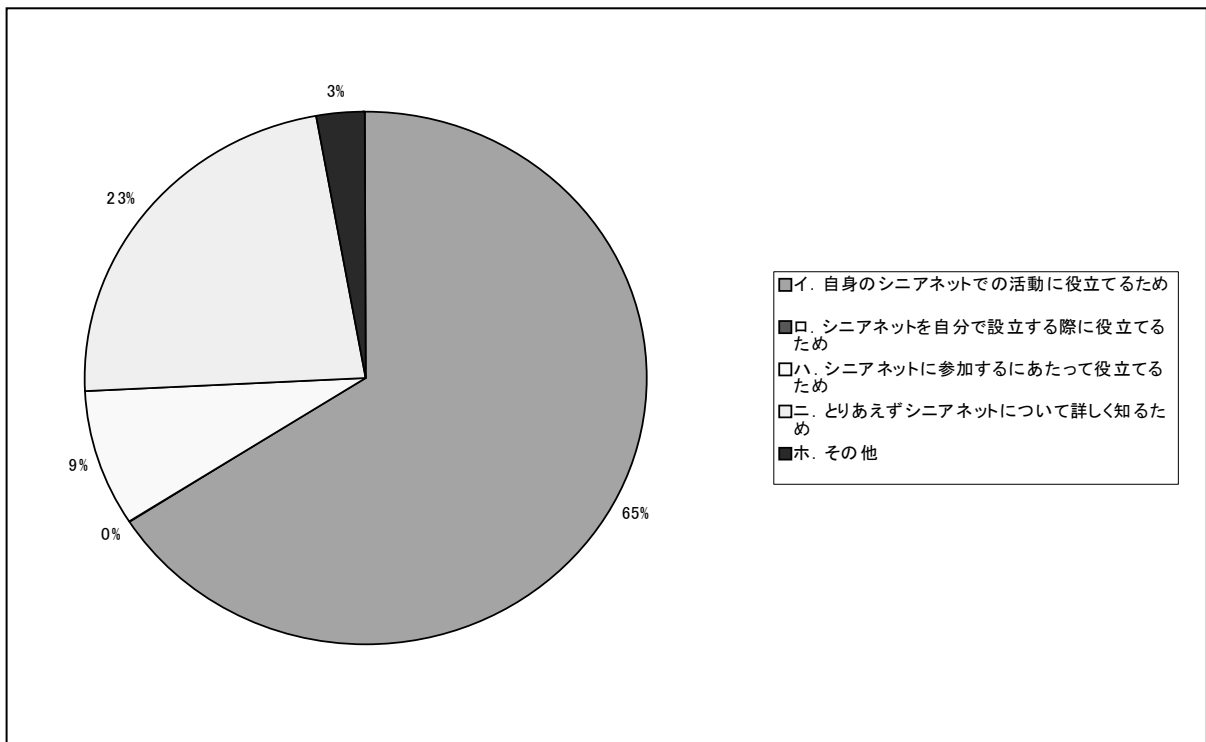
- ①性別： 男 女 ②年齢： 歳
③ご住所(市区町村まで)： 都・道・府・県 市・区・町・村
④所属(該当するところを○で囲んで下さい。職種は差し支えない範囲でお願いします)
イ. シニアネット(含むNPO法人)
ロ. NPO法人等各種団体、グループ(シニアネット系以外)
ハ. 行政機関(ご担当分野：)
ニ. 民間企業(ご担当分野：)
ホ. 自営業(職種：)
ヘ. どこにも係わっていない(個人)
ト. その他()
⑤パソコン経験年数：約 年
⑥生活の中でパソコンをどのように利活用していますか。また利活用したいですか。
ご自由にお書き下さい。

.....
.....

アンケートはこれでおしまいです。どうもご協力有難うございました

主なアンケート調査結果

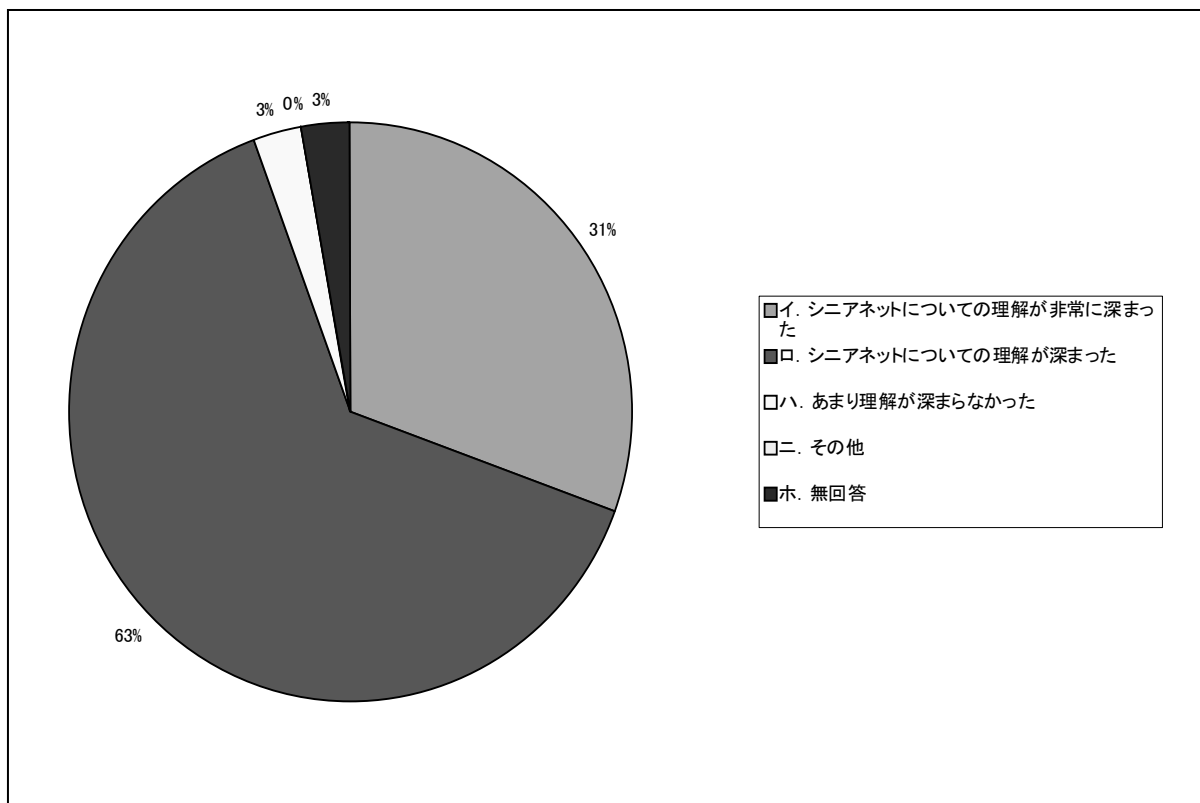
1. 「シニアネットフォーラム2 1 in 関西」に参加された動機について



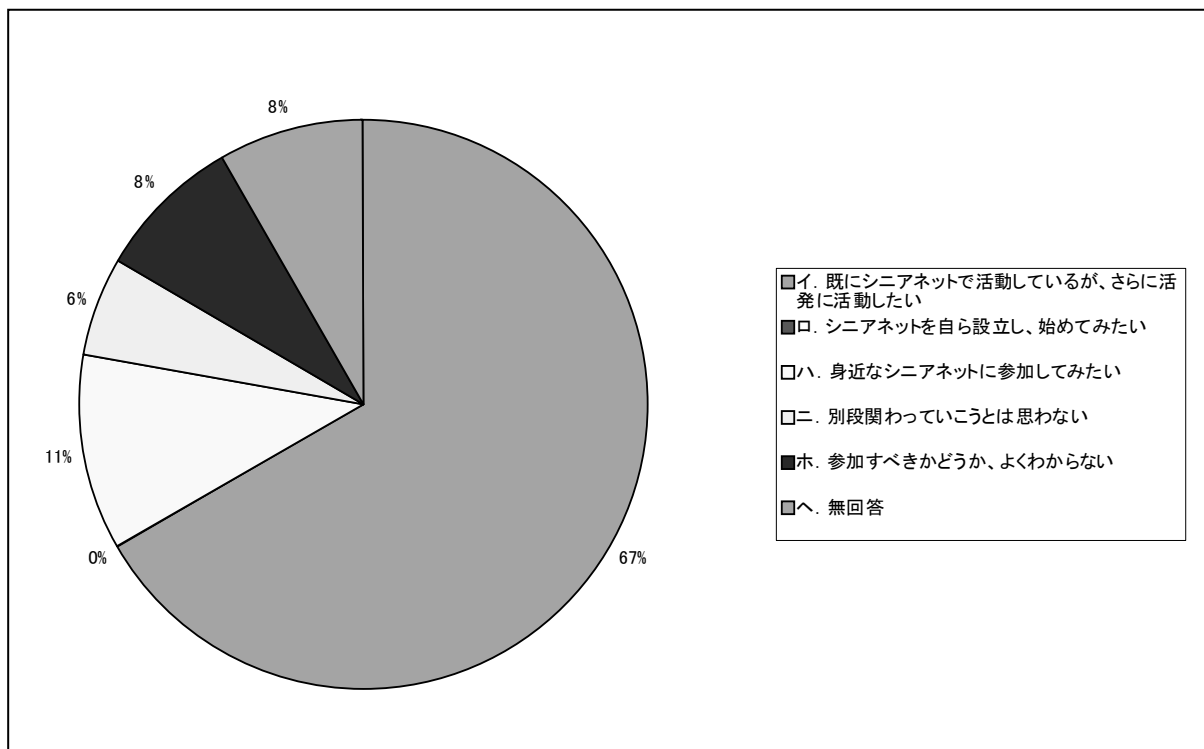
■ホ その他 の理由

- ・ ネットの再勉強のため

2. シニアネットという組織とその活動について理解は深まりましたか



3. フォーラムに参加されて、ご自身はシニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか



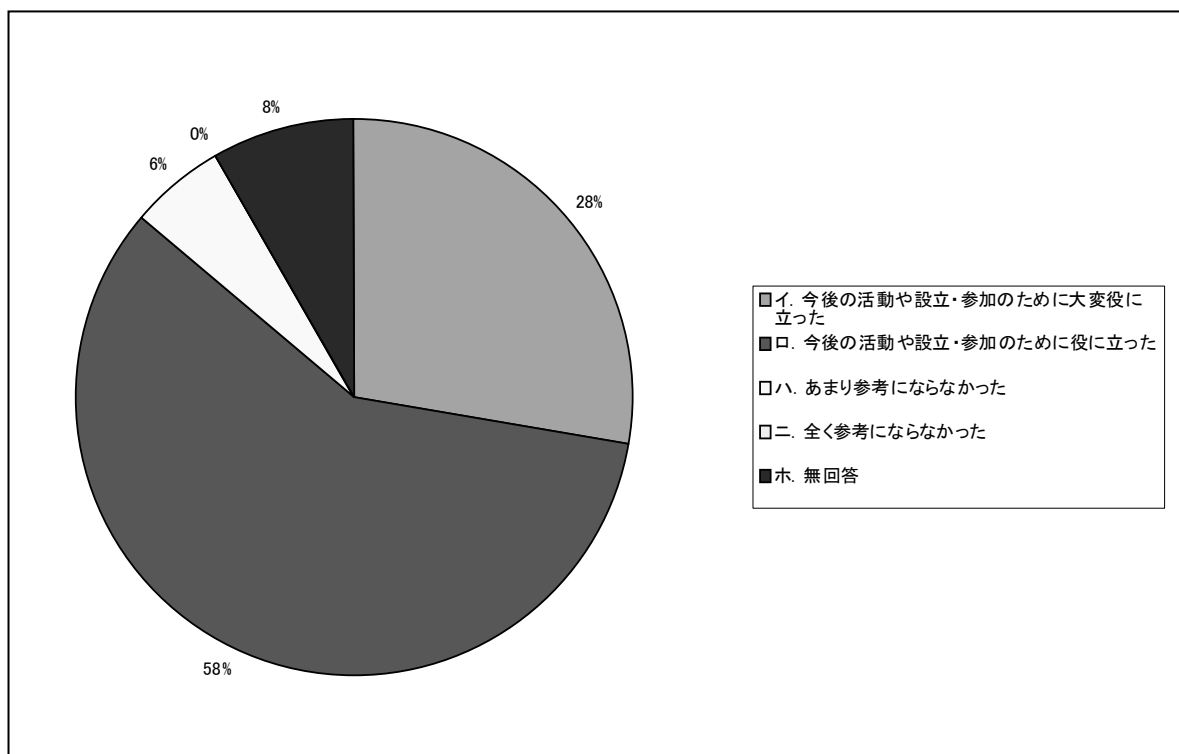
■ニ 別段関わっていこうとは思わない の理由

- ・今の所グループ活動でしばらくはいこうと思っています。

■ホ 参加すべきかどうか、よくわからない の理由

- ・まだ思案中です。現在はシニアネットに参加していません。
- ・通信系の会社に就職が決まっているため、参考にさせていただきました。

4. 全体の感想についてお聞かせください



■ハ あまり参考にならなかった の理由

- ・人材確保など、自分が抱えている課題に対する情報（回答）が少なかった。

■全体的な意見

- ・1日に詰め込みすぎて長時間となり疲れる。
- ・今回参加したシニアネットの団体名の一覧があれば、ネット検索が出来ると思った。
- ・フォーラムの時間が少し長すぎるのではないのでしょうか。10:30~18:15の約8時間、途中で昼食の休憩時間があったとはいえ、終わりの方はクタクタです。どうしてもこれだけ必要なら、午後の分、少し休憩の時間をとっていただけたらと思います。
- ・今日、パネルディスカッションに参加された団体は、公的な市町村等とうまく付き合うことが一番のポイントであることがわかった。
- ・各シニアネットとの情報交換（というより）情報が得られたら良い。（本日の情報以外の細かい情報。）
- ・主婦でありますので、いま一つ踏み込んで活動、設立は難しい。市とのタイアップでの活動でいきます。
- ・初めてフォーラムに参加して、今後の活動に役立てていきたいと思う。

5. 「シニアネット交流広場」（展示コーナー）はいかがでしたか

- ・ゆっくり見る時間が無かったのは残念。
- ・大変参考になりました。ただし時間が少なすぎて交流はできませんでした。
- ・各シニアネットで、自分たちの活動内容をカラフルに視覚効果を100%生かしてPRを行っておられた。また、内容的にも独自性を出し、興味深々拝見しました。
- ・どのシニアさんも活発に活動しておられると思った。美しいパネルに心が洗われました。
- ・テーマ性のある展示に絞った方が良かったと思った。（例：シニア向けパソコン教材シリーズ、動画コンテンツシリーズなど）
- ・昼食時間が短くて残念ながら見るできませんでした。
- ・もっと参加型を望む。見るだけではつまらない。
- ・各地のシニアネットの展示を見せていただき、活動の参考になりました。
例えば、テキストの見本・・・シニアのために大きな字やカラー印刷となっていること。
- ・地域での活動がよく理解できるので good。
- ・新聞などのメディアをうまく活用して、活動を活性化させた成功例が全体的に目立っていました。
- ・各シニアネットの熱心な取り組みが伺えた。参加させてもらいたい。

6. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとお考えですか

- ・シニアネットに入って1年、今日は色々と有意義な意見を聞かせていただきました。それを（口コミによる会員増、指導者の対応、次世代の指導者の育成）実践することでしょうか！

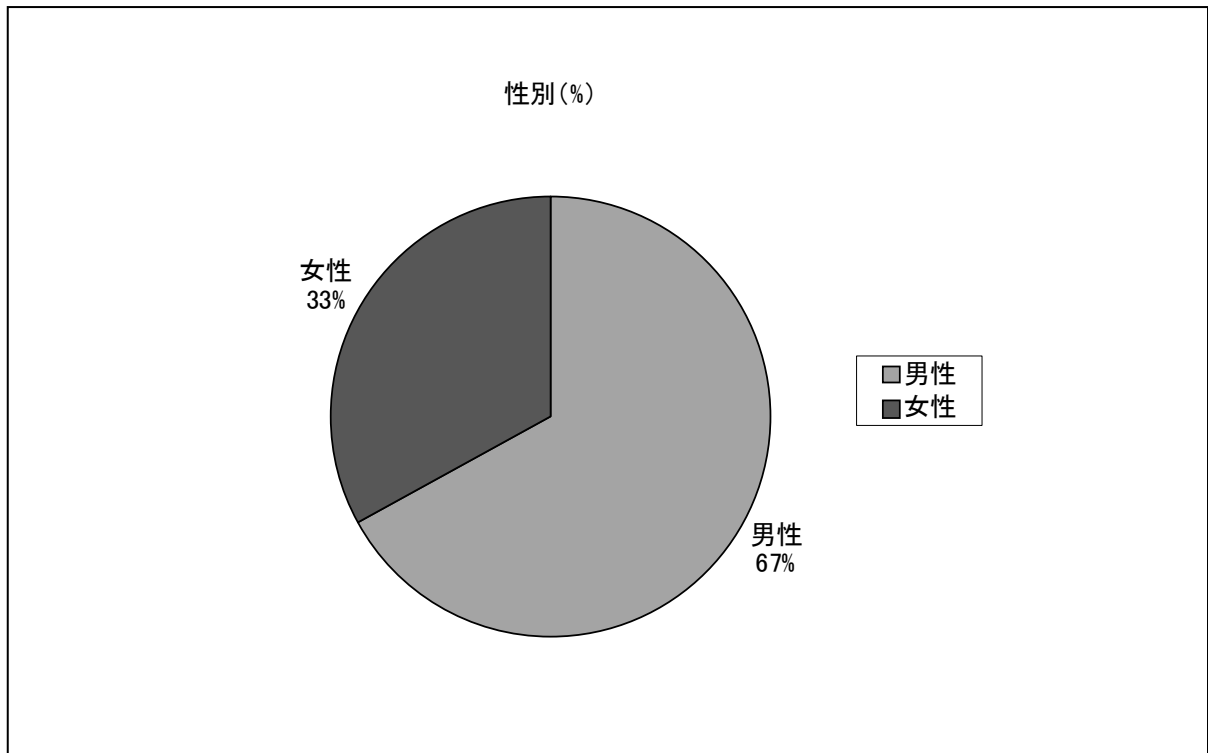
- ・まずシニアネットに加入している人は全国的な組織であることを周知すること。今回初めて参加してわかりました。
- ・シニアネットの信頼を得るために、市役所や地域の医療機関との連携、パンフレットを置く、新聞・市政便りに活動を載せる。
- ・シニア情報生活アドバイザーが地域社会で認知され、活発な活動をしている団体とこれからの団体をつなぐ事業に対する支援。(点から線への更なる拡大。)
- ・シニア情報生活アドバイザーから次のステップ(スキルアップ)に進む資格制度の創設。
- ・高齢化社会の問題。
- ・地域社会における環境問題のネット。
- ・介護施設等で興味のある人に教えるのも一案であり、ユビキタスで地域安全のために使うというのも良いと思いました。
- ・スカイプやWindows Liveの活用を進めていきたい。
ニューメディア開発協会などにメンバー(アドバイザー)が個人で参加できる「掲示板」的なものを作ってください。
- ・ICT仲間づくり、交流活動。
- ・民間企業からのアウトソーシングをさらに増加、安定させるため、全国のNPOを統括するプラットフォームを作るべきだと思います。また、NPO同士の相互連携を強化すべきだと思います。
- ・納得のいく政策提言。
- ・ディスクロージャ。
- ・会員の利益となる方策(企業との協力など)。
- ・シニアネットのことをもっとメディア(TVなど)に取り上げられるとシニアPCの仲間づくりに役立つ。

7. 今後の「シニアネットフォーラム21」で取り上げるべき講演、パネルディスカッション、ケーススタディ等のテーマや、是非聞きたいとお考えの講師の氏名・講演内容等を理由も含めお考えをお聞かせ下さい。

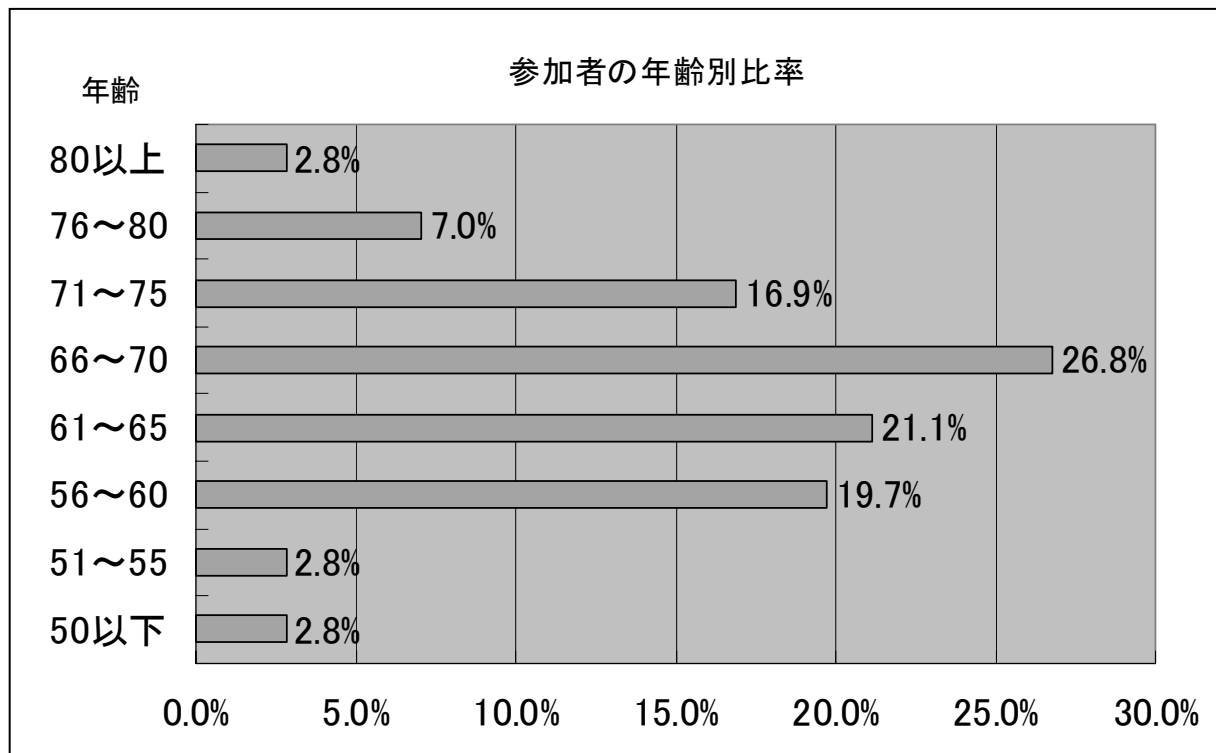
- ・IT社会の将来について、近未来像であっても結構です。
- ・電子自治体の推進、e-Taxの普及など電子社会への対応。地域資源のデジタルコンテンツ化と活用。
- ・社会で活躍中の方の話は参考になります。

参加者データ

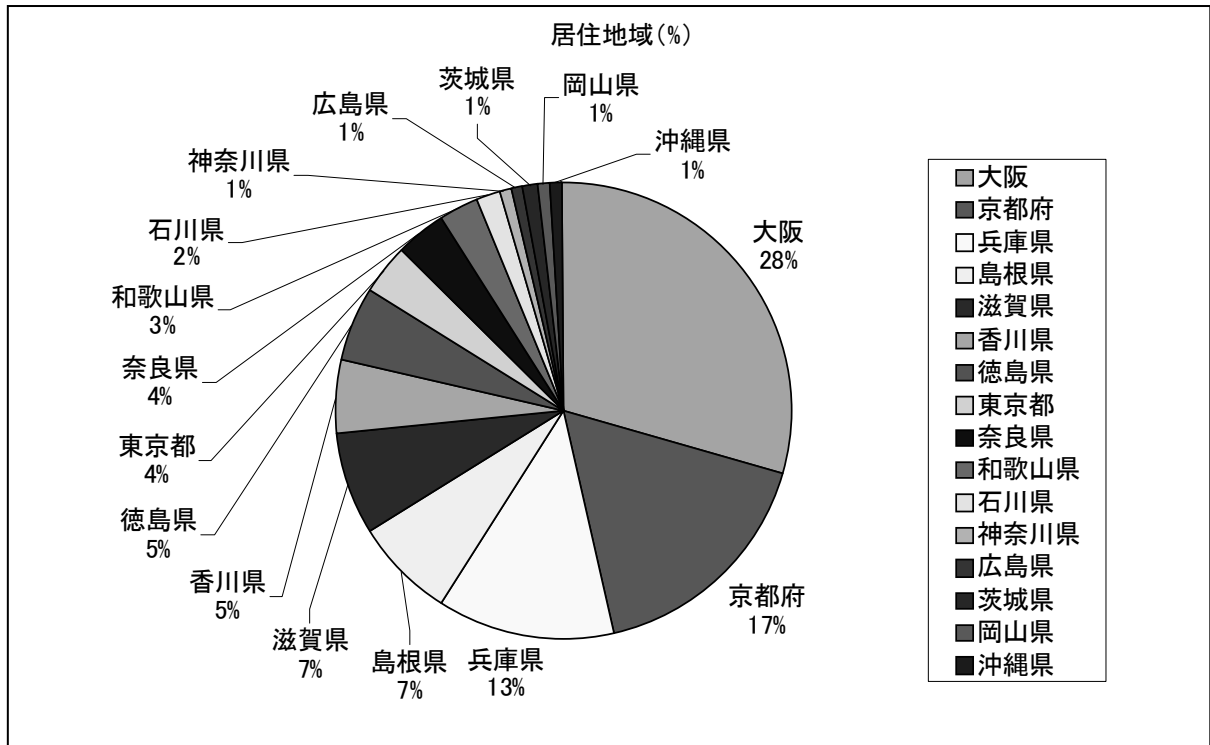
1. 男女比



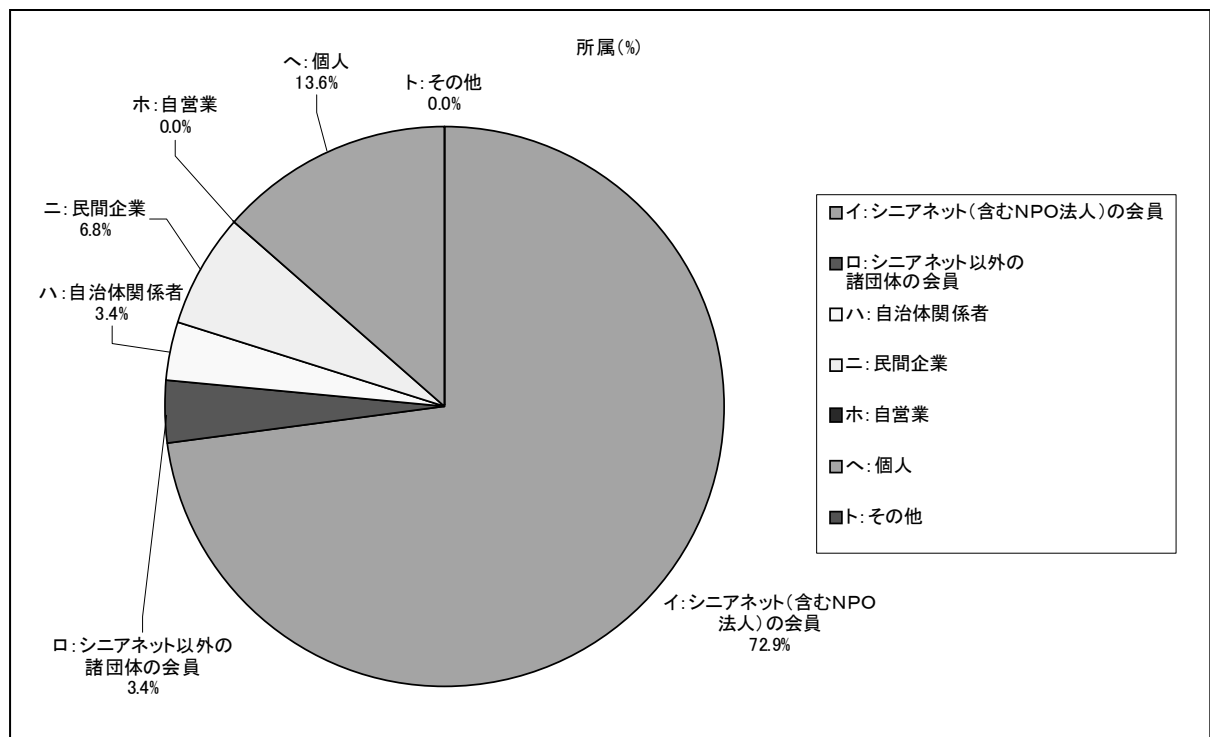
2. 年齢別



3. 住所別



4. 職業別



平成20年度 シニアネット構築研究会
シニアネット・フォーラム21 in 関西

報告書

編集・発行

財団法人 ニューメディア開発協会

〒112-0014 東京都文京区関口1丁目43番5号 新目白ビル6階

発行日 平成21年2月

禁・無断転載 ©財団法人ニューメディア開発協会

